市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－①	青少年国際交流事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)－ア 国際社会、情報社会に対応した教育の推進
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容

町内の青少年リーダーを海外へ派遣し、教育・文化・歴史産業などの視察研修、そして現地の学校への体験入学、ホームステイを実施する。研修を通して国際的視野を広め、国際化時代に対応しうる青少年リーダーの育成を図る。また、参加した青少年達に対して事後活動を定期的に行い、地域で自主的な活動を行えるようサポートする。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,443	3,492	3,500	4,520	
	(b) 予算現額	3,443	3,500	3,500	4,261	
	(c) 増減額 (b-a)	0	8	0	▲ 259	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	3,443	3,500	3,500	4,261	
	B. 執行済額	3,381	3,500	3,500	4,055	
	うち交付金充当額	2,704	2,800	2,800	3,244	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		98.2%	100.0%	100.0%	95.2%	

予算の状況の説明

当初計画していた事業内容はすべて実施した。
活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
交流事業派遣生徒数：10名	目　標	（　10名　）	（　10名　）	（　10名　）	（　10名　）
	実　績	10名	10名	10名	10名
研修後報告会の開催	目　標	（　1回　）	（　1回　）	（　開催　）	（　1回　）
	実　績	1回	1回	1回	1回

達成状況説明

本研修は10日間の日程でカナダで実施した。研修生である中学生10名は4日間のホームスティを体験しながら3日間のミドルスクールへの体験入学に参加した。帰国後は研修報告会を開催することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
報告会の実施などを通した参加者の意識向上。 (内容)アンケート実施。外国語や海外文化、移民への興味を持った生徒の割合　70%を目指す。	目　標	（　）	（意識向上を図る）	（70%）	（　）	（　）
	実　績		意識向上を図った	90%		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

留学や英語で書かれた小説を原文のままで読めるようになりたいなど「外国語への関心」が高まった。漠然としたイメージの海外文化に直に触れた事でもっと知りたいと思うようになったなど「海外文化への関心」も高くなっている。

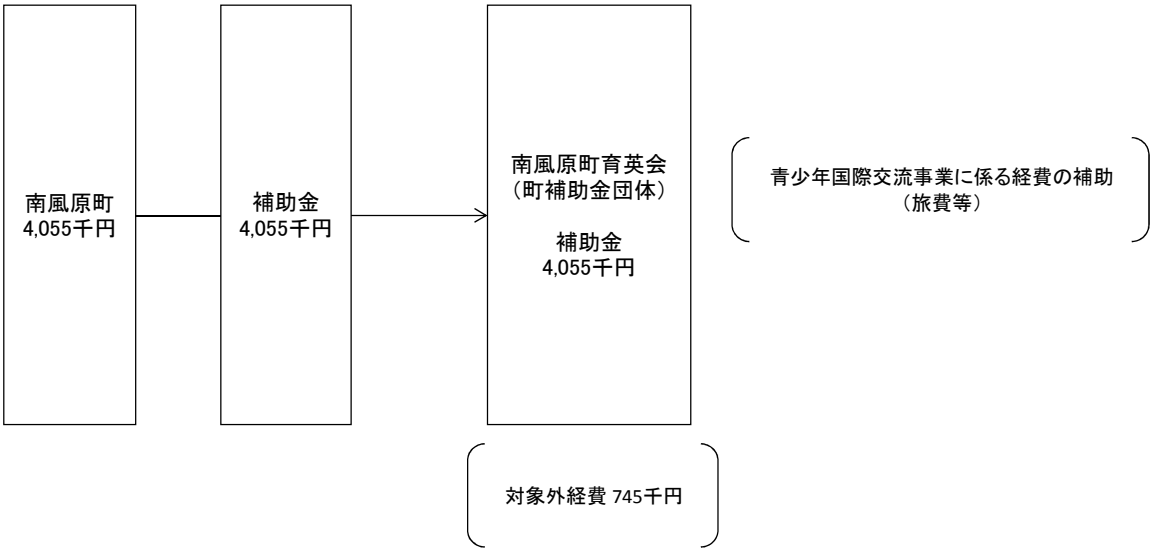
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	外国語や海外文化への興味を持った生徒の割合が90%となり、目標の70%を達成できた。しかし、研修前と研修後では変化はなかったとのアンケート結果もあり、研修内容の再検討が必要である。	事務局の案だけではなく過去に国際交流に参加したOBの意見を聞いたり効果的な研修内容を提言してもらうことにより、より良い研修内容になることが予想される。

今後の取り組み方針

国際交流に参加したOB達の意見を聞きながら研修内容を検討し、効果的な研修を実施することにより生徒の意識変化を図っていきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,800	4,055	3,244	811	745



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○南風原町補助金等交付規則に基づき南風原町育英会に対して支出している。 ○予算規模は、事業に必要な旅費、現地経費、謝礼金を要綱等や見積もりにより、支出しており適正な規模である。 ○受益者の負担については、南風原町青少年国際交流実施要項に基づき実施しており、妥当であったと考えている。経済的負担を緩和する事で経済的な理由で参加を断念する中学生にも事業参加の機会ができると期待される。 ○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-②	小学校英語指導助手配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－（4）－ア 国際社会、情報社会に対応した教育の推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	小学生のうちから英会話に触れさせ、外国の言語や文化について興味を持たせ英語力を向上させる為、外国語に精通した日本人を各小学校に配置する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,800	7,200	7,200	7,200	
	(b) 予算現額	4,800	7,200	7,200	7,200	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	
	(d) 繰越額	―	―	―	―	
	A. 計 (b+d)	4,800	7,200	7,200	7,200	
B. 執行済額		4,800	7,200	7,087	7,050	
うち交付金充当額		3,840	5,760	5,669	5,640	
次年度繰越額		－	－	－	－	
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	98.4%	97.9%	
予算の状況の説明		小学校英語指導助手は、嘱託職員として採用しており、月15万円報酬（固定給）である。1名が1ヶ月休職したため、執行率が97.9%ととなった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
小学校英語指導助手配置数：4人	目　標	（　4人　）	（　4人　）	（　4人　）	（　4人　）
	実　績	4人	4人	4人	4人
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明	
	町内小学校4校全てに英語指導助手を配置することができた。配置することにより、小学校英語のカリキュラムを達成できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		24年度	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
英語を話す児童の割合60%以上（アンケート）	目　標	（　　）	（　60%以上　）	（　60%以上　）	（　60%以上）	（　　）
	実　績		92%	61.50%	80%	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明	
	平成24年度は小学校英語指導助手を配置することが成果目標であったが、配置が実現したため、平成25年度からアンケート結果を成果目標とした。27年度は恥ずかしがらずに英語を話す児童の割合は80%となり達成できた。次年度以降も指導助手を配置し児童の英語力の向上に努める。

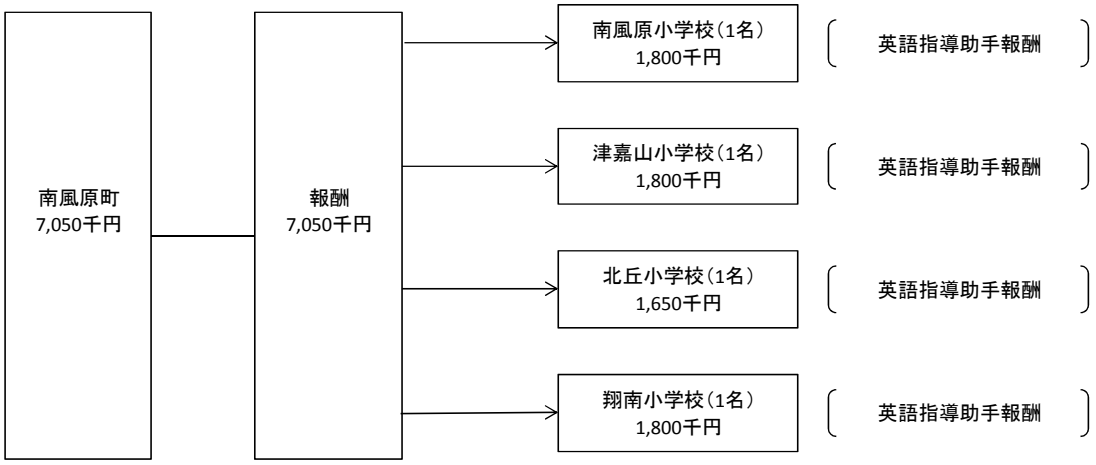
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・町内小学校4校全てに英語指導助手を配置したことで、活動目標・成果目標は達成された。 ・今後小学校英語活動は小学校中学年（3・4年生）も必修科目になることが見込まれる。又高学年（5・6年生）は英語活動から教科化する可能性が高い。	・中学校外国人英語指導助手や教育委員会と連携し、中学校英語に抵抗なく移行できるよう、指導助手の交流研修をする。 ・恥ずかしがらずに英語を話せる児童が半数以上なので、自信を持って話せるよう工夫改善する。 ・今後の文部科学省の小学校英語に関する動向を注視していく。

今後の取り組み方針

・今後も引き続き小学校4校に英語指導助手を配置し、進んで英語を話す児童が増えるよう活動内容を改善する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,050	7,050	5,640	1,410	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は採用前に面接を行い、資格や発音が正確な助手を採用しており選定方法は妥当である。 ○学校の授業規模にあった配置を行っており、予算規模は適正である。 ○費目使途が事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-③	学力調査等事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	学力が低い沖縄県において、本町を担う児童生徒の学力向上に向け、個々の児童生徒の学力、課題を把握するため学力調査等を行う。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,478	2,632	2,758	4,004	
	(b) 予算現額	2,478	2,632	3,724	4,004	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	966	0	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	2,478	2,632	3,724	4,004	
	B. 執行済額	2,469	2,574	3,617	3,722	
	うち交付金充当額	1,975	2,059	2,893	2,977	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		99.6%	97.8%	97.1%	93.0%	

予算の状況の説明：事業について、町内各小中学校(小学校：4校、中学校：2校)に学力調査を実施し、適正な予算執行を行った。
執行時点での対象児童生徒数減や一部単価減により不用額が生じたが、計画していた事業内容はすべて実施した。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
標準学力調査の実施 小学校4校中4校（国語・算数・5年生理科） 中学校2校中2校 （国語・数学・理科・社会・英語）	目　標	（小学校4校中4校 中学校2校中2校）	（小学校4校中4校 中学校2校中2校）	（小学校4校中4校 中学校2校中2校）	（小学校4校中4校 中学校2校中2校）
	実　績	小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：・標準学力調査を、目標の小学校4校中4校、中学校2校中2校で実施できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
調査結果を基に実態把握し指導 調査結果を基にきめ細やかな指導に向けた個々の児童生徒の学力実態の把握	目　標	（　）	（学力実態の把握と指導）	（　）	（　）	（　）
	実　績		個々の学力実態の把握と指導			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：標準学力調査を実施したことで、個々の学力を把握することができ、児童生徒へきめ細やかな指導ができた。
【小学校】 目標値を達成した科目：12教科（前年9教科）。目標値を達成し、かつ全国平均を上回った科目：10教科（前年3教科）。
【中学校】 目標値を達成した科目：2教科（前年1教科）。目標値を達成し、かつ全国平均を上回った科目：1教科（前年1教科）。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	児童生徒の学力向上のため、各教科の目標値を設定し実施した。今後、目標値を達成できなかった教科については、対策を検討し、再度個々の学力に合わせたきめ細かな指導が課題。 県が実施するWebテストと時期が重なり、学校が対応に苦慮した。	目標値を達成できなかった教科の結果を経年的に分析し検証を行っていく必要がある。その他の教科についても継続的に放課後補習等取り入れ学力向上に向け児童生徒にあったきめ細かな指導をしていく。 実施時期については、学力向上企画委員会などで調整し、スムーズな取組みができるよう取り組む。

今後の取り組み方針

今後、個別復習教材の活用や放課後補習等で、個々の児童生徒を指導していくことで学力向上につなげていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,722	3,722	2,977	745	0

南風原町
3,722千円
→ 委託料
3,722千円
→ 株式会社　学友館
3,722千円
（標準学力調査にかかる委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○県内で採用している市町村が多く学力の比較がしやすいため随契としている。 ○事業内容に基づく事業執行を行っているため、予算規模は適正であると判断する。 ○費目、使途については、委託料として1教科に対しての受験者数、一人当たりの契約金額と受験者数の支出であることから適切である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-④	学習支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－ア 確かな学力を身に付ける教育の推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	南風原町児童生徒の学力向上に向け、通常の授業ではついて行けない児童生徒に対し学習支援員を配置し、授業の理解を深める。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	8,523	13,374	15,360	26,880	
	(b) 予算現額	8,523	11,382	17,120	28,480	
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 1,992	1,760	1,600	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	8,523	11,382	17,120	28,480	
B. 執行済額		7,411	10,265	16,480	27,771	
うち交付金充当額		5,928	8,212	13,184	22,216	
次年度繰越額		－	－	－	－	
執行率（%）(B/A)		87.0%	90.2%	96.3%	97.5%	

予算の状況の説明：小学校の学習支援員を4名、中学校の学習支援員を2名増員したため執行額が前年度比11,291千円の増額となった。計画していた事業内容はすべて実施したほか、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと思慮する。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
学習支援員配置数（小学校9人、中学校6人）	目　標	（小学校5人・中学校4人）	（小学校5人・中学校4人）	（小学校5人・中学校4人）	（小学校9人・中学校6人）
	実　績	小学校5人・中学校4人	小学校4人・中学校4人	小学校5人・中学校4人	小学校9人・中学校6人
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：町内小中学校すべてに学習支援員を配置することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（24年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
標準学力調査全国平均標準スコアとの差	目　標	（　）	【小学校】 (1年)0 (2年)0 (3年)-0.3 (4年)-1.0 (5年)-1.8 (6年)-2.1 【中学校】 (1年)-6.1 (2年)-5.0 (3年)-1.8			（　）
	実　績		【小学校】 (1年)1.3 (2年)2.3 (3年)2.7 (4年)2.6 (5年)-2.7 (6年)2.1 【中学校】 (1年)-8.975 (2年)-8.42 (3年)-4.14			
	目　標					
	実　績					

進捗状況説明：平成27年度は標準学力調査の全国平均スコアとの差をなくすことを目標とした。小学校は5年生を除いて目標を達成しているが、中学校ではすべての学年で未達となっている。また小学校においては、算数は全学年全国平均スコアをクリアしている。中学校は全学年が全科目で全国平均スコアとの差がみられる。次年度以降も全小中学校に配置し、基礎学力の向上・全国平均スコアへのキャッチアップを図る。

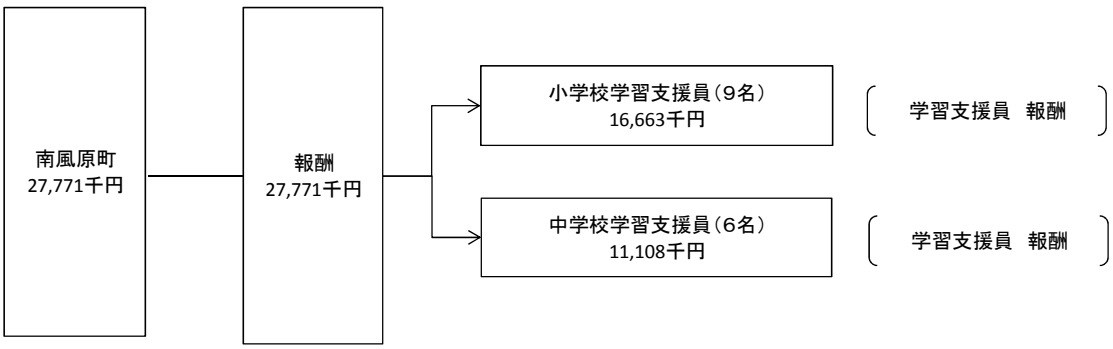
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	町内の全小・中学校に学習支援員を配置するこができ、授業環境は改善していると思われるが、さらにきめ細かい指導をするために教材研究の時間確保が必要。	・南風原町の基礎学力向上のために学習支援員の教材研究の時間を確保していく。 ・小学校は理科が全国平均スコアとの差が−7.3ポイントあるため、原因の分析・対応に努める。 ・中学校数学が他の教科と比べても全国平均スコアとのポイント差が大きくなっているので、今後、Webテストの活用等を図り正答率の改善に努める。

今後の取り組み方針

・引き続き全小中学校に学習支援員を配置し、基礎学力向上に努める。
・今後小中学校に学習支援員を維持し、算数・数学・理科（理数科）の学力向上に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
27,773	27,771	22,216	5,555	2



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○学習支援員の選定は、採用前に面接を行い、資格や教職経験等を考慮して採用しており妥当である。 ○学校の授業規模にあった配置を行っており、予算規模は適正である。 ○費目使途が事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払っており適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－⑤	特別支援教育支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－（3）－イ 豊かな心とたくましい体を育む教育の推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	児童生徒の総合的な学力向上を目的として、教室内で授業中に全体の指導についていけない子ども（学習障害者や注意欠陥多動性障害者など学習や生活面の特別な教育的補助を必要とする児童生徒）の個別指導や授業外の補習、円滑に学習を行うためのサポート（介助や安全確保）などを教師と連携して行う補助員を配置する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	16,586	49,234	59,536	78,379	
	(b) 予算現額	16,586	51,364	50,790	78,379	
	(c) 増減額 (b-a)	0	2,130	▲ 8,746	0	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	16,586	51,364	50,790	78,379	
B. 執行済額		9,940	49,643	46,738	58,991	
うち交付金充当額		7,952	39,714	37,390	47,192	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		59.9%	96.6%	92.0%	75.3%	
予算の状況の説明		全校への特別支援教育補助員配置は目標達成したが、中途退職・中途採用があったため執行率は75．3%となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
特別支援教育補助員配置数	目　標	（幼稚園13名・小学校24名・中学校3名）	（幼稚園5名・小学校24名・中学校3名）	（幼稚園8名・小学校31名・中学校6名）	（幼稚園12名・小学校33名・中学校6名）
	実　績	（幼稚園14名・小学校25名・中学校4名）	（幼稚園9名・小学校35名・中学校6名）	（幼稚園6名・小学校31名・代替員4名・中学校5名）	（幼稚園11名・小学校33名・中学校6名）
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：町内小中学校には目標人数の配置ができたが、幼稚園については支援対象児の退園等で配置の必要がない期間や募集を行ったが応募する方がいない期間があったため、目標人数に対し1名欠員の状態が続いてしまった。
特別な支援を必要とする児童生徒が増加はしたものの、特別支援員全体としては前年より4名増員できたことで、よりきめ細かい支援ができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
標準学力調査全国平均標準スコアとの差	目　標	（　）	【小学校】 （1年）0　（2年）0 （3年）-0.3　（4年）-1.0 （5年）-1.8　（6年）-2.1 【中学校】 （1年）-6.1　（2年）-5.0 （3年）-1.8	（　）	（　）	（　）
	実　績		【小学校】 （1年）1.3　（2年）2.3 （3年）2.7　（4年）2.6 （5年）-2.7　（6年）2.1 【中学校】 （1年）-8.975　（2年）-8.42 （3年）-4.14			

進捗状況説明：平成27年度は標準学力調査の全国平均スコアとの差をなくすことを目標とした。小学校は5年生を除いて目標を達成しているが、中学校ではすべての学年で未達となっている。また小学校においては、算数は全学年全国平均スコアをクリアしている。中学校は全学年が全科目で全国平均スコアとの差がみられる。次年度以降も全小中学校に配置し、基礎学力の向上・全国平均スコアへのキャッチアップを図る。

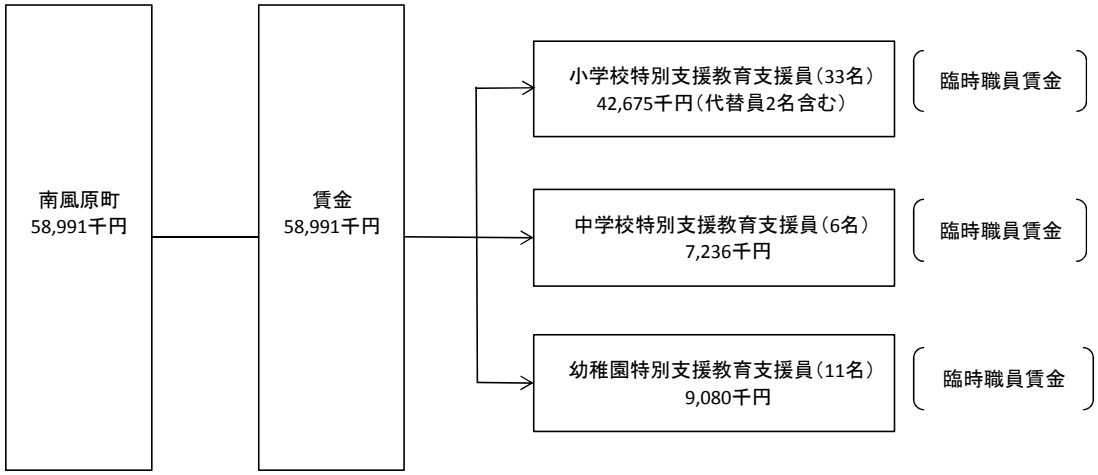
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成27年度幼稚園小中学校全校に特別支援教育支援員を配置するこができ、授業環境は改善し標準学力は目標を達成できる学年も増えてきた。 しかし、児童生徒の発達の違いにより支援方法も異なるため、支援方法のマニュアル化が困難であることが顕在化した。臨機応変に対応できるよう、支援員の更なる質の向上が必要となっている。 ・より良い支援を行えるよう支援員の心理的負担軽減を図る必要がある。	・年度当初と、夏期休業、年度末に研修（講演会等）を行い支援員の質の向上に努める。 ・児童生徒の発達に合った支援員のきめ細かい配置を実施・検証し、無駄のない事業の執行をする。 ・より良い授業環境づくりができるよう支援員の配置転換検討、支援員や学校長およびコーディネーター等と面談・聞き取り調査等を行う。

今後の取り組み方針

夏休み期間中に、幼小中合同で2回研修を開催する。具体的には、他市町村教育委員会と合同で、座学やワークショップを行う。
発達支援心理士と担当職員が学校現場で情報を収集し、効率のよい支援員の配置に努めると同時に、支援員の資質向上を行っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
58,991	58,991	47,192	11,799	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており選定方法は妥当である。 ○学校現場での需要にあった配置を行っており、予算規模は適正である。 ○費目使途が事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑥	学校ICT推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－ア 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	学校においてパソコン等機器を充実させ、わかりやすい授業を行うことで、教育の質の向上を図り、学力向上やより良い人材の育成を行うための環境を整備する。また、ICT機器を活用した魅力ある授業を支援するため、ICT支援員を配置する。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	27,480	17,640	91,477	54,074	
	(b) 予算現額	25,520	124,971	89,800	56,653	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,960	107,331	▲ 1,677	2,579	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	25,520	124,971	89,800	56,653	
B. 執行済額		25,520	124,971	89,800	56,477	
うち交付金充当額		20,416	99,976	71,840	45,181	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	99.7%	
予算の状況の説明		・電子黒板や書画カメラ、タブレットPC（特別支援クラス用）、デジタル教科書といったICT機器を整備した。ICT機器を十分に活用できるようICT支援員を配置した。H27年度に計画していた事業内容はすべて実施した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
電子黒板(理科室、少人数教室) 小学校10台、中学校9台	目　標	（22台）	（104台）	（－）	（小学校：10台 中学校：9台）
	実　績	22台	104台	－	小学校：10台　中学校：9台
書画カメラ 小学校24台（6学年×4校） 中学校12台（3学年×2台×2校）	目　標	（－）	（－）	（－）	（小学校：24台 中学校：12台）
	実　績	－	－	－	小学校：24台　中学校：12台
タブレットPC 小学校72式 中学校20式	目　標	（－）	（－）	（－）	（小学校：72式 中学校：20式）
	実　績	－	－	－	小学校：72式　中学校：20式
デジタル教科書 中学校2校 小学校4校	目　標	（－）	（－）	（－）	（中学校2校 小学校4校）
	実　績	－	－	－	中学校2校　小学校4校
ICT支援員　3名	目　標	（－）	（2名）	（3名）	（3名）
	実　績	－	2名	3名	3名

達成状況説明

H27年度に計画していた事業内容はすべて実施した。
【ICT機器】 書画カメラ36台やタブレットPC（特別支援クラス用）92台を整備した。
【ICT支援員】 3名配置した。
【電子黒板】 特別教室に19台整備した。
【デジタル教科書】 小学校：教科書改訂に伴い24件整備した。 中学校：教科書改訂に伴い16件整備した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
標準学力調査全国平均標準スコアとの差	目　標	－	【小学校】 （1年）0　（2年）0 （3年）-0.3　（4年）-1.0 （5年）-1.8　（6年）-2.1 【中学校】 （1年）-6.1　（2年）-5.0 （3年）-1.8			－
	実　績		【小学校】 （1年）1.3　（2年）2.3 （3年）2.7　（4年）2.6 （5年）-2.7　（6年）2.1 【中学校】 （1年）-8.975　（2年）-8.42 （3年）-4.14			

進捗状況説明

指標としている標準学力調査の全国平均標準スコアとの比較において、小学校1年～4年及び6年で目標を達成することができ、ICT機器の活用やICT支援員の配置によってわかりやすく魅力ある授業を行い、教育の質や学力の向上に繋げることができた。

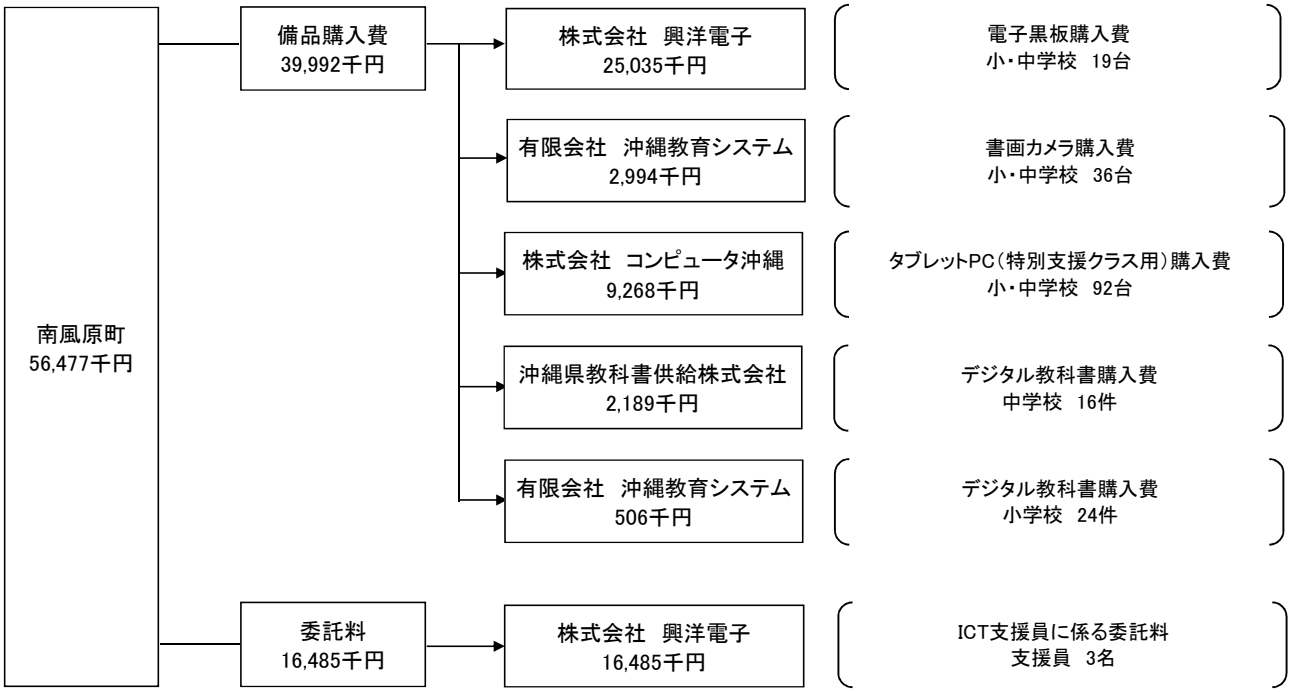
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	電子黒板について、音楽や体育、家庭科等の普通教室以外での授業、及び特別支援クラスにおいて導入の要望が増えてきている。又、タブレットPCを授業で活用したいとの要望も増えてきている。	電子黒板について、普通教室以外での授業や特別支援クラスでもスムーズに活用できるよう、利用方法について確認を行いながら導入を検討していく。タブレットPCについても、児童・生徒個別の特性に合わせたきめ細やかな指導やグループ学習等、子ども同士の学び合いの場で活用することにより、よりよい授業づくりに役立てるため、導入を継続して検討していく必要がある。

今後の取り組み方針

・音楽や体育、家庭科等の授業や特別支援クラスに電子黒板の導入を検討していく。
・タブレットPCの導入を検討していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
56,477	56,477	45,181	11,296	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○県内で沖縄県教科書供給株式会社のみ取扱いの備品を除き、実績又は県内で取扱い可能な事業者を選定し、指名競争入札を行っており、選定方法は妥当であった。 ○事業内容に基づき予算を執行しており、また支出先の選定も上述のとおり妥当であったことから、予算規模は適正な規模であった。 ○購入した備品は、事業内容に記載した、教育の質向上により児童・生徒の学力向上を図るためのものであり、費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－⑦	児童生徒健全育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－（3）－イ 豊かな心とたくましい体を育む教育の推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	怠学や問題行動･暴力行為等の不登校生徒の居場所として自立支援教室を設置、専任の指導員を配置し、よりきめ細やかな対応、均等な学習指導を行う。また、怠学等の児童生徒の校外指導を行うため校外指導員を配置する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	25年度	25年度（繰越）	26年度	27年度	28年度
予算の状況 (a) 当初予算額	6,933	－	6,144	6,144	
予算の状況 (b) 予算現額	17,936	－	5,444	6,144	
予算の状況 (c) 増減額(b-a)	11,003	－	▲ 700	0	
予算の状況 (d) 繰越額	－	6,911	－	－	
予算の状況 A. 計(b+d)	17,936	6,911	5,444	6,144	
B. 執行済額	10,566	6,911	5,342	5,820	
うち交付金充当額	8,453	5,528	4,273	4,655	
次年度繰越額	6,911	0	0	0	
執行率（%）(B/A)	58.9%	100.0%	98.1%	94.7%	

予算の状況の説明：当初予算の計画どおりにほぼ執行執行することができたが、途中自立支援教室指導員が1名退職し不在の月が1月あったため不用額が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
自立支援教室指導員（中学校） 2人	目　標	（　2人　）	（　2人　）	（　2人　）	（　2人　）
	実　績	2人	2人	2人	2人
生徒校外指導（中学校） 6人	目　標	（　3人　）	（　6人　）	（　6人　）	（　6人　）
	実　績	3人	6人	6人	6人

達成状況説明：自立支援教室指導員（中学校2人）、生徒校外指導員（中学校6人）を設置し、事業運営することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	29年度	30年度	目標値（　年度）
･怠学の原因を究明分析し、学校･福祉分野･地域との連携した結果を報告する。（連携事業の報告）	目　標	（　）	（　報告済　）			（　－　）
	実　績		報告済			
･自立支援教室指導員･教育相談員等にアンケートを実施し、「生活態度や登校日数が改善された」との回答を60%にする。	目　標	（　）	（　60%　）			（　－　）
	実　績		100%			

進捗状況説明：27年度は登校支援全体会議で学校･福祉機関･地域（民生委員等）と連携した活動報告を行った。相談支援に関わった児童生徒は生活態度の改善や、登校日数の改善が見られた。

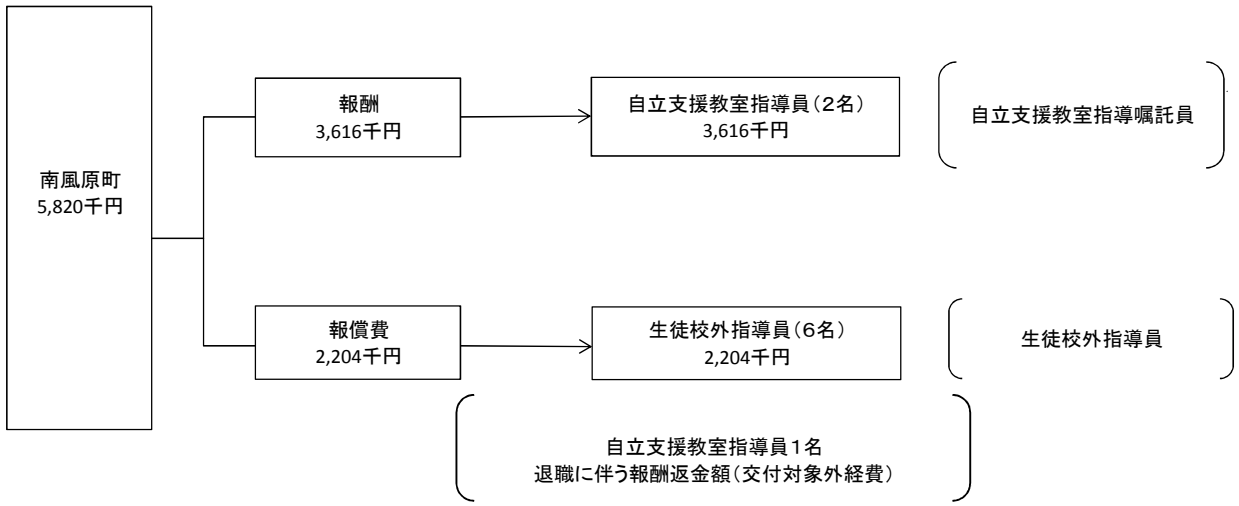
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・不登校ぎみ・怠学ぎみの生徒の登校支援・生活指導・学習支援を実施し登校日数の改善に努めた結果、学校復帰や部分登校が見られた。 ・怠学ぎみの生徒は関係機関と連携し、農業体験等を実施した。 ・登校支援委員会・サポート会議を開催した。	自立支援教室指導員や校外指導員の研修や情報共有、連絡会を通じた教育相談の質の向上が必要である。

今後の取り組み方針

研修の参加や関係機関との会議を通し、情報共有と意見交換し、支援の質の向上と不登校児童生徒の登校復帰に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,823	5,820	4,655	1,165	3



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○自立支援教室指導嘱託員、生徒校外指導員の選定は、採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており妥当である。 ○予算規模は各中学校に自立支援教室指導員1名・生徒校外指導員3名配置し適正であった。 ○費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－⑧	教育相談支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－（1）－イ 家庭・地域の教育機能の充実
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	不登校または不登校傾向にある児童生徒や、子どもへの対応に悩みを持つ保護者に対する支援を充実させるため、教育相談員などを小中学校に配置する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,310	3,960	8,367	8,942	
	(b) 予算現額	2,310	3,434	7,283	7,708	
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 526	▲ 1,084	▲ 1,234	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	2,310	3,434	7,283	7,708	
B. 執行済額		1,983	3,103	6,894	7,449	
うち交付金充当額		1,586	2,482	5,515	5,959	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		85.8%	90.4%	94.7%	96.6%	
予算の状況の説明		心の教室相談員の勤務日数を予算見積時より実績は減少すると予測したため、年度途中で減額した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・町教育相談員配置数：１人 ・心の教室相談員配置数：４人 ・発達支援心理士配置数：１人	目　標	（　配置　）	（　配置　）	（　配置　）	（　配置　）
	実　績	配置	配置	配置	配置
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				
達成状況説明	町内の小中学校に教育相談員を配置し児童生徒・保護者・教職員への指導助言を行った。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
怠学の原因を究明分析し、学校・福祉分野・地域との連携した結果を報告する。（連携事業の報告）	目　標	（　　）	（　報告済　）			
	実　績		報告済			
自立支援教室指導員・教育相談員等にアンケートを実施し、「生活態度や登校日数が改善された」との回答を60%にする。	目　標	（　　）	（　60%　）			
	実　績		100%			
進捗状況説明	27年度は登校支援全体会議で学校・福祉機関・地域（民生委員等）と連携した活動報告を行った。 アンケート結果により相談支援に関わった児童生徒は生活態度の改善や、登校日数の改善が見られた。他機関と連携し不登校児童生徒の削減に努めた。					

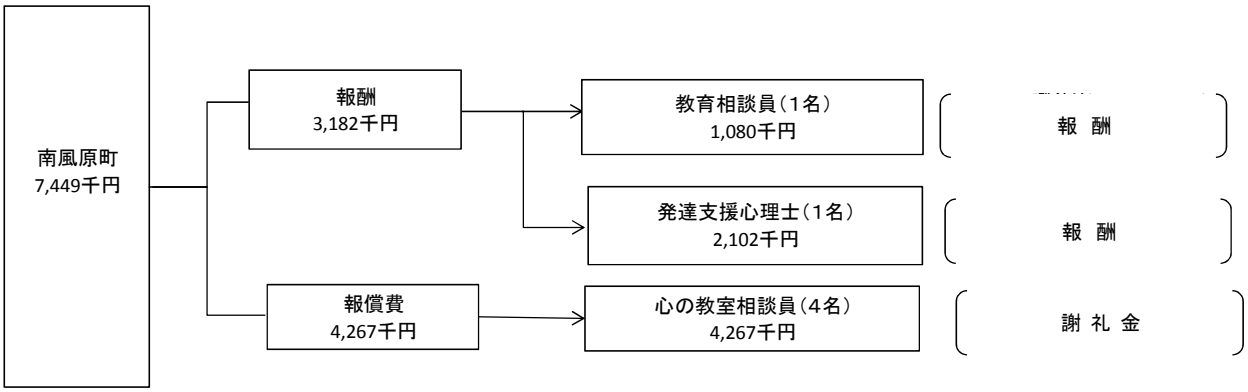
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（町教育相談員） 相談員・教職員への適切な指導助言により、相談支援事業が円滑になった。 （心の教室相談員） 教育相談と登校支援を兼ねることにより不登校児童生徒・保護者を支援した。 （発達支援心理士） 発達の気になる児童生徒に対し、学校現場や相談、検査等を実施し児童生徒の実態に合った支援をアドバイスすることができた。 ※推進上の問題 ・学校現場では県が配置するスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・アシスト相談員等の連携を強化した。それに伴い情報共有・整理する場が必要であったが、27年度は共有する機会が、個々の支援会議のみであった。 ・また県配置の相談員等との、支援方法の棲み分けが課題となっている。	・今後の対応として県配置の相談員等も含めた会議を定期的に開催し、情報共有・整理する場を設ける。 ・上記の会議を開催し、情報共有と連携を強化することで、支援の重複が無いようにする。

今後の取り組み方針

28年度からは、県配置の相談員等（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・アシスト相談員）との連絡会議を毎月開催し、情報共有と連携を強化することで支援の重複が無いようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,449	7,449	5,959	1,490	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○教育相談員、発達支援心理士、心の教室相談員の選定は、採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており妥当である。 ○事業目達成に必要な金額のみ支出しており、予算規模も適正であった。 ○費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－⑨	中学校外国人英語指導助手配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－（4）－ア 国際社会、情報社会に対応した教育の推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容	中学校英語教育の充実と国際理解教育推進に資するため、外国人英語指導員を中学校へ派遣する。
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,205	3,780	3,780	3,780	
	(b) 予算現額	2,205	3,780	3,780	3,780	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	2,205	3,780	3,780	3,780	
B. 執行済額		2,205	3,780	3,780	3,730	
うち交付金充当額		1,764	3,024	3,024	2,984	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	98.7%	
予算の状況の説明		中学校外国人英語指導助手の出勤時間数減により執行率は100%とならなかったが、活動目標、成果目標の達成状況を鑑み、適正であったと考えている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・外国人英語指導助手配置数：1人	目　標	（1人）	（1人）	（1人）	（1人）
	実　績	1人	1人	1人	1人
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	目標のとおり配置することでき、外国人によるネイティブ英語の授業を展開することができた。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		24年度	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
標準学力調査全国平均標準スコアとの差	目　標	（　）	（【中学校】（2年）H26 -5.8 →H27 -5.7（3年）H26 -3.1 →H27 -3.0）	（　）	（　）	（　）
	実　績		（【中学校】（2年）H26 -5.8 →H27 -11.0（3年）H26 -3.1 → H27 -9.3）	（　）	（　）	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	全中学校に外国人英語指導助手を配置したが、標準学力調査全国平均標準スコアとの差が2年生で-11.0、3年生でも-9.3あり、目標と大きく乖離している。次年度以降も中学校に配置し、基礎学力向上に努める。 今回成果目標を達成できなかったのは、通常授業との相乗効果が弱かったものと考える。標準学力調査の結果から、「聞くこと」「読むこと」に比べて「書くこと」のスコアが2年・3年ともに特に低かったことから、「書くこと」を克服できるよう通常授業の再構築を英語担当教諭も含めて取り組む。又、「聞くこと」「話すこと」についても、生の英語を聞くことで基礎力向上が期待できることから、今後も引き続き外国人英語指導助手を配置し、通常授業をより充実させ、英語の学力向上に努めたい。					

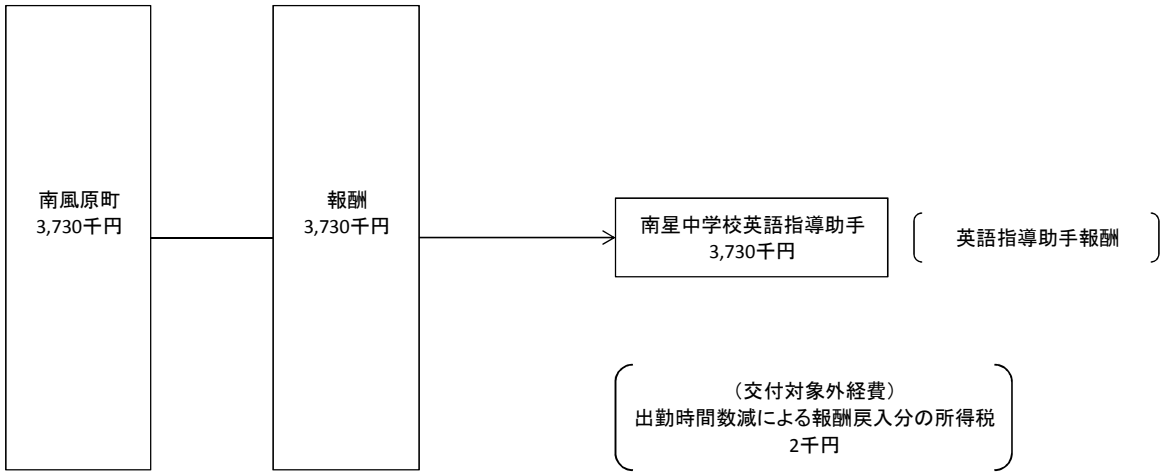
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	国際社会に対応できる人材を育成するため外国人英語指導助手を配置し、英語の苦手意識をなくすよう、楽しい授業を展開したが、未だに英会話を苦手としている生徒がいるため、外国人英語指導助手とともに授業研究を進めていく。	小学校英語指導助手との連携を密にし、小学校英語から中学校英語へ、抵抗なく移行するようにし、生徒が英会話に対し苦手意識を持たせないようにする。

今後の取り組み方針

今後も引き続き、外国人英語指導助手を配置し、小学校英語指導助手との連携を密にし、小学校英語から中学校英語へ、抵抗なく移行するようにし、生徒が英会話に対し苦手意識を持たせないようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,732	3,730	2,984	746	2



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており選定方法は妥当である。 ○学校の授業規模にあった配置を行っており、予算規模は適正である。 ○費目使途が事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑩	南風原町青年海外派遣事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－4－（1）－イ 世界と共生する社会の形成
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（1）

事業内容

本町の青年達を、特に移民先の南米やハワイへ派遣し、町人会や移民の次世代の青年たちとの交流を深める。言語、文化理解をはじめ、移民の歴史や現在の状況、世界のあらゆる動きの中で同じ町の人として励まし合い、助け合う繋がりを構築できる人材を育成する。その成果を今後の町の将来を担うリーダーとしての自覚を持って活動をしてもらう。

実施方法

■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,730	1,700	2,195		
	(b) 予算現額	1,730	1,700	2,046		
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 149		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	1,730	1,286	2,046		
B. 執行済額		1,703	1,203	1,920		
うち交付金充当額		1,362	962	1,536		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		98.4%	93.5%	93.8%		

予算の状況の説明

予算額が149千円の減となっているが、計画段階の旅費予定額よりも下回った事による減となっている。
当初計画していた事業内容はすべて実施したほか、活動目標、成果目標の達成状況を鑑み、適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
・南米への青年派遣：2人	目　標	（　2人　）	（　2人　）	（　2人　）	（　　）
	実　績	2人	2人	2人	
・南風原町人会、海外移住者子弟研修生OBとの交流	目　標	（　　）	（　　）	（ 交流会の開催 ）	（　　）
	実　績			交流会の開催	
・帰国後、報告会の開催	目　標	（　　）	（　　）	（ 報告会の開催 ）	（　　）
	実　績			報告会の開催	

達成状況説明

・予定通り、南米（ブラジル・アルゼンチン・ペルー）へ2人を派遣し、町人会のメンバーや、南風原での受入研修生OBたちとの交流を深めることができた。沖縄から町長や関係者のビデオレターを届けることで、研修先でより身近に南風原町を感じさせることが出来、研修生たちは、移民先と南風原町の橋渡しの役割を果たすことができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
研修後、派遣者に対してアンケートを実施・派遣後、移民史や海外の沖縄人の生活に興味を持った：100%	目　標	（　　）	（ 100% ）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		100%			
研修後、派遣者に対してアンケートを実施・研修後、自分のコミュニケーション能力が高まったと思う：70%	目　標	（　　）	（ 70% ）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		100%			

進捗状況説明

研修後のアンケートの結果は良好で、「沖縄で学んだことや聞いてたことが、研修に行く前よりも、身近に感じることができた。これからもっと深いところで繋がれる関係になれたら、交流が発展していくと思う」「沖縄を離れてちがう土地でも沖縄や日本を大切にしていて屋台で沖縄の料理を出したり、日本料理の勉強したり、方言を大切に思い方言で会話したりする姿を直で見ることができ興味を持った」、「もともとスペイン語や人と関わることが好きなので、研修を通してのコミュニケーション能力は以前と変化していないように思います。しかし、研修での出逢いや繋がりのおかげで、経験を他の人に話す機会や話題を広げることができていると感じる」「伝えたいことをなるべく簡潔にわかりやすく伝えることと、言葉がちがっても頑張って伝えれば通じることもあったから自信がついた」などの意見があった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・青年研修生派遣は、受け入れ側のニーズを配慮し、相談の上計画し、負担にならずむしろ役に立つ内容を積極的に取り組む必要がある。 ・研修後、研修生たちが体験した経験や知り合った県人会ネットワークを活用する必要がある。	・計画の段階で、連絡を密にし、お互いの課題や提案を相談、調整する。 ・南米研修は3カ国を回るため、スケジュールが密になりがちなため、事前計画は連携を取りながら行う。 ・目的を持った節目のイベントや、研修先の若者たちと協力した取り組みや事業を検討する。

今後の取り組み方針

・本町の青年達を移民先の南米3カ国（ブラジル・アルゼンチン・ペルー）へ派遣し、南風原町が受け入れた研修生OBや町人会の人たちに会い、ワークショップや、施設めぐり、文化財めぐり、各種イベントへの参加を通して理解を深めるための具体的な活動を一緒に検討する。
・研修を終えた青年たちの具体的な活動の機会を作る。
・目的意識をはっきりさせ、役割分担をする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,920	1,920	1,536	384	0

南風原町 1,920千円 → 補助金及び交付金 1,920千円 → 青年海外派遣研修生2人 1,920千円

青年海外研修生派遣事業にかかる旅費、宿泊費、研修費等の経費

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○青年海外派遣研修生は、公募し書類審査、面接試験を経て決定し事前学習を重ねるなど、選定方法は妥当である。 ○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。 ○受益者との負担関係については、実施要綱に基づき自己負担をを徴収しており妥当である。 ○費目・使途が事業目的に即している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑪	南風原町各種大会派遣支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－（4）－イ 能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（1）
事業内容	小・中学校の児童生徒が、県外で開催される運動競技大会又は文化関係大会に参加する際の派遣費の補助をする。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,837	1,837	1,990		
	(b) 予算現額	1,991	1,837	1,990		
	(c) 増減額 (b-a)	154	0	0		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	1,991	1,837	1,990		
B. 執行済額		1,991	1,197	1,685		
うち交付金充当額		1,592	957	1,348		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		100.0%	65.2%	84.7%		
予算の状況の説明		県外大会に参加する児童生徒に対し、派遣費の一部を補助した。 不用額305千円は、当初計画していた人数よりも下回ったためである。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
児童生徒大会派遣の支援	目　標	（ 児童・生徒31人 ）	（ 派遣費補助 ）	（ 派遣費補助 ）	（　）
	実　績	児童・生徒95人	派遣費補助の実施	派遣費補助の実施	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：児童・生徒が運動競技大会又は文化関係大会で県代表として派遣することができた。九州大会5種目、全国大会3種目、63人の児童生徒が出場できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
大会派遣児童・生徒数	目　標	（　）	（ 31人 ）	（ 31人 ）	（ 31人 ）	（　）
	実　績		95人	57人	63人	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：児童・生徒が運動競技大会又は文化関係大会で県代表として派遣され他県の児童生徒と交流を行うことによって、一人ひとりの能力や可能性をのばしてくことができた。目標より派遣種目が増えたため児童生徒数も増となった。

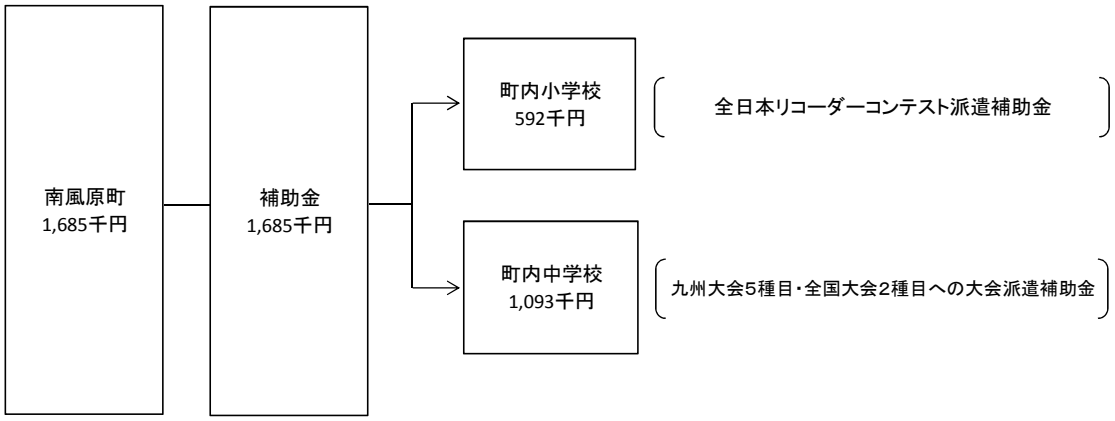
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	児童･生徒の大会派遣件数については、各大会の成績により派遣数が決まるため事前の人数把握が困難である。	派遣人数を早めに把握し、スムーズに派遣補助をする必要がある。

今後の取り組み方針

各小中学校と密に連携をとり、早めに大会･派遣人数等を把握し、スムーズに派遣補助をしていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,685	1,685	1,348	337	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については派遣費補助の取り扱い基準をもとに行い適正であった。 ○予算規模は本事業の完遂に必要な費用に限られており、適正であった。 ○受益者との負担関係については、派遣費補助の取扱い基準に基づき整理しており妥当である。 ○費目･使途事業目的に即しているかについては「児童･生徒の各種大会への派遣費補助の取り扱い基準」をもとに補助金を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑫	南風原町県外等派遣支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)ーイ 能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容

将来の沖縄振興に資する人材育成のため、町内に在住する小学生･中学生及び地域青年会等が運動競技及び文化活動参加のため県外等へ派遣される場合に対して必要な派遣費用の支援を行う。

実施方法　□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,979	2,976	2,976		
	(b) 予算現額	2,154	2,237	2,341		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 825	▲ 739	▲ 635		
	(d) 前年度繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	2,154	2,237	2,341		
	B. 執行済額	2,024	2,004	2,299		
	うち交付金充当額	1,619	1,603	1,839		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		94.0%	89.6%	98.2%		

予算の状況の説明：３月補正において町予算を635千円減額したが、前年度と比較して支援した人数は増となっており、適正な予算執行ができたと考える。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
児童･生徒及び青年会等大会派遣の支援	目　標	（　140人　）	（　派遣の補助　）	（　派遣の支援　）	（　　）
	実　績	127人	129人	139人	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：人材育成を目的として派遣費用の支援を実施しているため、軟式野球やバドミントン、珠算など多様な競技について支援することができた。競技数も前年度と比較して1競技増の16競技へ派遣費用の支援ができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（24年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
派遣児童･生徒数及び派遣青年会数（累計）：140人	目　標	（　138人　）	（　140　）	（　140　）	（　140　）	（　140人　）
	実　績		127人	129人	139人	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：基準年度と比較して、支援した人数は1人増加した。また前年度と比較しても10人増となった。参加した生徒からは上位の大会に参加する事で自分自身やチームの弱点･課題を見つけることが出来,とても良い経験となったとの声もあり、成果を感じる。目標人数を達成できなかった要因としては、申請期限を過ぎてから申請する事例があった事から周知不足が要因であると思われる。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	人材育成のため、町内に在住する小学生・中学生及び地域青年会等が運動競技及び文化活動に対して必要な派遣費用の支援を行っているが、派遣支援事業の広報不足のため、申請期限を過ぎてから申し出があり、支援することができなった事例もあった。支援事業の周知が弱かったと思われる。	支援事業の周知不足を改善するため、継続的に次の2点について実施する。 ・学校へ事業内容の説明を定期的に実施し、申請もれを減らす。 ・様々な媒体を活用して支援事業の周知を図る。

今後の取り組み方針

・学校へ事業内容の説明する機会として校長・教頭連絡会での事業の説明や派遣後の児童等の結果を広報紙やHPへ記載するなど、定期的な情報発信を実施していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,299	2,299	1,839	460	0

南風原町
2,299千円
→
補助金
2,299千円
→
38件
（申請者）
学校長・団体代表者
2,299千円

（航空運賃又は港までの運賃への半額補助）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○派遣対象者については、要綱に照らして決定しており妥当である。 ○支援金額についても普通運賃額を超えないように比較し適正に金額を決定している。予算の規模も適正であり、要綱に基づき必要なものに限定して交付している。 ○受益者の負担も要綱に基づき実施しており、妥当であったと考えている。 ○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な金額で実施している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－⑬	魅力的な体験学習事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－５－（3）－（ア） 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－（1）

事業内容

サイエンスショーを開催し、机上の学習だけではなく体験学習を取り入た授業を行うことで児童の探究心や想像力を育て、学ぶことに対する「興味」「楽しさ」を実感してもらい、沖縄振興に資する人材育成を図る。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,397	3,506	3,735		
	(b) 予算現額	3,397	3,614	3,735		
	(c) 増減額 (b-a)	0	108	0		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	3,397	3,614	3,735		
B. 執行済額		3,297	3,563	3,715		
うち交付金充当額		2,637	2,850	2,972		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		97.1%	98.6%	99.5%		

予算の状況の説明

・当初計画していた事業内容はすべて実施したほか、活動目標、達成目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
小学生を対象にサイエンスショーを開催	目　標	（　1回　）	（　1回　）	（　1回　）	
	実　績	1回	1回	1回	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	
	実　績				

達成状況説明

・7月に「米村でんろうサイエンスショー」を開催し、町内4小学校の5・6年生（859名）が参加した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
・理科への関心度：10%増加（鑑賞前→鑑賞後）（評価方法）サイエンスショー鑑賞前と鑑賞後に理科への興味・関心度に関するアンケートを実施。理科への関心度の変化を確認する。	目　標	（　　）	（10%増加）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		2%増加			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明

サイエンスショー鑑賞後に、理科への興味・関心を持ち、勉強したいと思うようになったと答えた児童が9割以上おり、サイエンスショーの鑑賞が理科に対する興味・関心の向上に一定の効果があった。

しかし、成果目標とした児童の理科に対する興味・関心の10%増加については、実施前から児童の92%が理科に興味・関心を持っているという高い水準だったことから、実施後の増加率は2%と微増の結果であった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	サイエンスショーを鑑賞することで児童生徒の探究心や想像力の向上に取り組み、学ぶことに対する「興味」「楽しさ」を育む。 サイエンスショー鑑賞後のアンケート結果では、94%の児童が理科に対し「とても興味をもった」または「少し興味をもった」と答え、また88%が「理科を勉強したいと思うようになった」と答えていた。本町児童の理科への興味・関心はサイエンスショー実施の成果もあり高い水準となっている。	引き続き成果目標（理科への関心度）を達成できるよう、プロダクションと調整しながらサイエンスショーの内容の充実を図る。

今後の取り組み方針

アンケート結果では、ほとんどの児童がサイエンスショーを「楽しかった」と回答していた。また、「知らないことについて、もっと調べたい」や「理科の不思議についてもっと学びたい」などの意見があり、サイエンスショーは児童や学校から好評であった。よって、引き続きサイエンスショーを実施し、子供たちの学ぶことに対する「興味」「楽しさ」を実感してもらう。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,715	3,715	2,972	743	0

南風原町
3,715千円
→
委託料
3,715千円
→
(有)米村でんじろうサイエンスプロダクション
3,715千円

（米村でんじろうサイエンスショー開催委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本事業は随意契約である。本事業は、米村でんじろうサイエンスショーを実施するもので、本公演を実施できる委託事業者が1社しかないため、妥当であったと考えている。 ○より多くの児童にサイエンスショーを体験してもらう事ができたため、予算規模は妥当であったと考えている。 ○使途は、サイエンスショーを実施するための委託料となっており、目的に必要な経費であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－⑭	南風原町児童生徒県外交流事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－（4）－イ 能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容

県外の山間地域に児童生徒を派遣し、南風原町にない自然文化を体験し現地の中学校交流と民泊を実施することで幅広い視野を持った人材を育成する為に派遣費を補助する。具体的には徳島県つるぎ町に南風原町の小学校高学年及び中学生を派遣し、徳島県つるぎ町の半田中学校での交流・民泊交流、登山等を体験する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,214	2,427	2,444		
	(b) 予算現額	2,214	2,427	2,444		
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	2,214	2,427	2,444		
B. 執行済額		2,093	2,360	2,313		
うち交付金充当額		1,674	1,888	1,850		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		94.5%	97.2%	94.6%		

予算の状況の説明

概ね事業計画通り執行できたが、当日小学生1名が風邪で派遣を見合わせたため、不用額が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
徳島県つるぎ町立半田中学校へ中学生10名、小学生12名を派遣	目　標	（小学生12人 中学生10人）	（小学生12人 中学生10人）	（小学生12人 中学生10人）	（　）
	実　績	小学生12人 中学生10人	小学生12人 中学生10人	小学生7人 中学生12人	

達成状況説明

交流期間中の登山など安全性を考慮し小学生8名、中学生12名と変更した。実績は当日体調不良で小学生1名がキャンセルしたため小学生7名中学生12名の派遣となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
・派遣者にアンケートや報告書（感想文）を実施し集計結果や分析を報告 「楽しかったこと・びっくりしたこと」の答えの50%以上に民泊交流・中学校交流が入るようにする。 「次回も継続してほしいこと」の答えの50%以上に民泊交流・中学校交流が入るようにする。	目　標	（　）	・「楽しかったこと・びっくりしたこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　50% ・「次回も継続して欲しいこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　50%	・「楽しかったこと・びっくりしたこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　50% ・「次回も継続して欲しいこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　50%	・「楽しかったこと・びっくりしたこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　50% ・「次回も継続して欲しいこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　50%	（　）
	実　績		・「楽しかったこと・びっくりしたこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　55% ・「次回も継続して欲しいこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　56%	・「楽しかったこと・びっくりしたこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　52% ・「次回も継続して欲しいこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　68%	・「楽しかったこと・びっくりしたこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　54% ・「次回も継続して欲しいこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　55%	

進捗状況説明

徳島県つるぎ町での文化交流や自然体験学習のアンケート結果では「楽しかったこと・びっくりしたこと、次回も継続してほしいもの」の回答に約半数以上の児童生徒が民泊交流・中学校交流と回答しており、目標達成ができた。徳島県つるぎ町立半田中学校の受け入れもできた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・今回は天候に恵まれ、スケジュールどうりに事業を展開できた。 しかし40℃近い高温で、体調不良を訴える生徒が1名いた。 ・安全性の配慮と中学校の交流を考慮し、小学生8名（各校2名）中学生12名（各校6名）に変更した。	・児童生徒の体調管理でスケジュール変更が余儀なくされる場合は、つるぎ町教育委員会、受入団体、町教育委員会と連絡調整し安全に事業を執行する。

今後の取り組み方針

・徳島県と沖縄県の違いを事前に学習し、予備知識を増やし、民泊受け入れ家庭や、中学校生徒・教員との交流をより充実させる。
・事業に参加した児童生徒が、在籍の学校で中心的な人材（生徒会役員や部活動の主将、ボランティアリーダー等）になるよう、指導支援していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,556	2,313	1,850	463	243

南風原町
2,313千円

→

補助金
2,313千円

→

小学生　7名
中学生　12名
引率　4名
合計
2，313千円

（児童生徒県外交流の派遣費に関する補助）

（受益者負担分（交付対象外経費）
243千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は募集要項に規定された学校長推薦によるもので適正であった。 ○予算規模は県外交流に必要な額を積算しており適正であった。 ○受益者負担も募集要項に基づき、徴収し妥当である。 ○費目・使途は南風原町振興特別推進事業交付金要綱に基づき交付金を交付しており妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－①	南風原町観光景観美化整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(6)－ア 沖縄らしい風景づくり
担当部課名	経済建設部　まちづくり振興課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

本県は亜熱帯性の固有な自然環境であり、年間を通して植物の繁茂がある。町内の観光ルートの環境美化を町内の求職者を雇用して　実施し、クリーンな南風原町を目指す。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,600	6,442	6,442	6,442	
	(b) 予算現額	6,600	6,442	6,442	6,442	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	6,600	6,442	6,442	6,442	
B. 執行済額		6,116	6,128	6,184	6,061	
うち交付金充当額		4,892	4,902	4,947	4,848	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		92.7%	95.1%	96.0%	94.1%	

予算の状況の説明

対象事業期間を3月15日までとしたことから94.1%の執行率となったが、予算は計画通りに執行し、事業を円滑に行う事が出来た。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
景観美化作業員：4人	目　標	（　4人　）	（　4人　）	（　　）	（　　）
	実　績	4人	4人		
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明

・景観美化作業員を4名雇用し、町道のメンテナンス（草木の伐採等による景観美化の管理）を恒常的に行うことで、町内の観光ルートの環境美化に努めた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（24年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
観光ルートの町道を基本に伐採等による景観美化の実施（延長L＝12,600m）	目　標	（L＝12,600m）	（L＝12,600m）	（L＝12,600m）	（L＝12,600m）	（　　）
	実　績	L＝12,600m	L＝12,600m	L＝12,600m	L＝12,600m	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明

・町道の景観美化の実施（草木の伐採等）を恒常的に行うことで、町内の観光ルートの環境美化がはかられた。
・また次年度も同じルートの景観美化をはかっていく。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・観光ルートでもある町道については、作業実施箇所を効率的に計画し、恒常的にクリーンに保つことが必要になる。 ・夏季においては、草木が著しく成長するため、場所によっては短期間での伐採等が必要になることがある。	・町道の景観美化の実施（草木の伐採等）を恒常的に行うことで、町内の観光ルートの環境美化が図られた。 ・草木は、夏季に著しく成長（繁茂）するため、町道のメンテナンスを効果的に実施できるよう伐採等を行い、景観美化の向上に努める必要がある。

今後の取り組み方針

・観光ルートの景観美化の実施（草木の伐採等）を継続し、今後も景観美化の向上に努める。
・夏季においては、草木の伐採を効率的に行い、町道のメンテナンスを行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,061	6,061	4,848	1,213	0

南風原町
6,061千円

賃金
（景観美化作業員　4人）
6,061千円

町内観光ルートの景観美化

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先である景観美化作業員は、町の基準で選定雇用しており妥当だと考えている。 ○予算規模は町の基準で積算されているもので適正と考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－②	かすりの道活性化プロジェクト		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	「かすりの道」を活用した魅力的な観光地づくり、まちづくりを促進するため地域住民参加による緑化活動、道並などの美化を行う。さらにイベントを開催することで認知度を高める。また、観光客やイベント参加者の受入体制の整備として、便益施設を整備する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,676	5,000	4,254	9,044	
	(b) 予算現額	4,545	3,753	4,254	10,175	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,131	▲ 1,247	0	1,131	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	4,545	3,753	4,254	10,175	
B. 執行済額		4,260	3,343	3,962	8,613	
うち交付金充当額		3,408	2,674	3,169	6,890	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		93.7%	89.1%	93.1%	84.6%	
予算の状況の説明		・当初の計画では身障者が利用する場合に不便との指摘があり、通常のトイレから多目的トイレへの一部変更及び敷地の入口から便益施設までの間をバリアフリー化するため工事請負費を1,131千円増額した。 ・事業途中に事業運営企画職員が退職し、後任を採用するまでに期間を要したことで不用額が生じた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
イベント開催：6回	目　標	（　－　）	（　1回　）	（　6回　）	（　6回　）
	実　績	－	5回	7回	13回
かすりの道緑化活動：10回	目　標	（　10回　）	（　10回　）	（　10回　）	（　10回　）
	実　績	10回	12回	28回	29回
トイレ整備一箇所	目　標	（　－　）	（　－　）	（　－　）	（　一箇所　）
	実　績	－	－	－	一箇所

達成状況説明

・かすりの道を4名から30名の団体で道歩きをするかすりの道ツアーを7回開催し、町内外から126名のツアー客の参加がありました。ツアー開催時に、かすりの道集落内の古民家を活用した「お茶の接待」や「三線の演奏」なども行い、参加者からは好評でした。
・古民家を活用したイベントとして、「落語寄席（古民家落語の夕べ）」「古民家チャンプルーフェスタ」などを開催し、地域住民や町内外から130名余の観客化が訪れました。
・琉球絣事業協同組合、町内事業者と協働で、『南風原が誇る宝物もっと知りたい「琉球かすり」公開講座を開催し、町内外から50名余の参加がありました。
・かすりの道緑化活動は、かすりの道両側に植栽をした草花の雑草取り、施肥、季節の花の植付などを毎月第1日曜日にかすりの道周辺の住民と観光協会で定期的に行っています。それに合わせて肥料の配布と施肥や新しい花の選定と配布・植え付けなどを継続的に行っているとともに、地域住民による植栽勉強会も行いました。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		25年度	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
かすりの道散策ツアー参加者：360人	目　標	（　1回（10人））	（　300人　）	360人	（　　）	（　　）
	実　績	5回（210人）	284人	126人		
イベント参加者：180人	目　標	（　－　）	（　180人　）	180人	（　　）	（　　）
	実　績	－	222人	198人		
トイレ整備の完成：一箇所	目　標	（　－　）	（　－　）	（　完成　）	（　　）	（　　）
	実　績	－	－	完成		

進捗状況説明

・かすりの道ツアーは、昨年からガイドが観光客を案内すると同時に、地域の住民が一緒に回ってガイドの説明に加えて現場の昔を説明することで、現在の地形が変わっていても当時の風景を観光客が想像できるように工夫したことや、古民家での休憩時にお茶の接待や三線の演奏などで付加価値を高めたことで、参加者の評判は良かったのですが、集客に対する手段がまだ弱く、ホームページやSNSなどの媒体で、かすりの道散策ツアーをPRするも、目標達成には至らなかったが、この取り組みで少しずつ周知が図られ参加者が増えつつあります。
・今年度は、古民家を活用して「落語寄席（古民家落語の夕べ）」が開催したことでマスコミなどにも取り上げられ、また、町内でも初めての寄席の為、多くの町民から「かすりの道」が認識され相乗効果が表れました。恒例の「古民家コンサート」は、地域住民や南星中学校との連携した開催により地域住民がお客様がかすりの道周辺を訪れることに理解をしてくれ始めたこと、同時にツアーを組み立てることにより多くの誘客に結び付いたこと、また、イベント開催時には周辺集落の住民が地元の特産品の販売も行ってくれたことは住民と観光協会の協働の取り組みとして成果がありました。
・かすりの道緑化活動は、季節ごとに道周辺の花の植え替えと、水やり、草取りなどの管理を毎月第1日曜日に周辺住民の方と行っていますが、主婦が多く1回の集まりに10名前後の周辺住民が集まってくれます。今年は字本部、照屋の集落まで緑化運動が発展していき、字喜屋武にも取り組みが始まってきたので、かすりの道が通る3つの字が参加してくれる状況が出来ました。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・かすりの道緑化活動として、現在かすりの道周辺の住民が、道の維持管理や観光客への取り組みを理解し始めており、今年度は2つの字で本格的に取り組んできましたが、あと1集落の取り組みが弱い。 ・個人で機織りをしているかすり工房などが減少しつつあり、かすりの道を歩いてもかすりを織る音が聞こえないのが、観光客より指摘されています。 ・路面清掃においては、全経路の洗浄が終わりましたが、生活道路のため汚れが後をたたない。 ・ホームページやSNSなどの媒体でかすりの散策道ツアーをPRしますが、目標達成には至る事ができなかった。	・かすりの道緑化活動としての取組に対して、残りの1字（字喜屋武）に対してかすりの道の清掃や道周辺の花の植栽、管理、観光客との交流等サポートをしていきます。 ・かすりの道に観光客を誘客し、周辺地域の住民と協働で物産の販売や琉球絣のPR活動を行い、「古民家コンサート」以外に「古民家落語の夕べ」などのあたらしい取り組みを継続することで、周辺住民や町内外に琉球絣を始めかすりの道を周知するとともに工房の方々にも理解を得るように努めます。 ・かすりの道の洗浄においても、生活道路であることを念頭において清掃に取り組んでいきます。 ・かすりの道を歩いてもかすりを織る音が聞けないという、参加者の意見をかすり業者（特に若い人達）と相談しながら、高年齢で廃業した個人織工房を織機と一緒にお借りして、そこへ研修が終了した織子さんを配置し絣の生産をしてもらうことで、廃業した個人織工房の再生を図れるようにグループつくりを検討をしていきます。 ・かすりの道散策ツアーだけの告知では集客力が弱い部分があるので、古民家やかすりの道を活用したイベントの回数を増やして実施します。

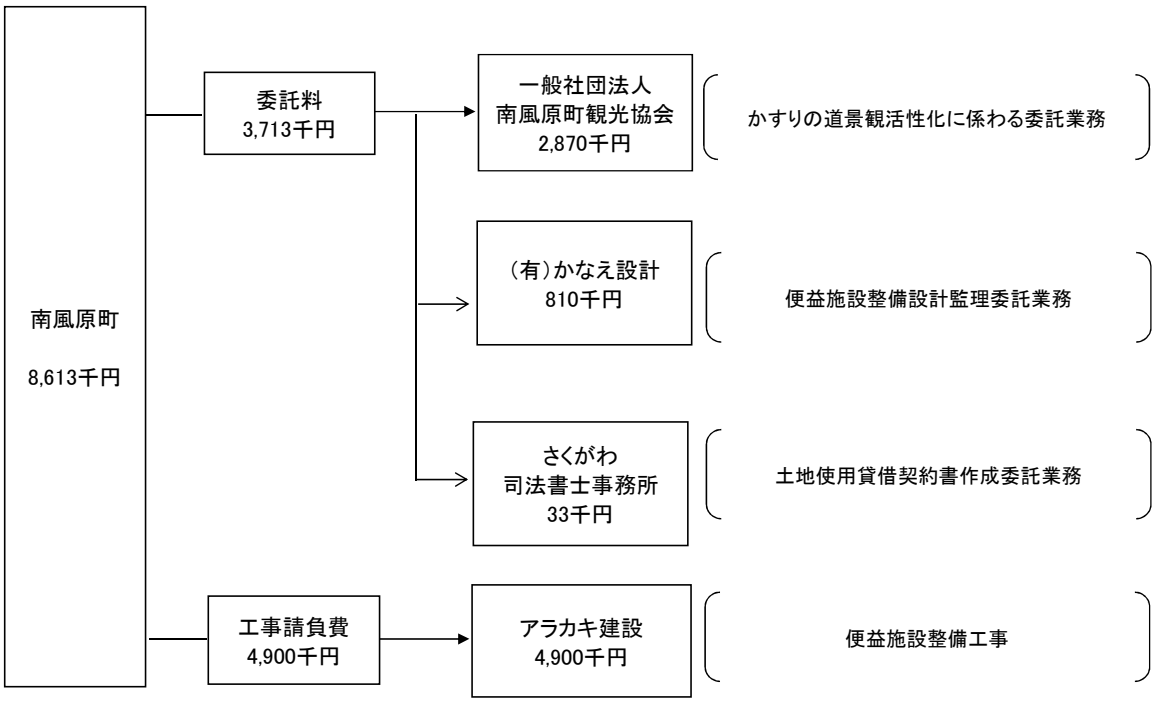
今後の取り組み方針

・かすりの道の緑化に対して、残りの1つの字喜屋武集落に対して、かすりの道の清掃や道周辺の植栽、肥培管理など、3字が一つになった観光客との交流などのサポートをしていくとともに、従来の2つの字と共同で取り組んで行きます。
・かすりの道の観光客誘客に関して、周辺住民の利益に結び付くイベントを開催するとともに「古民家」においては、「古民家コンサート」以外に「古民家落語の夕べ」などのイベント時の周辺集落の人たちによる物産販売の強化や絣の染体験などのかすり生産における部分体験など新しい取り組みを継続していきます。
・かすりの道を歩いても絣を織る音が聞けないという参加者の意見を、絣事業者（特に若い人達）と相談しながら、高年齢で廃業した個人織工房を織機と一緒にお借りして、そこへ研修が終了した織子さんを配置し絣の生産をしてもらうことで、廃業した個人織工房の再生をはかれるようなグループつくりを検討していきます。
・かすりの道は生活道路のため、道の洗浄においても常にそのことを念頭に置いて取り組みます。
・かすりの道散策ツアーだけでの告知では集客力が弱い部分があるので、古民家や絣の道を活用したイベントの回数を増やし実施をします。
・27年度に行った琉球絣事業協同組合や町内の事業者と協働で行ったフォーラムなどを定期的に開催することで、町内への集客を促進するとともに琉球絣のPRもおこなえるので、継続して開催するように努めます。
・27年度同様、住民と一緒になって作り上げていく観光が南風原町の観光ととらえ、まちづくりの原点に立ち返って『物の観光』から『心の観光』へと時間はかかっても周辺住民とともに取り組んで行きます。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,613	8,613	6,890	1,723	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本事業の契約先である一般社団法人南風原町観光協会は来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発信は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-③	無料職業紹介所整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（10）－ア 雇用機会の創出・拡大と求職者支援
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成２７～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－2

事業内容

沖縄県は完全失業率が全国最下位であり、本町においても失業率は8.9%（H22国勢調査）と高い失業率となっていることから、求職者や企業に対して、より充実した雇用支援が必要である。そのため、町内の求職者に対して、就職だけでなく福祉や税等の面からも、身近な場所でより必要な支援が提供でき、スピーディーに企業に求職者を斡旋できるマッチングシステムを整備する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,642				
	(b) 予算現額	6,642				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	6,642				
B. 執行済額		3,803				
うち交付金充当額		3,042				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		57.3%				
予算の状況の説明		・求職者と求人者の相談を行う就職相談支援員を採用する予定であったが、採用に至らなかったことで不用額が生じた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
職業紹介所従事者の人材育成：1名	目　標	（　1名　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	0名			
職業紹介所の広報	目　標	（　実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	未実施			
求職者と求人企業のマッチング	目　標	（　5件　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	0件			
職業紹介所の備品購入	目　標	（　実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	実施			

達成状況説明

・就職相談支援員を採用し育成する予定でしたが、採用に至らなかった。
・マッチングシステムの構築に時間を要し、年度末の整備となったことで、広報及び求職者と求人企業のマッチングに至らなかった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	30年度
雇用マッチング5件	目　標	（　）	（　5件　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		0件			

進捗状況説明

・システム構築を委託するにあたり、セキュリティ維持のためネットワークの構成、機能用件、システム環境などについて、当初予定していた仕様書の内容から修正を行った。そのため仕様書の作成に時間を要したことで発注時期が遅れてしまった。その結果、システムの完成が年度末となり、本事業の周知が十分に出来なかった。

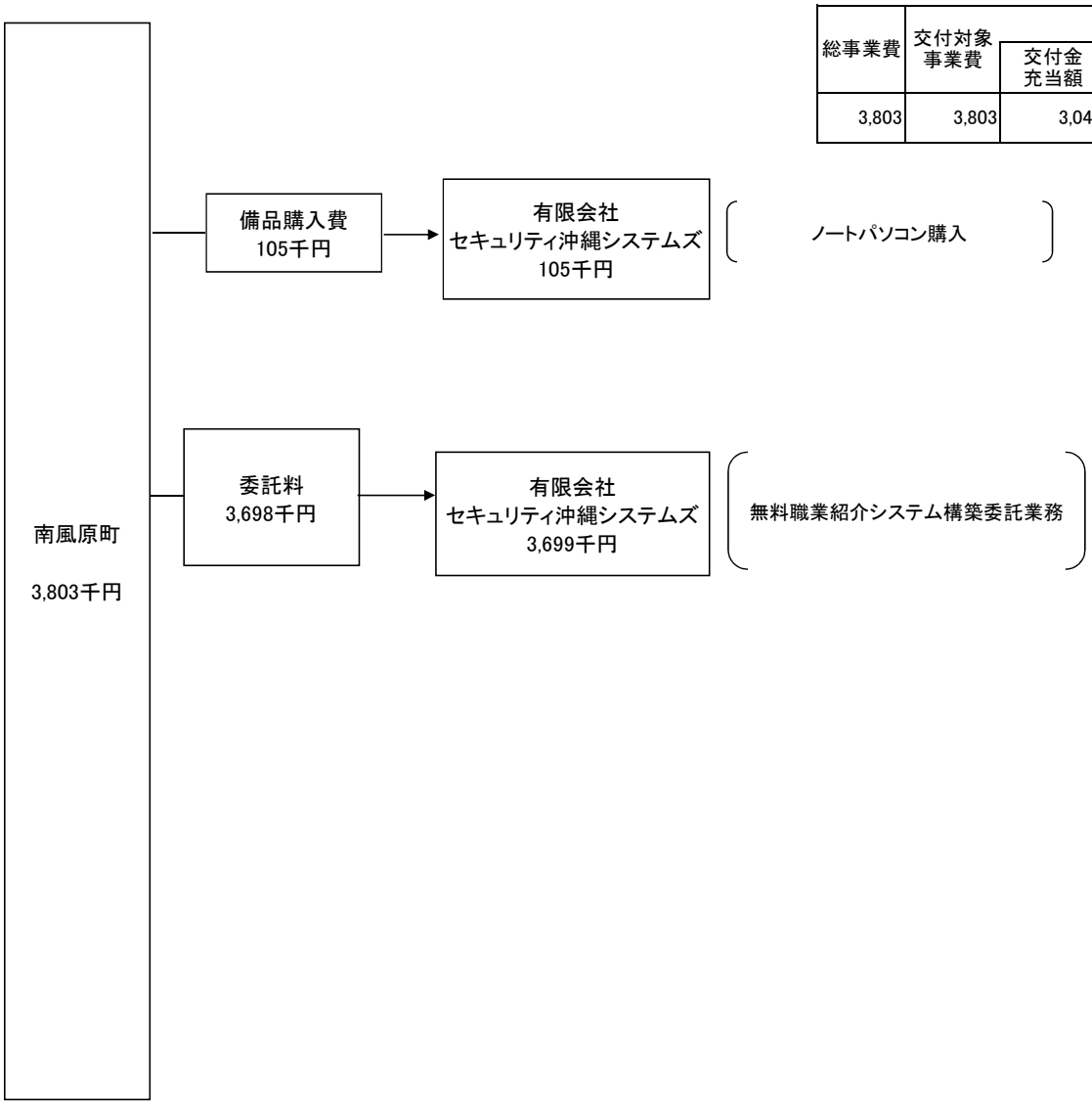
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・求人情報の登録はあるが、求職情報が少ない。 ・雇用支援相談員の採用に至っていないため、効率のいい窓口相談ができでいない。	・ホームページやSNSを活用して、無料職業紹介所の周知を図り、町民の活用を促進する。 ・町の人事採用担当者とも連携し、早急に雇用支援相談員を採用する。

今後の取り組み方針

・雇用支援相談員を早急に採用し、本事業を効率的に推進する。
・無料職業紹介所の利用促進を図るため、様々な媒体での周知・広報を継続的に実施し、多種多様な求職情報、求人情報を収集し、仕事や人材に関する相談者の様々な要望に応えられる情報を提供し、雇用マッチングを図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,803	3,803	3,042	761	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、企画のプレゼンによって、選定委員会によって決定しているので、適正であると考える。 ○予算の状況の説明のとおり不用額が生じているが、嘱託員の採用に至らなかったためであり、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－④	デザイン・くくり担い手育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(4)－イ 文化の担い手の育成
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

本町の琉球絣は伝統工芸品として有名であり、その生産体制は分業体制で行われている。生産工程の一つである「デザイン・くくり」の技術者が現在少ない状況にあり、このままでは技術が失われる可能性があるため、「デザイン・くくり」の技術者を育成する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	12,684	30,000	24,899	14,749	
	(b) 予算現額	12,684	17,770	22,791	14,749	
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 12,230	▲ 2,108	0	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	12,684	17,770	22,791	14,749	
B. 執行済額		11,564	16,140	22,275	13,849	
うち交付金充当額		9,251	12,912	17,820	11,079	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		91.2%	90.8%	97.7%	93.9%	

予算の状況の説明

・当初予定していた価格より、教材が安く購入できたことや、技術の習得に伴い講師派遣を減らすことができたことで不用額が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
工房の即戦力となるデザインくくりの技術者を育成する（絣の基礎知識の学習、視察研修、パソコン講習、デザイン製作、デザインくくり技術の実践、成果品作製）	目　標	（　技術者育成　）	（　技術者育成　）	（　　）	（　　）
	実　績	技術者育成	技術者育成		

達成状況説明

・南風原だけでなく、多くの場所や織物を見ることで、知識や技術、歴史を学習し、広い視野を得る事を目的に、伝統的工芸品を取り扱っている場所に赴き、見学・学習を行った。また、デザインを考案するための着物の仕立て講習会等を開催した。
・基礎的な知識を学ぶと同時に、デザインくくりの技術を講師から教わり、その技術を習得するために何度も練習を重ねながら、新たなデザインを考案し挑戦した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
2年目計画達成率80%以上	目　標	（　80%　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	75%				

進捗状況説明

・H26年度より新たに4名を新規育成者として採用したが1名が退職したことで、H27年度に1名を新たに採用した。
・達成率は、講師の方に、各研修生の知識・技術の習得度合いを判断していただき、全体平均を達成率としております。目標が未達の理由については、1年目の研修生は、基礎的な知識は理解しているが、実践の部分で失敗が多く、他の研修生に比べて達成立が低かったためです。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・現在不足している「デザイン・くくり」の継承者を育成し、若い担い手の働く場を提供することで絣の伝統工芸の継承を促進しつつ、新しい分野での発展の可能性を向上させるために、絣の基礎知識、全行程も学びながら、「デザインくくりの担い手」として即戦力になるまで3年間育成する事業を実施している。 ・H26年度から新たに採用した4名の受講生のうち1名がやむをえない事情で退職したため、H27年度にあらたに1名を採用した。1年目の受講生は、絣に関する基礎知識は理解出来ているが、実践での失敗が多かった。	・研修生の諸事情も解決できる部分は、事業所一体となって対応し、職員が働きやすい環境作りをつくる。 ・製作過程で失敗を何度か繰り返すことにより、どの方法で対処したらいいのかを学び、修正が可能になる。繰り返し工程を学ぶことが技術の習得につながる。

今後の取り組み方針

・産地研修や展示会見学で視野を広げ、他産地の意見や現状を学ぶことでモチベーションを高め、意識向上、意欲向上を図る。
・3年目の研修者と2年目の研修者で技術に差が出ないよう、講師の指導や助言を細かく行いスキルアップを図る。
・多くの実践を踏まえ、その中で失敗を繰り返すことで、対策方法や解決方法などの技術の習得に繋がるため、多くの経験を積ませる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,849	13,849	11,079	2,770	0

南風原町
13,849千円
→ 委託料 13,849千円
→ 琉球絣事業協同組合 13,849千円
（デザインくくりの担い手育成に係わる委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先事業者は、琉球絣組合に随意契約で委託を行っている。伝統工芸である琉球絣の歴史的背景や50を超える琉球絣事業者の会員で構成され、琉球絣の制作にかかわるすべての情報を把握できる団体であり、本事業は絣組合しか対応出来ないと判断した。選定方法は妥当であったと考えている。 ○予算の状況の説明のとおり予算を減額となっているが、事業内容に基づく事業執行を行うためのものであり、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑤	危険生物駆除事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	総務部　住民環境課	事業実施（予定）年度	平成２７～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）
事業内容	来訪者等を沖縄特有の生物であるハブから守るため、町内でハブが生息している箇所にハブトラップを設置し、積極的に駆除を行うことにより安心・安全な観光地を目指す。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,523				
	(b) 予算現額	2,010				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 513				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	2,010				
B. 執行済額		1,679				
うち交付金充当額		1,343				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		83.5%				
予算の状況の説明		不用額の331千円は、臨時職員賃金の減（平成27年6月1日任用のため）				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
捕獲器30器を設置	目　標	（　30器　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	30器			
嘱託職員による巡回：1名	目　標	（　1名　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1名			

達成状況説明：危険生物駆除臨時職員を1名配置し、町内29箇所に30器の捕獲器を設置した。毎週3回～4回の巡回を実施し、ハブ68匹を捕獲することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	30年度
ハブ捕獲数50匹	目　標	（　）	（　50　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		68			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：危険生物駆除臨時職員を1名配置し、町内29箇所に捕獲器を設置した。毎週3回～4回の巡回を実施し、ハブ68匹を捕獲することができた。

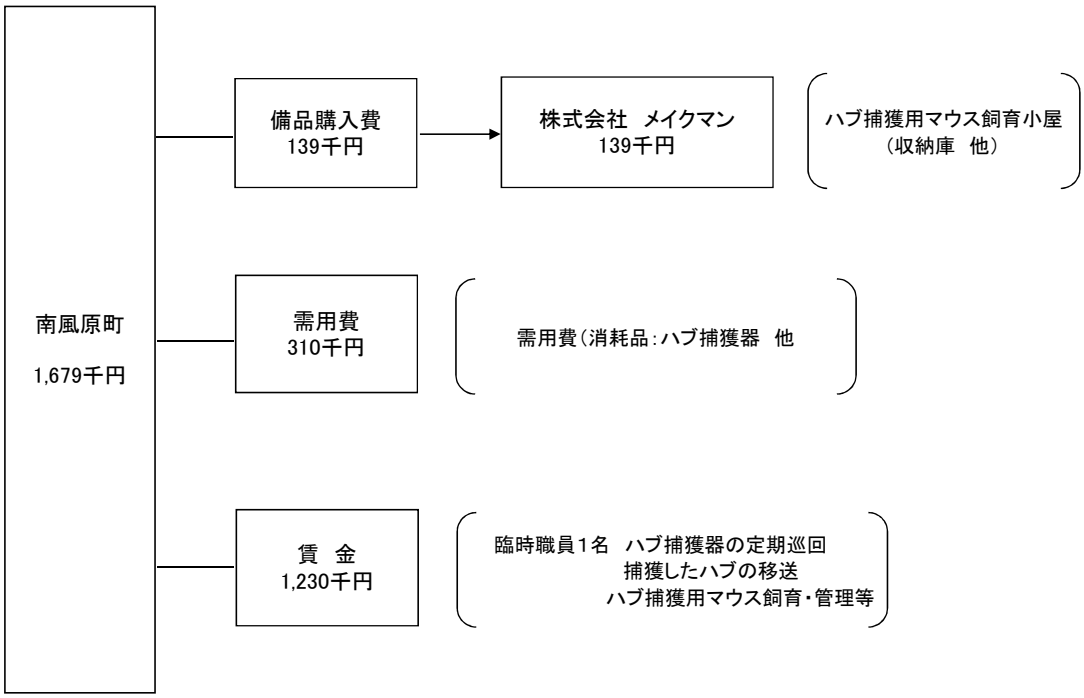
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	ハブの活動が活発化する4月からすぐに担当臨時職員を配置しハブの駆除作業に取組んで、観光客等への危険性を除去をする。また、その捕獲器の存在が認知できるように表示し、その区域に立ち入らないよう周知を図る。	危険性物駆除担当臨時職員の任用が6月にずれこんだので今後は、年度当初からの担当臨時職員の配置に万全を期したい。 ・マウスの飼育管理も徹底し、その個体数の安定確保に努める。

今後の取り組み方針

・4月から危険生物駆除担当臨時職員を配置し、ハブ等の活動が活発になる前に捕獲器を設置することにより年間を通して危険性の除去に努める。
・町広報誌等の広報媒体を活用して、住民及び観光客等に対し、捕獲設置への理解協力を促すと共に、危険生物駆除事業についての周知を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,679	1,679	1,343	336	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○備品購入費は、3社見積を徴収し、最低価格業者と随意契約したので妥当である。 ○予算規模は、本事業の完遂に必要な賃金、備品費、消耗品費であり、適正な規模であった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から真に必要なものに限定されているもので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－⑦	南風原名人制度創設事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(6)－イ 地域づくりを担う人材の育成
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成２５～２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

南風原町の地域人材を活用し、「得意なこと」を観光体験ツールで活用するため、「南風原名人制度」をつくる。さらに、制度を活用し、滞在型観光に繋げていく。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,082	363	373		
	(b) 予算現額	184	363	373		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 898	0	0		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	184	363	373		
B. 執行済額		137	253	119		
うち交付金充当額		109	202	95		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		74.5%	69.7%	31.9%		

予算の状況の説明

・名人の出演要請が少なかったため、謝礼金の支払いが少なかったことや、地域の情報紙に掲載する予定であったが、その情報紙が廃止されたことで広告費を支出しなかったことによる不用額が生じ、予算の減額となった。
・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
名人発掘活動（各種団体6回／年）（HP掲載／通年）	目　標	（各種団体6回／年 HP掲載／年）	（各種団体6回／年 HP掲載／年）	（　）	（　）
	実　績	各種団体10回／年 HP掲載通年	各種団体16回／年 HP掲載通年		
名人作品展・実践／1回	目　標	（－）	（1回）	（　）	（　）
	実　績	－	1回		

達成状況説明

・名人発掘活動においては、町内自治会を含め南風原町老人連合会や女性会などを16回まわり、名人の発掘に務めましたが名人登録者の目標達成までに至らず、次年度の登録に繋げることになりました。
・体験学習プログラムは、発掘した各々の名人が複数のプログラムを持っていることがあり、登録者数の目標値は下回ったものの、体験プログラムは目標値を上回りました。
・名人を広く告知するため、名人の仕事について「名人展」を開催して、多くの町民の理解を得ました。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
体験学習プログラム数：6件	目　標	（　）	（2件）	（7件）	（6件）	（　）
	実　績		4件	10件	14件	
名人登録者（累計）：45人	目　標	（　）	（15人）	（累計15人）	（累計45人）	（　）
	実　績		10人	累計18人	累計29人	
体験者数：60名	目　標	（　）	（－）	（－）	（60名）	（　）
	実　績		－	－	329人	
作品展来場者数：220名	目　標	（　）	（－）	（－）	（220人）	（　）
	実　績		－	－	280人	

進捗状況説明

・町内の各団体組織を活用した名人の推薦のため、各組織に協力を依頼し今年度は16団体をまわりましたが、登録までには至らず次年度へ持ち越すことになりました。
・町内の福祉団体や民泊家庭に名人を活用したいとの要望がありますが、今年は民泊受入家庭が独自の体験メニューを多く実施したため、名人の活用数が少なかったが、福祉関係への派遣に関しては有効な活用がはかれました。そのことが町内でも話題になり福祉関係で問い合わせが増えてくると同時に名人の推薦者もでてきています。
・得意技を持っている人を発掘した場合は、趣旨を説明し同意を得た後「名人選定委員会」に諮り、委員会において名人登録をした後に名人として活用をする方法が定着してきました。
・役場の庁舎内で名人展を開催し各名人の技を披露したことにより、町民の間での理解が深まってきました。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・得意の技を持っていても人に教える事には躊躇する方が多く、事業趣旨の理解を得るのに時間がかかっています。 ・民泊に来た修学旅行生が体験学習出来るように、民泊受入家庭が独自メニュー以外に名人を活用するような指導が必要になってくるため、民泊事業との連携が必要であると考えます。 ・名人を登録しても、名人の特技の内容が分からないとの声もあります。 ・名人の活動展をすることで、町内の福祉関係（自治会におけるミニディサービス）などからの活用が増えてきました。 ・福祉関係での活用が多く、1件当たりの受講者数が多いため名人活用件数に比べて受講者数が目標より多くなっています。	・町内の自治会や諸団体との連携をとり名人の発掘を図ります。 ・町内の各組織に対し、名人の活用を促進します。 ・町内の民泊受入家庭で名人を活用することを理解してもらい、そのシステムづくりをして、体験学習のカリキュラムを組み民泊受入家庭でも体験学習ができるような連携を図ります。 ・名人の特技が分かるような展示会を継続して開催すると同時に、名人の紹介をホームページや他の宣伝媒体でも掲載をします。 ・体験発表の場を増やし、名人として教えることを経験してもらいます。

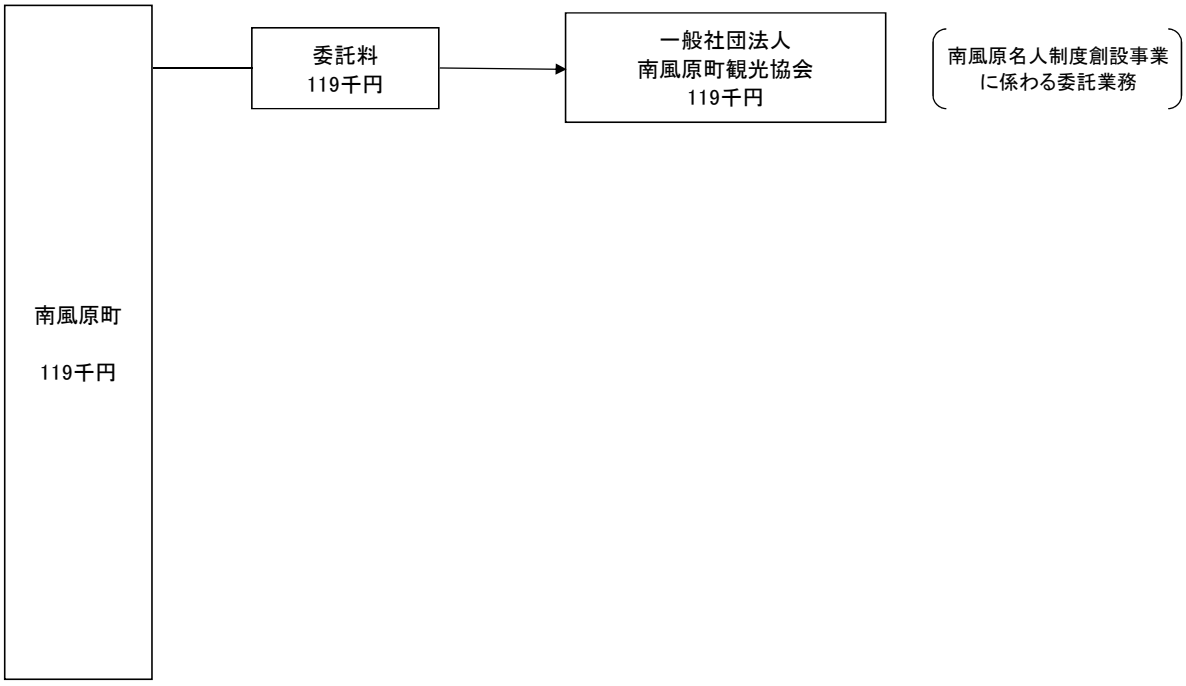
今後の取り組み方針

・今年度、紹介で進めている名人推薦者を次年度も引き続き交渉をして、名人の数を増やし、体験学習のメニューを多様化していきます。
・旅行社や学校などに取り組みの周知を図ります。
・民泊家庭との連携で、南風原町の特色を活かした名人の活用を図り、民泊受入家庭向けの名人を活用した講習会を開催します。
・町内各組織で活用をしてもらう事により、名人の取組や趣旨を理解してもらい名人を増やしていきます。
・名人の特技が分かるように、ホームページやSNSでの発信や、各名人の技の展示会を開催します。
・名人間の情報の交換を図るため、名人会の組織を立ち上げ、次年度から自主的に運営ができるようにします。
・受益者による経費負担も視野に入れて、次年度からも単独事業として継続していきます。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
119	119	95	24	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発信は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○名人の出演要請が少なかったため、謝礼金の支払いが少なかったことや、地域の情報紙に掲載する予定が、その情報紙が廃止されたことで広告費を支出しなかったことによる不用額が生じたため減額となっているが、事業内容に基づく事業執行を行うための予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑧	民泊啓発推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ
					観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

南風原町には宿泊施設がないため、滞在型観光の振興の妨げとなっている。宿泊体験の推進を図り、滞在型観光を促進するため、企画・運営職員を配置し、宿泊体験家庭の開拓やシステムの構築など行って、観光推進体制を強化していく。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,598	3,563	3,375		
	(b) 予算現額	2,644	3,563	3,375		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,954	0	0		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	2,644	3,563	3,375		
B. 執行済額		2,337	3,389	3,149		
うち交付金充当額		1,869	2,711	2,518		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		88.4%	95.1%	93.3%		

予算の状況の説明

・民泊家庭の開拓を、直接訪問を主に実施したため、事業費の低減が図られたことにより、不用額が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
宿泊体験登録家庭数：20家庭	目　標	（5家庭）	（5家庭）	（20家庭）	（　）
	実　績	9家庭	7家庭	7家庭	
修学旅行誘致営業：1回	目　標	（－）	（－）	（1回）	（　）
	実　績	－	－	3回	

達成状況説明

・滞在型観光を促進するため、受け入れ家庭を7家庭増やし累計23家庭として、年間受入学校数13校の175名をうけいれました。
・県内の旅行会社に対して、直接訪問により修学旅行誘致の営業を行いました。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
宿泊体験受入数：90名	目　標	（　）	（25名）	（25名）	（90名）	（　）
	実　績		0名	80名	175名	
新規受入学校：1校	目　標	（　）	（－）	（－）	（1校）	（　）
	実　績		－	－	13校	

進捗状況説明

・平成27年までに開拓した受入民家に対し、県の2団体から修学旅行生を紹介してもらい民泊受け入れを行いました。
・新規民泊受入家庭の開拓のために、民泊を検討している家庭自身に民泊体験をしてもらい、より理解を深めることで、新規の民泊受入家庭登録に結び付けることができました。
・今年は13校の175名を受入することにより、新しい受入家庭が広がりを見せ始めた。その結果、目標数以上の受入を行うことができました。
・民泊事業を初めて3年目、民泊受入家庭を増やすことと民泊体験者を増やすことが重要ですが、修学旅行生については旅行社が3年先まで受け入れ先を決めており、一度に多人数を受け入れられることが条件となります。また、受け入れ家庭においても初めての経験家庭が多く不安があり、生徒たちを受け入れるとともに対応について経験を積むことが必要です。そのような中で県内で民泊受入団体2団体（青年会館・有限会社エヌ・ティ企画）との連携により、民泊担当職員及び民泊受入家庭の研修を含めて実施した結果、青年会館より10校113名、有限会社エヌ・ティ企画より3校62名を受入、年間受入学校数13校の175名となりました。

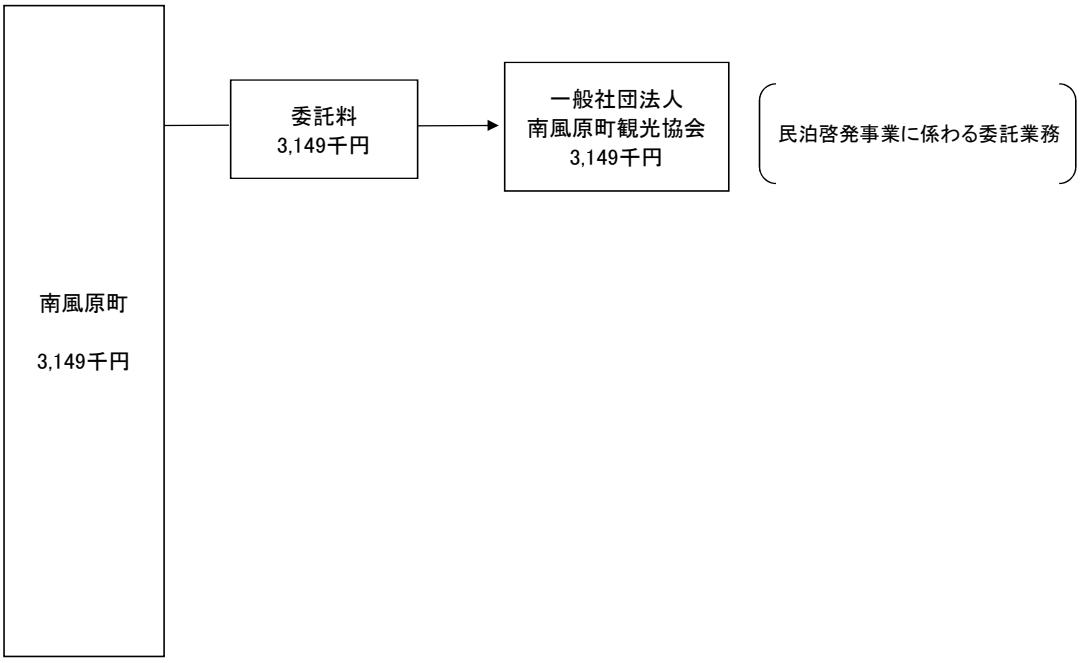
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・南風原町は那覇市近郊ということで子どもたちは学校を卒業しても自宅から通勤をするため空き部屋が少なく、民泊に対する関心も薄いため、時間をかけて民泊受入家庭を増やしていく事が必要であります。 ・体験学習において、自信がないとのことで躊躇する民家がある。 ・民泊の対象である学生の修学旅行における宿泊先は、2年先まで決まっている状態であり、民泊受入家庭を開拓したり、学校へPRを行ってもすぐに誘客は出来ない状況であります。	・町内において、現在民泊をしている受入家庭の紹介等をとおして、口コミも利用しながら受入家庭の開拓に取り組んでいきます。 ・体験学習に抵抗がある民家へのサポートとして、引き続き民泊体験を実施します。 ・沖縄県内ですでに民泊営業をしている団体との連携により、自主開拓ができるまで修学旅行生を紹介してもらう。それにより受入家庭の経験を積むことができます。 ・3年後を見据えて南風原町と関係のある他県の学校や旅行社へのパンフレット送付や、地元旅行社との連携等の単独誘致営業を行います。また、県内離島も対象に誘致営業を行っていきます。

今後の取り組み方針

・民泊家庭間で食事内容や応対などに差が出ないようにするために、年間を通して講習会等を開き、質の向上と安全性の担保を図ります。
・民泊家庭を組織化して、民泊受入家庭が自主的に料理や体験学習、受け入れ応対など横の連絡を密にし常に情報の交換を行うことで、民泊品質の均一化を図るとともに新規受け入れ家庭のサポートも行い、民泊受け入れに対し理解を深め、民泊家庭の増やしていきます。
・南風原町単独で修学旅行生を民泊受け入れ実施ができるようになるまでの間（2～3年間）には、民泊を実施している他の団体と連携をすることやその組織より民泊受入システム等の教育を受ける事により、組織としての民泊事業の定着を図ります。
・他の団体と連携し、学年の一部の受け入れなどを実施することで、受け入れ数を増やしていきます。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,149	3,149	2,518	631	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発進は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑨	南風原地域発信力強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(6)－イ 地域づくりを担う人材の育成
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

へちま生産日本一を誇る南風原町。本町では南風原産ヘチマの愛称を「南風原美瓜（びゅうりー）」と名付け、ブランド化を図っている。そのヘチマを観光物産として元気、若いという良いイメージを付けて魅力を町内外に発信するため、ビュウリーズというダンスユニットを結成し、活動する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,390	3,125	3,158	3,634	
	(b) 予算現額	2,649	2,977	2,680	3,634	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 741	▲ 148	▲ 478	0	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	2,649	2,977	2,680	3,634	
B. 執行済額		2,459	2,883	2,565	3,599	
うち交付金充当額		1,967	2,306	2,052	2,879	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		92.8%	96.8%	95.7%	99.0%	

予算の状況の説明

・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
町PR活動イベント出演	目　標	（　5回　）	（　5回　）	（　5回　）	（　　）
	実　績	24回	15回	23回	

達成状況説明

・年間37回の練習の上に立った23回のイベント出演で、南風原町の『南風原町へちま大使』として特産品のPR等を実施しました。
・ヘチマ大使との事で、イベントなどで質問に答えるためヘチマについての学習会を町内JAの協力を得て勉強会を2回行いました。
・新しいユニホームをつくり、新しい曲もマスターしレパートリーを増やしました。
・ビュウリーズのメンバーは小学生のため、中学生になると退団をするので、補充のメンバーを公募で採用をしますが、今回からは2次審査に既存のメンバーも対象としてオーディションを受けてもらい、メンバーの質の向上と安定化をはかりました。
・ビュウリーズの活動をサポートしてもらう父母会も結成しました。
・イベント出演回数が目標回数を上回ったのは、町内外においてビュウリーズの活動が浸透して夏祭りや各団体のイベントへの参加依頼が増えてきたことと、練習による質の向上があったことも一因と考えられます。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
新聞等への活動掲載：5回	目　標	（　5回　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	4回				
ラジオへの出演：5回	目　標	（　5回　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	1回				

進捗状況説明

・地域内外のイベントに23回出演し、特産品のPR等を実施しました。
・新しいユニホームをつくり新しい曲もマスターしレパートリーを増やしました。
・ビュウリーズのメンバーは小学生のため、中学生になると退団をするので、補充のメンバーを公募で採用をしますが、今回からは2次審査に既存のメンバーも対象としてオーディションを受けてもらい、メンバーの質の向上と安定化をはかりました。
・ビュウリーズの活動をサポートしてもらう父母会も結成しました。
・マスコミへの露出は新聞等への取材が4回、テレビではNHKのニュースHoteyeの出演が1回ありましたが、ラジオへの出演はFM放送の1回だけであり、PR不足が要因と考えられるので次年度においてはマスコミの出演回数を増やすことを目標とします。

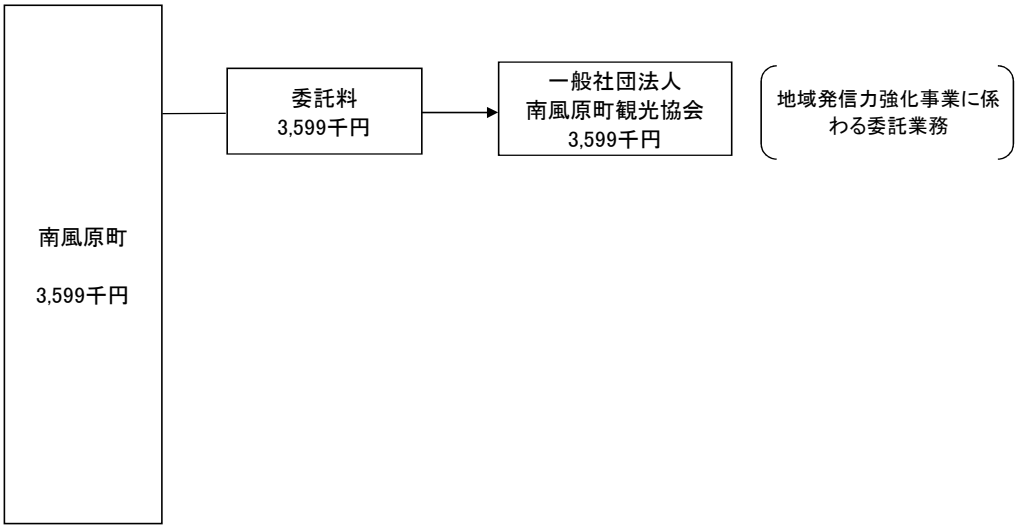
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・南風原町産ヘチマを「はえばる美瓜（ビュウリー）」と名付け、ブランド化を図るため、ビュウリーズダンスユニットを結成しました。物産展やイベント等で販促活動を行い、南風原町産ヘチマ及び観光PRを図り、本町の魅力を発信するために事業を実施しているが、メンバーが小学生のため夜のイベントは父母の付添が必要となるため家族の協力が必須となります。 ・ビューリーズは、小学生ダンスチームで結成しているので、卒業するとメンバーの入れ替えがあり、補充要員の確保が必要となってきます。 ・同一メンバーで練習量も限られているので、個人の資質の程度により、チームとしての質の低下を招きやすい。 ・一般の小学生のため、舞台での態度や言葉遣い等に問題があります。	・ビューリーズの活動の中で、父母会を結成しましたので、父母の理解とサポート体制の充実を図ります。 ・現在開催しているキッズダンススクールの充実により補充要員の確保に努めます。 ・オーディションは現在のメンバーも受けることにより、緊張感をもたし質の向上を図ります。 ・メンバーには、週2回以上の練習を義務付け、キッズダンススクールの活用もメンバーの視野に入れます。 ・ダンスの講習以外に、マナー講座、舞台での立ち居振る舞いや態度、方言講座、ヘチマの勉強会などの教養講座も開催します。 ・地元以外のマスコミや舞台に積極的に参加します。

今後の取り組み方針

・小学生ダンスチームのため、卒業していく子供の後継者を町内小学校に公募して、南風原町の子供達の多くが、自分たちの地域を意識することの出来る機会を増やしていくとともに、現メンバーもオーディションの対象とします。
・はえばる美瓜のPR活動をしていくために勉強会を行ったり、イベント・メディアの出演も広げていき、南風原町のPRをする活動を推し進めていきます。
・キッズダンススクールでレッスンをしている子供達の積極性を引き出し、次世代のビューリーズを育て、地域の子供達を育てていきます。
・町内のさまざまな分野のイベントと連携し南風原町の活性化に繋げるためPR活動を行い、練習を重ねていきます。
・イベントなどに参加するには回数が増えれば増えるほど保護者の負担増になるので、保護者との意思疎通を図るためにも父母会の充実を図ります。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,599	3,599	2,879	720	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発進は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑩	ヒーローのまちづくり事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	本町の観光振興、地域活性化のため、全国的なヒーローや、南風原町が輩出した多彩な人材の功績や経歴、所有品等の観光情報発信を行うためイベントなどを定期的に行い、観光客を本町へ誘導する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,568	7,583	7,961		
	(b) 予算現額	3,456	7,583	7,961		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,112	0	0		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	3,456	7,583	7,961		
B. 執行済額		3,389	7,484	6,523		
うち交付金充当額		2,711	5,987	5,218		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		98.1%	98.7%	81.9%		
予算の状況の説明		・計画当初は、円谷プロダクションと連携した脚本賞の実施を見込んでいたが、今年度は脚本賞の実施に向けた機運づくりのPRを実施したことで事業費が減額となったため、不用額が生じた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
イベント、フォーラムの開催：1回	目　標	（　2回　）	（　1回　）	（　1回　）	（　　）
	実　績	5回	5回	2回	
脚本賞：1回	目　標	（　－　）	（　1回　）	（　1回　）	（　　）
	実　績	－	1回	1回	

達成状況説明

・ヒーロー脚本賞には、企画部会2回、審査2回（一時審査・2次審査）を経由して、受賞者の発表と表彰式を開催しました。
・金城哲夫脚本賞には、『南風原ヒーロー脚本賞』終了とともに運営委員会を立ち上げ、運営委員会3回、企画部会6回、総務部会2回、広報部会1回、展示上映部会2回の会議を持ち次の金城哲夫賞に向けて取り組みました。尚、今回の金城哲夫賞は円谷プロダクションとの連携をとり行う為、円谷プロダクションとも東京と沖縄で各自が訪問して打合せを行いました。
・金城哲夫生誕地事業として、地域住民と一緒に運営委員会を立ちあげ、記念事業としてウルトラマンプレシャスステージ2と同時開催した「金城哲夫の世界展」を、円谷プロダクションと共同で実施しました。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（29年度）
イベント、フォーラムの参加人数：1,000人	目　標	（　　）	（　2回（1,000人））	（　1,000人　）	（　1,000人　）	（　5,000人　）
	実　績		5回（8,274人）	（　2,950人　）	3,236人	
脚本賞のイベント参加人数：1,000人	目　標	（　　）	（　－　）	（　1,000人　）	（　1,000人　）	（　　）
	実　績		－	（　50人　）	（　50人　）	

進捗状況説明

・ヒーロー脚本賞は、部会や審査会において企画、実施し、受賞者の発表と表彰式を開催しました。
なお「脚本賞」は、「ウルトラマンプレシャスステージ」と一緒に開催する予定でありましたが、お互いの格式を持たすために開催日を別途に設定し開催したところ、脚本賞は関係者中心の人数になり目標を下回りました。
・金城哲夫生誕地事業として、地域住民と一緒に運営委員会を立ちあげイベント等を開催してきましたが、前年度より始めた、「ウルトラマンプレシャスステージツアー2」との同時開催で、「金城哲夫の世界展」も円谷プロダクションと共同で実施し、「ウルトラマンプレシャスステージ2」に来場したお客さんが、「金城哲夫の世界展」に来場するなどの相乗効果があり、また今回は、円谷プロダクションと連携して金城哲夫の関係したキャラクターを展示したことにより、南風原町民のみならず県内外の多くの方に来場いただき、現在の取り組みのPRをしました。また、金城哲夫前日祭のツアーも実施したところ、県外から50名余の方が参加し、金城哲夫氏に関するより深い部分のPRもでき目標を上回ることができました。
・キッズパークにおいて上映会を開催し、186名の観客が参加をしました。

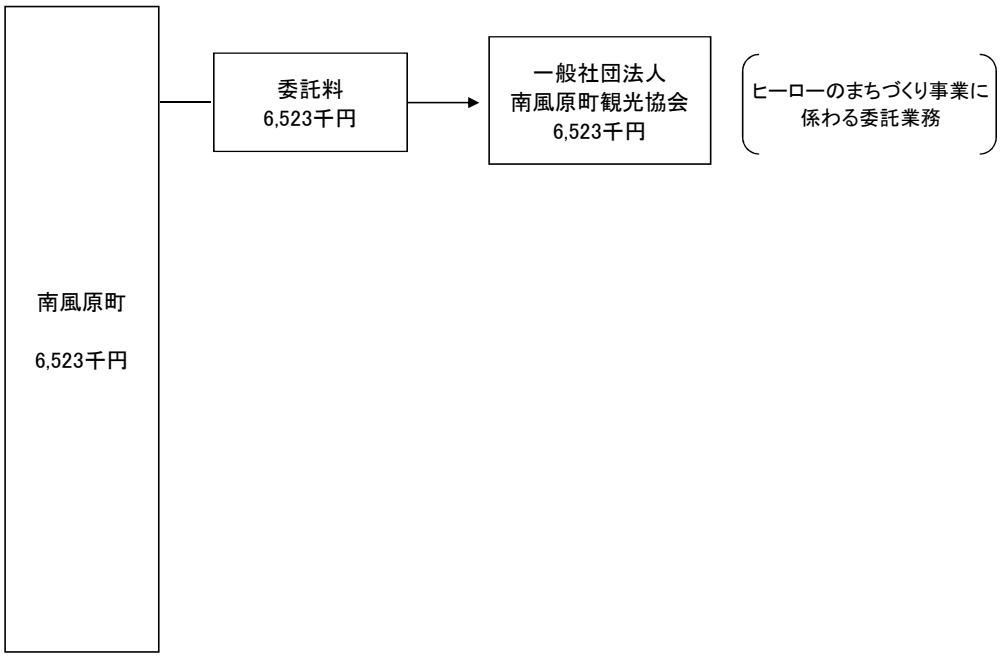
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・運営委員会における各部会の担当者を軸に進めているが、関係者が多いため日程調整等に時間がかかる。 ・金城哲夫脚本賞に向けて円谷プロダクションとの連携が必要。 ・金城哲夫生誕地事業として、ウルトラマンプレシャスステージ2の開催に合わせ、同時開催した「金城哲夫の世界展」にも大勢の人に集まってもらい、円谷プロダクションとの連携により進める事ができました。 ・上映会も従来通り1日3回上映し、多くの子どもたちが金城哲夫とウルトラマンの関係を知る機会となりました。	・『金城哲夫事業運営委員会』が、ヒーローのまちづくり事業における町民のサポート団体として事業の下支えをしてくれるようになりましたが、事業実施について時間配分に工夫をする必要がある。 ・円谷プロダクションと連携して行う脚本賞について、密な連携をとる。 ・上映会も、金城哲夫とウルトラマンの関係をより周知できるよう工夫する。 ・ウルトラマンプレシャスステージも2度開催され、南風原町において定着し始めたので、ステージと同時に行う金城哲夫展もより効果的な開催方法を検討します。

今後の取り組み方針

・イベント（上映会）やフォーラムを定期的に行う。
・金城哲夫事業運営委員会は、円谷プロダクションと連携をして、金城哲夫脚本大賞を実施し、南風原町が金城哲夫の育ったまちとしての認知度を高め、金城哲夫を中心としたまちづくりを目指します。
・金城哲夫の脚本原稿や大賞受賞原稿などを活用して、町内において上演ができるような下地づくりと組織化など体制づくりを行います。
・金城哲夫が沖縄に帰ってからの業績の検証を行い、記録として後世に残し伝えていくように取り組みます。
・南風原町で金城哲夫に関するウルトラマンのモニュメントや資料などが見れるシステムにつなげていく事により、将来、観光客の通過する町からとどまる町への転換ができるように取り組みを強化します。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,523	6,523	5,218	1,305	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発進は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑪	シマじまガイド事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ
					観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

訪問客に地元の魅力をあますところなく伝え、南風原町の魅力を知っていただくため、着地型観光メニューとして「シマじまガイド」（名所案内巡り）を実施し、町内外からの観光客等を受け入れるシステム構築をし、観光振興を図る。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,132	4,240	5,308	6,874	
	(b) 予算現額	1,132	4,240	5,308	6,874	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	1,132	4,240	5,308	6,874	
B. 執行済額		1,132	4,172	4,933	6,124	
うち交付金充当額		905	3,337	3,946	4,899	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		100.0%	98.4%	92.9%	89.1%	

予算の状況の説明

・事業途中に事業運営企画職員が退職し、後任を採用するまでに期間を要したことで不用額が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
ガイド養成：10名	目　標	（10名）	（10名）	（　）	（　）
	実　績	11名	7名		
シマじまガイド開催：12回	目　標	（－）	（12回）	（　）	（　）
	実　績	－	12回		

達成状況説明

・ガイド育成研修の受講者を呼びかけたが、7名しか集まらず、目標の10名のガイド養成にとどかなかった。
・南風原町の旧集落12ヶ字の観光シナリオをもとに、7名のガイド研修を6回開催。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		24年度	25年度	26年度	27年度	目標値（28年度）
シマじまガイド事業利用者数：1,450人	目　標	（1,000人）	（1,300人）	（1,250人）	1,450名	（1,450人）
	実　績	3349人	1,458人	321名	753名	
ガイド回数：1回／人	目　標	（－）	（－）	（－）	（1回／人）	（　）
	実　績	－	－	－	3回／人	

進捗状況説明

・ガイドの研修を実施し、7名のガイドの研修を行いました。しかし、現場での案内は難しい部分もあり、なおかつ地域が昔と今で風景が変わっている所を案内客に想像してもらうには、昔から知っている地元の人である『地域ガイド』も一緒に案内することで、参加者の満足度向上、ガイドの負担軽減に繋がりました。
・南風原町は平和学習の中心地であり、多くの修学旅行生が訪れる。その中で平和講座の要望があり語り部の派遣をしています、今年は4回の派遣要請があり、300名の生徒及び団体見学者に平和講話をしました。
・告知PR不足に加え、修学旅行生に向けた平和講話の需要が全体的に少なくなってきているため、依頼を受ける回数の減少に繋がった。

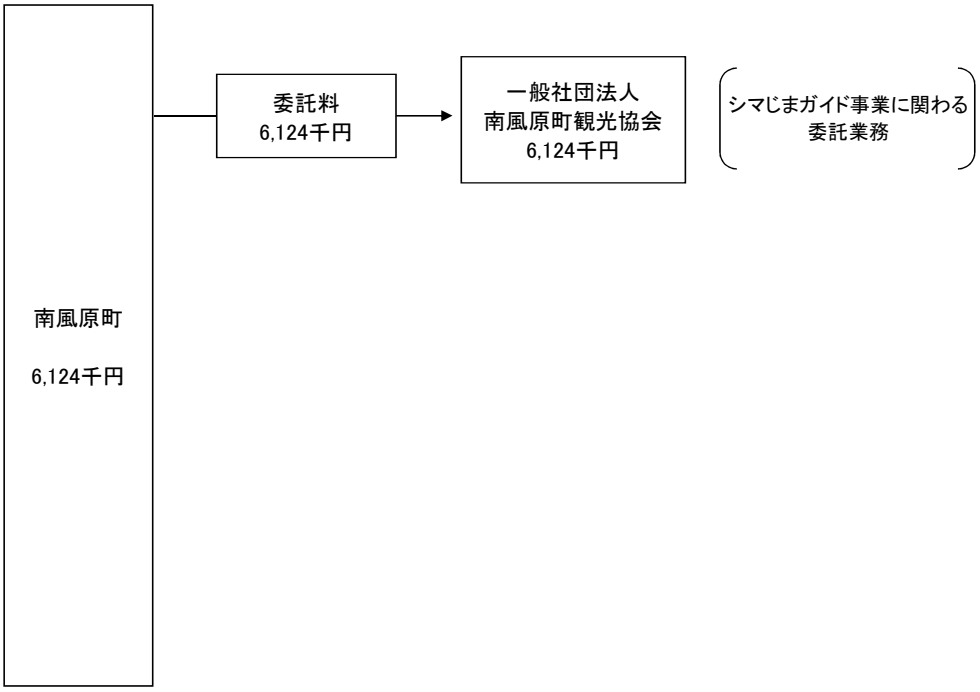
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・集客を伸ばすために、PRや告知を改善し、認知度向上が必要である。 ・ガイドの中には案内人として未熟な方もいるため、スキルアップや観光客の満足度を高める取り組みが必要である。 ・少人数でもガイドが出来るように、観光案内所の職員もガイド養成をおこないました。 ・平和講座の語り部の減少による語り部不足が生じている現在、昨年発掘した語り部も年齢的に高齢のため、遠くに派遣は出来ない。	・以前から行われている町の伝統行事など、事前に分かっている行事はホームページや新聞などで、早期に企画、告知をすることで他地域からの集客につなげるように取り組みを強化します。 ・開催告知の方法を旅行業者への売り込みも視野に入れ、ブラッシュアップが必要となってきます。 ・ガイドの中には案内人として未熟な方もいるため、既存ガイドのスキルアップ研修を行います。また、地域ガイドの研修も検討する必要があります。 ・観光案内所を拠点に観光をするので、シマじまガイドの担当職員もガイド養成を行い、常時要請があれば少人数からでもガイドが行えるようにします。 ・平和講演も沖縄戦だけではなく、戦後もいれた現在語り部が必要で、比較的若い年代の語り部を養成する必要があります。 ・他事業とも連携し、旅行社をはじめ団体などへの告知活動に力をいれます。

今後の取り組み方針

・イベント事項は、早期に企画をして、旅行社などに告知をして集客依頼をします。
・観光協会職員を含むガイド養成講座を開催します。
・地域ガイドを中心に、町内のガイドを行う取り組みも検討します。
・新しく2つの集落と一つの伝統行事のシナリオを作成し、8回の案内をして地域と一緒に定着を図っています。
・案内シナリオの追加作成を進めます。
・他地域と違った沖縄の文化、習慣などを案内ができるパンフレット等を製作します。
・旅行者や各種団体へのPR活動に力を入れ、また、民泊事業との連携をとった告知も行っていきます。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,124	6,124	4,899	1,225	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発進は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－⑫	黄金森公園スポーツ施設活性化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－（1）－イ 「スポーツアイランド沖縄」の形成
担当部課名	教育委員会　教育総務課	事業実施（予定）年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容

良好なスポーツ・トレーニング環境の提供により観光と結びつけたスポーツコンベンションの誘致、開催を図るため、黄金森公園スポーツ施設の機能強化と受入体制の整備を行う。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	18,580	22,669	18,480		
	(b) 予算現額	18,580	47,549	53,192		
	(c) 増減額 (b−a)	0	24,880	34,712		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	18,580	47,549	53,192		
B. 執行済額		18,238	44,740	51,967		
うち交付金充当額		14,590	35,792	41,573		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）（B/A）		98.2%	94.1%	97.7%		

予算の状況の説明

当初交付決定時から、更なる施設整備・備品購入・受入体制整備を行い、継続的なキャンプ誘致等のため。入札執行残等が生じているが、事業計画通り執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
黄金森公園陸上競技場フィールド芝生の整備委託	目　標	（　実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	実施			
芝生整備嘱託員：1名	目　標	（　1名　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1名			
備品の整備（芝刈機：1台、スイーパー：1台、肥料散布機：2台）	目　標	（　備品整備　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	備品整備			
Jﾘｰｸﾞｷｬﾝﾌﾟ等支援委託（南風原町ｲﾒｰｼﾞ動画作成・町内青年会ｴｲｻｰ派遣、町PRﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ、ｸﾞｯｽﾞ作成・名古屋ｸﾞﾗﾝﾊﾟｽ春季ｷｬﾝﾌﾟ受入に係る警備・ﾃﾝﾄ設営・観客送迎ﾊﾞｽ運行など一式）	目　標	（　実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	実施			
人工芝、ラインカー、スコアボード、人工芝台車購入	目　標	（　備品整備　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	備品整備			

達成状況説明

黄金森公園陸上競技場及び野球場の芝生整備、スポーツキャンプ備品整備、キャンプ受入体制整備により施設環境を整備・強化して、サッカーのJ1チーム春季キャンプ及び県外大学等の陸上競技合宿の誘致を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
陸上、サッカー合宿利用者数	目　標	（　）	（　450人　）	（　550人　）	（　）	（　）
	実　績		1,123人	1,207人		
キャンプ見学者数	目　標	（　）	（　－　）	（　10,000人　）	（　）	（　）
	実　績		－	約8,000人		

進捗状況説明

黄金森公園陸上競技場及び野球場の芝生整備、スポーツキャンプ備品整備、キャンプ受入体制整備により施設環境を整備・強化して、サッカーのJ1チーム春季キャンプ55人、県外大学等の陸上競技合宿等で1,152人が利用した。今後も受入体制を整備・強化し継続的なキャンプ及び新たな合宿団体受入に取り組みたい。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・観光資源が少ないため、現在の施設を活用し、県外からの観光客を呼び込む事業として、芝生の整備やキャンプ関連備品・受入体制の整備・強化を行った。 ・近隣の施設においても同様の取組を行っており、今後も施設や受入体制の整備強化し、特色ある事業展開を行い、継続的なキャンプ受入及び新規の合宿受入を行う。	・利用者や見学者のニーズを把握するとともに、他の観光客・イベント案内などにより効果的な取組を強化する。 ・沖縄南風原デー開催により、観光客の増加に繋げる。

今後の取り組み方針

芝生の育成、整備をメインとして施設整備を進めるとともに、町観光協会、町商工会等と連携し、観光と結びつけた新たなスポーツコンベンションの誘致に向けて取り組みたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
52,095	51,967	41,573	10,394	128

- 南風原町 51,967千円
  - 報酬 1,843千円
    - 芝管理嘱託員報酬 1,843千円（芝生整備嘱託員）
  - 旅費 410千円
    - 沖縄ツーリスト(株) 176千円（名古屋グランパスとのキャンプ誘致活動及び沖縄南風原デー事前調整）
    - (有)ガリバー旅行企画 234千円（沖縄南風原デー及び南風原町PR）
  - 委託料 32,353千円
    - 東洋メンテナンス(株)沖縄営業所 8,066千円（黄金森公園陸上競技場芝生管理委託業務）
    - (株)近代美術 24,287千円（Jリーグキャンプ等支援委託業務）
  - 備品購入費 17,361千円
    - (株)屋我商会 9,612千円（芝刈機、スイーパー、肥料散布機購入事業）
    - スポーツショップグシケン 5,821千円（人工芝購入事業）
    - (合)宮平体育堂 884千円（サッカースコアボード及びラインカー購入事業）
    - スポーツショップグシケン 245千円（人工芝台車購入事業）
    - 東洋メンテナンス(株)沖縄営業所 205千円（移動式スプリンクラー購入事業）
    - (株)中央医療器 124千円（担架購入事業）
    - (株)金城組 416千円（人工芝保管用すのこ購入事業）
    - 東洋メンテナンス(株)沖縄営業所 54千円（六角リペアツール購入事業）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令に基づく指名競争入札及び随意契約により実施しており、妥当であったと考える。 ○事業年度に見合った予算規模で適正であったと考える。 ○費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており、適正であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑬	南風原町中小企業現状調査分析事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(8)－ア 地域を支える中小企業の振興
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	「南風原町中小企業・小規模企業振興基本条例」に基づき、町内の中小企業、小規模企業の振興を図るために、町内の事業所の現状や課題を把握する為の調査を行う。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,452				
	(b) 予算現額	4,422				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 3,030				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	4,422				
B. 執行済額		4,422				
うち交付金充当額		3,537				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明	・調査費が当初未見込んでいたよりかからなかったことによる減額が発生しているが、計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
アンケート調査	目　標	（　1,200事業者　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	1,680事業者			
アンケート結果の分析	目　標	（　結果の分析　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	結果の分析			

達成状況説明	・アンケートの送付先はNTTの電話帳データと商工会の会員リストを活用して送付することで、目標としていた1,200事業者を上回ることができた。 ・アンケートの調査結果を分析し、町内事業所の実態の把握をおこなった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	30年度
町内事業所の現状や課題の把握	目　標	（　　）	（ 現状・課題の把握 ）	（　　）		（　　）
	実　績		現状課題の把握			

進捗状況説明	・町内事業所に対し、全数アンケート調査をおこなったところ、送付した1,680者中459者の回答を得た。調査の分析をした結果、町内業種の割合や経営状況等の現状把握、また雇用・採用や事業承継の問題といった課題などを把握することができた。 ・アンケート調査の周知不足や、調査期間が年末の繁忙期に重なったことにより、459者となった。

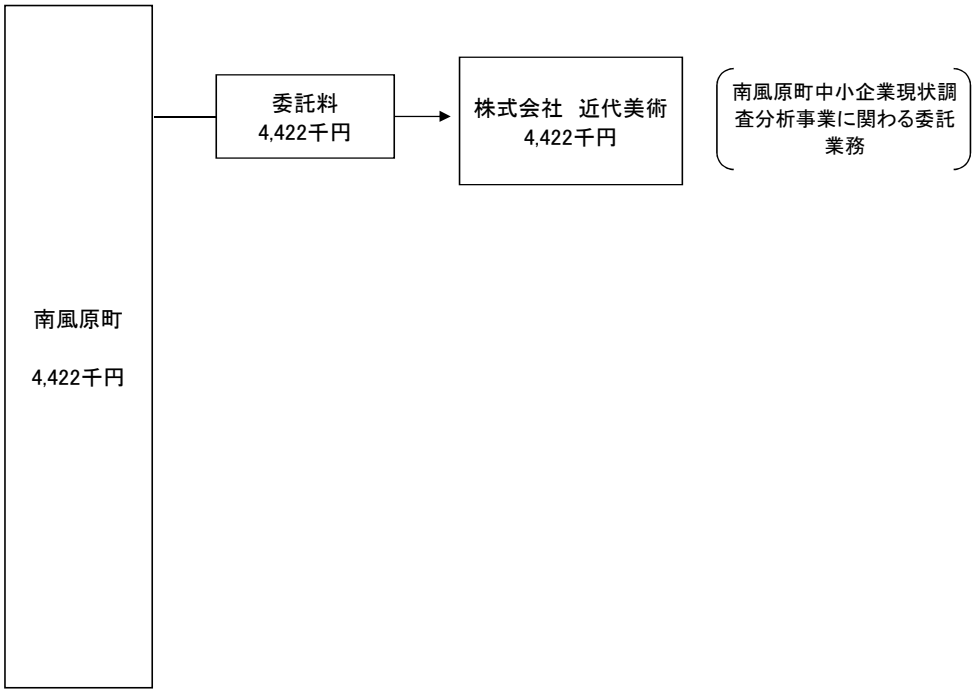
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・アンケートの回収率を増やすため、アンケート用紙の送付だけではなく、商工会と連携して回答のない事業所に電話連絡をして回答を促したり、事業所に直接訪問することにより直接ヒアリングなどをおこなったが、目標としていた5割回収にはとどかなかった。 ・アンケート調査と並行して、町内の各通り会や絣組合、印刷団地組合といった町内団体と、町内事業所を更に活性化するための施策づくりに活かすため、地域部会（意見交換会）を開催したが、参加人数が少なかった。	・アンケートの回答期限を延ばしたり、事業者への電話連絡での回数を増やしたり、町広報誌や商工会会報誌にアンケート御協力のお願いを掲載するなど、アンケートの回収率向上に努める必要がある。 ・次年度は本事業の調査分析結果をもとに、町行政が運営する振興協議会を開催し、町内事業所と協働で施策づくりの検討をおこなっていく予定であるので、参画者が増えるよう啓発活動や様々な宣伝をおこなっていく。

今後の取り組み方針

・調査によって把握した町内事業所の現状や課題の分析結果を基に、行政と中小企業者、小規模企業者が協働参画する振興協議会において、中小企業・小規模企業に対する支援施策や政策を検討し、町が行う振興施策に意見の反映を図れる体制をつくる。
・協議会からの意見を参考に、審議会にて施策の有効性や効果の検証をおこない、実際に施策を立案し実施する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,422	4,422	3,537	885	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者の選定はプロポーザル方式にておこない、3者からの応募があった。選定委員会を設立し、委員が採点をおこなって最も得点の高い業者を選定した。 ○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－⑭	南風原町地域ブランド構築・展開プロジェクト		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（9）－ア ものづくり産業の戦略的展開
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成２７～２９年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）
事業内容	南風原町の特産品を通した地域振興を図るため、主に町特産の農産品等を活用し異業種間の連携を促進しつつ、本町特産品の良さを引き出すための調査・研究及び、本町特産品のブランド化を図るための組織づくりを行い、ブランド認証スキームを確立するとともに、南風原ブランドの新商品の開発、販路開拓を行う。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,477	8,322	7,718	19,793	
	(b) 予算現額	5,477	7,411	7,718	15,119	
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 911	0	▲ 4,674	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	5,477	7,411	7,718	15,119	
	B. 執行済額	3,971	7,158	7,718	15,112	
	うち交付金充当額	3,176	5,726	6,174	12,089	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		72.5%	96.6%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		・担当職員が中途で退職したことによる人件費の減額や、販路開拓事業を一部おこなわなかったことによる事業費の減額により、不用額が発生しているが、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
調査研究の実施	目　標	（　2回　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	3回			
地域ブランド認証審査会開催：2回	目　標	（　2回　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	3回			
商品開発サポート事業者、団体：10箇所	目　標	（　10箇所　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	19箇所			
販路開拓、拡大、テスト販売：3回	目　標	（　3回　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	4回			

達成状況説明

・食品分野の講習会を2回開催、非食品分野ではモノづくりの先進地視察を1回（3箇所訪問）おこなった。
・今年度は地域ブランドの推奨商品として審査会の中で6品（食品5品、非食品1品）の選定をおこなった。
・商品開発サポート事業者、団体については、食品部門分科会に16名、非食品部門分科会に3名の計19名に参画いただいた。
・東京都内への出展1回、県イベントへの出展1回、町内イベント2回の計4回の出展をおこなった。またスターフルーツを使用した商品開発やPRを図るため、
　12月に開催したスターフルーツまつりでは、町内の多くの事業所に参画してもらい、数点の商品に関しては商品化へ向けた取り組みが進んでいる。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（29年度）
地域ブランドの定義の確定	目　標	（　）	（　－　）	（　定義の確定　）	（　）	（　－　）
	実　績		－	確定		
地域ブランド戦略の策定	目　標	（　）	（　－　）	（　戦略の策定　）	（　）	（　－　）
	実　績		－	未策定		
ブランド認証スキームの構築	目　標	（　）	（　－　）	（　スキーム構築　）	（　）	（　－　）
	実　績		－	構築		
南風原町ブランド認証：2件	目　標	（　）	（　－　）	（　2件　）	（　）	（　－　）
	実　績		－	6件		
商品開発：2品	目　標	（　）	（　－　）	（　2品　）	（　）	（　－　）
	実　績		－	2品		
既存商品のブラッシュアップ：2品	目　標	（　）	（　－　）	（　2品　）	（　）	（　－　）
	実　績		－	2品		
開発品のうち実際に商品化された商品の販売数 ゆめかなえぼしマドレーヌ（H25開発）：1700食	目　標	（　）	（　1,000個　）	（　1,700個　）	（　）	（　6,000個　）
	実　績		1,641個	5,100個		
開発品のうち実際に商品化された商品の販売数 美瓜カレー（H26開発）：350食	目　標	（　）	（　100食　）	（　350食　）	（　）	（　600食　）
	実　績		180食	521食		

	進捗状況説明	・地域ブランドの定義については、地域ブランド構築委員会で協議を行い、南風原で生み出された伝統的製品や技術、商品やサービス、南風原町がPRできる製品等を定義とした。 ・地域ブランド戦略の策定については、今年度は取り組めなかった。次年度は、ブランド策定委員会を活用し、どのような戦略を策定するのが有効なのか調査研究をおこなっていく必要がある。 ・今年度に関しては、町内の事業者を多く集める意味も含めて認証ではなく推奨という形をとり、6品を推奨商品として選定した。 ・今年度は新商品として、食品分野からかぼちゃプリン、非食品分野から琉球絣ストールが開発された。 ・ゆめかなえぼしマドレーヌは、味のブラッシュアップを図り、味わいがまろやかになった。美瓜カレーは美瓜ピクルス入りラー油をトッピングすることで、味に変化をつけ、大人も楽しめるメニューとなった。 ・商品のブラッシュアップや認知度の向上を図ったこともあってか、販売数を前年より大幅に伸ばすことができた。

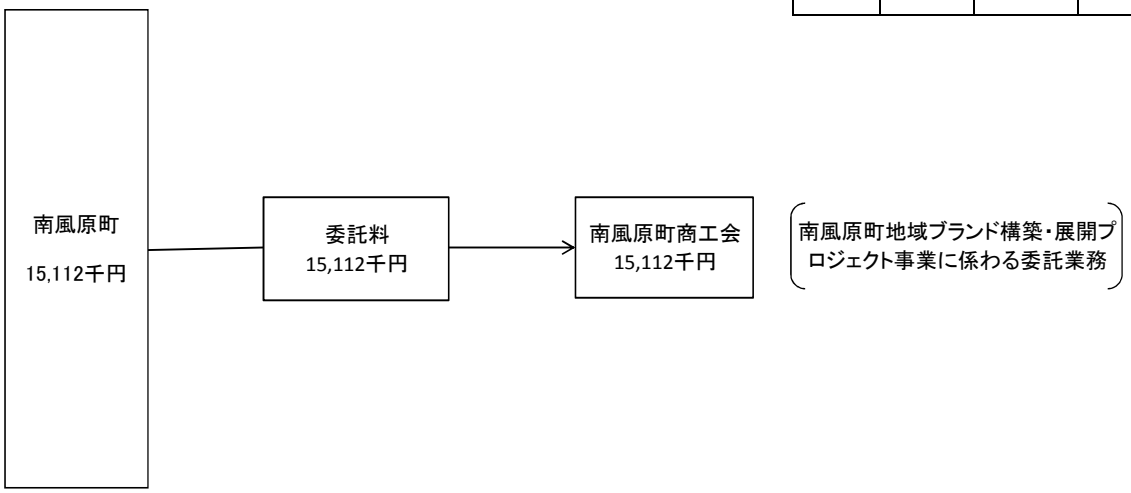
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・今年度推奨した商品6品について、今後どういったPRを行い、商品のブラッシュアップを図っていくか検討する必要がある。 ・ブランド認証制度については、事業者が商品を認定してもらいたいと思わせるような魅力あるものにすることや、ブランド付加価値の向上などのブラッシュアップを図っていく必要がある。 ・地域ブランド戦略については、調査研究の検討が足りず、今年度策定できなかった。 ・本年度新たに開発したかぼちゃプリン、琉球絣ストールはまだ認知度が低いため、認知度を向上させる必要がある。 ・ゆめかなえぼしマドレーヌ、美瓜カレーの販売数は順調に伸びているが、今後は関連する商品（南風原町産スターフルーツ「ゆめかなえぼし」を活用した商品、南風原町産へちま「はえばる美瓜」を活用した商品）の取扱店を増やしていくことが課題となる。	・推奨商品の製造事業者とヒアリングを行い、事業者の今後の展開を考慮しながら、市場調査を行い、調査結果を踏まえて戦略的かつ効果的な商品のブラッシュアップを行う。 ・ブランド認証された商品の特典の強化を図り、事業者が参画したくなる仕組みづくりをおこなう。（商工会会報誌での特集や、町広報誌でのPR、新聞等への掲載など） ・地域ブランド戦略については、どのような取り組みが有効なのかを明らかにするため、地域の現状と課題の見える化を図る必要がある。 ・かぼちゃプリン、琉球絣ストールについては、本事業で様々なバックアップを図り認知度の向上を図っていく必要がある。 ・ゆめかなえぼしマドレーヌ、美瓜カレーのPR及び参画事業者の確保、ブラッシュアップを今後も継続しておこなう。

今後の取り組み方針

・今年度南風原ブランドとして推奨した商品については、次年度にマーケティング調査を行い、調査結果を踏まえたブラッシュアップやPRを図ることで新たな販路先の開拓や南風原ブランドの認知度向上を推進する。
・今年度策定できなかった地域ブランド戦略については、南風原町の魅力や誇り等を掘り起こすとともに、専門家を招聘しての委員会開催や、他自治体の先行事例の調査研究を行い、南風原らしさが効果的にPRできるものを策定していく。
・新たに開発したかぼちゃプリンについては、商品PR、ブラッシュアップなどの事業者のサポートを行い、南風原の新たな特産品としての可能性を検討する。また琉球絣ストールに関しては、バイヤーとの商談やECサイトでの販売も視野に入れ、販路開拓を目指す。
・ゆめかなえぼし（スターフルーツ）マドレーヌ、美瓜（へちま）カレーは売上が順調に伸びているので、今後も継続して販売を続け、販路拡大やPRを図っていく。
・南風原町産スターフルーツ「ゆめかなえぼし」、南風原町産へチマ「はえばる美瓜」の活用（活用事業者の確保など）、認知度UPに向けた取り組みを推進する。
・今後も販路先の開拓や販売実績の向上といった目標を達成するために、地域ブランドの育成や、認証制度等を活用して県内外に町特産品の情報を発信していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,112	15,112	12,089	3,023	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○随意契約により委託した南風原町商工会は、商工業の総合的な改善発達を図るための組織として設立された、町内唯一の地域経済団体であり、地域経済に精通し、町の歴史背景や地域性、地域資源を十分理解している組織であり、本業務の遂行に必要な多くの町内事業者との広範なネットワークも有していることから、妥当であると考える。 ○担当職員が中途で退職したことによる人件費の減額や、販路開拓事業を一部おこなわなかったことによる事業費の減額により、不要額が発生しているが、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－⑮	南風原町観光PR促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	本町の観光、文化、特産品を紹介する観光物産展を開催する。特産品の販売等を行い、特産品の販路拡大、観光PRを実施する。さらに、本町の認知度向上と地域資源の情報発信・観光客誘客強化を図るため、イメージキャラクターを本町のPRツールとして活用する。				
実施方法	■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度（繰越）	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	59,688	－	7,091	9,300	
	(b) 予算現額	52,597	－	18,366	9,300	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 7,091	－	11,275	0	
	(d) 前年度繰越額	－	10,674	－	－	
	A. 計 (b+d)	52,597	10,674	18,366	9,300	
B. 執行済額		41,032	10,350	17,495	9,287	
うち交付金充当額		32,825	8,280	13,996	7,429	
次年度繰越額		10,674	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		78.0%	97.0%	95.3%	99.9%	
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
イメージキャラクターによる観光PR活動（1年間で100回）	目　標	（　活動　）	（　活動　）	（　100回　）	（　）
	実　績	活動	活動	124回	
物産展の開催	目　標	（　開催　）	（　開催　）	（　開催　）	（　）
	実　績	開催	開催	開催	

達成状況説明

・町内や県内の各種イベントに参加し、南風原町のPRをおこなった。また、はえるんの認知度を町内から広めていくため、無認可保育園や幼稚園、学童保育などの巡回を行った。
・南風原物産展を開催して町内事業所と商工会との連携をとることで、南風原町の物産をPRし、町への誘客を図ることができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
物産展来場者：12，000人	目　標	（　）	（ 11,000人 ）	（ 12，000人 ）	（ 12,000人 ）	（　）
	実　績		11,000人	12，000人	14,700人	
観光案内所の利用者数：10，000人	目　標	（　）	（　－　）	（ 5，000人 ）	（ 10,000人 ）	（　）
	実　績		－	5，557人	6，827人	
はえるん等利用申請数：60件	目　標	（　）	（　－　）	（　－　）	（ 60件 ）	（　）
	実　績		－	－	37件	
はえるんファンクラブ加入：900人	目　標	（　）	（　－　）	（　－　）	（ 900人 ）	（　）
	実　績		－	－	281人	

進捗状況説明

・物産展来場者の数は目標を達成できており、南風原の物産を通して町内外に南風原の魅力をPRできた。
・案内所の利用者数は目標値は達成できなかったが、昨年よりも人数は増えており、需要が高まっていると思われる。
・はえるん等利用申請件数は目標を下回ったものの、多くの方にはえるんのイラストやロゴを使用してもらうことで南風原町のPRを図る事ができた。
・ファンクラブの会員を増やしていくための工夫を今後はおこなう必要がある。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・はえるんと野菜のお友だちの出演依頼が増加しているため、着ぐるみに入る人員を確保するのに苦労している。 ・観光案内所の利用者数があまり伸びていないので、お客さんが集まりやすい場所になるよう工夫を凝らす必要がある。 ・南風原物産展は南風原町の魅力ある特産品の発掘や、町特産品のPRを図る場とし、町内外に向けて発信するイベントとしていく必要がある。	・はえるんや野菜のお友だちの出演をテーマごとや、着ぐるみに入る人員の人数に併せて派遣できるよう、出演依頼があった際に調整をおこなう。 ・観光案内所の利用者を増やすために、イベントを開催したり、観光に関連する情報発信を積極的におこなっていく。 ・今後も継続して物産展を開催し、事業者が新たに開発した特産品の発表をおこない、商品PRができるイベントとなるよう事業者や商工会、行政が互いの連携を密にして取り組んでいく必要がある。

今後の取り組み方針

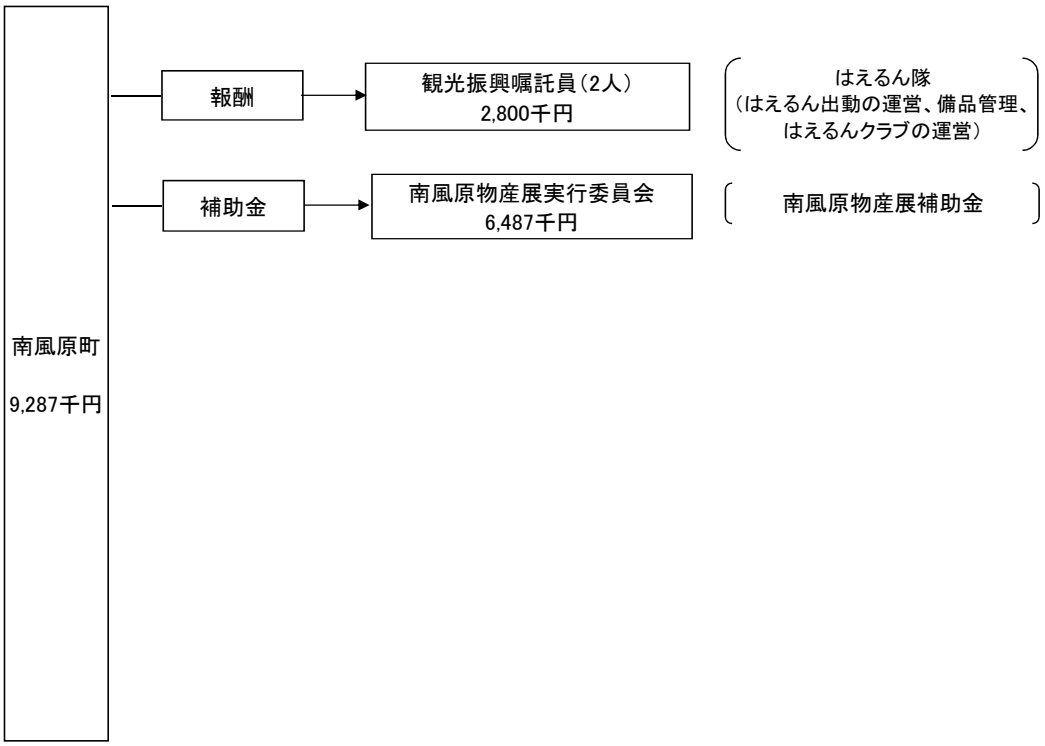
・はえるんや野菜のお友達を活用し、県内外のイベントに出演して町特産品や観光関連のPRを今後も継続していく。

・観光案内所を南風原町の更なる観光PRの拠点とするために、イベントの開催やSNS等での情報発信をおこない、町内外の方に多く利用してもらえるよう取り組んでいく。

・今年度の南風原物産展では、事業者が自社商品のPRができるような仕組みを作ったり、また物産展終了後に実際の店舗に行けるようにクーポン付の地図を配布するなどの取り組みをおこなったので、次年度以降も様々な仕組みを検討し、開催していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,287	9,287	7,429	1,858	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○南風原物産展の補助先を南風原町商工会にすることで、事業後の展開も視野に入れることができた。 ○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○受益者負担については、商工会からも一部負担金を支出しており、また南風原町振興特別推進事業交付金交付要綱に基づき整理しており妥当である。 ○使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-⑰	南風原町和牛改良支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－(ア) おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成27～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	農家の経営安定化に向け、仔牛の品質の向上により高値での出荷が行えるよう、系統の良い優良母牛導入経費への一部を支援する。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,000				
	(b) 予算現額	3,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	3,000				
B. 執行済額		2,444				
うち交付金充当額		1,954				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		81.5%				
予算の状況の説明		当初、頭当たり1,080千円の6頭導入を予定していたがセリの落札価格が当初計画より安価で購入出来たために執行額が減となっている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
・優良母牛の導入支援	目　標	（　6頭導入　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	6頭導入			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	当初計画の6頭を計画通り導入できた。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
・平成27年度導入頭数:6頭 ・平成27年度導入率:14.2% （全導入目標頭数:42頭）	目　標	（　）	（　14.2%　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		14.2%			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	当初計画の6頭を計画通り導入できた事により、町内優良繁殖雌牛の増加に繋がった。 今後、優良繁殖雌牛の産子も雌牛であれば積極的に保留する事により生産基盤の強化に繋がると考える。					

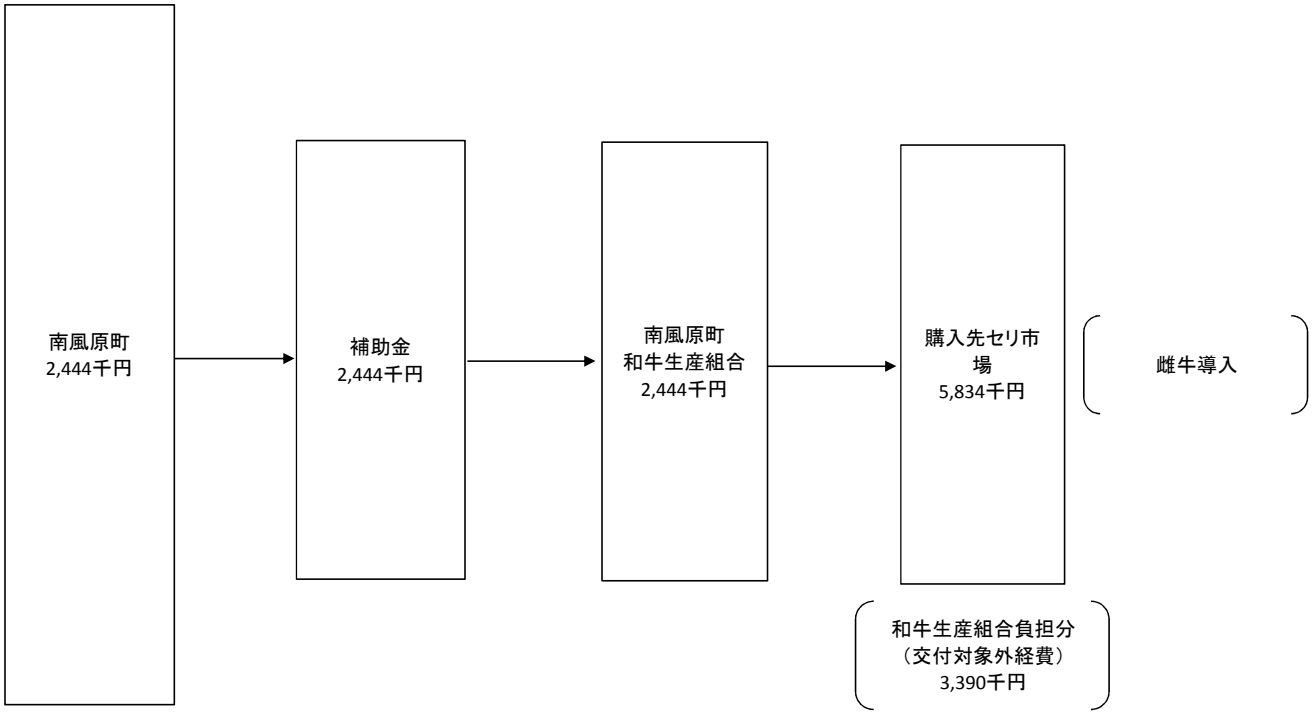
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・事業を推進する上での課題として、繁殖雌牛として導入した雌牛が繁殖障害で繁殖能力がない場合がある。	・繁殖能力の高い雌牛を導入する事により、経産牛との入れ替えや、優良繁殖雌牛の導入でよりよい子牛の生産が行う生産基盤強化を図る。 ・導入月齢を36ヶ月未満にする事により妊娠牛の導入も行え、繁殖障害等を未然に防止できる。また、飼養管理の指導を行っていく。

今後の取り組み方針

・引き続き生産基盤の強化のため、優良繁殖雌牛の導入を行いつつ、飼養管理や繁殖指導等をしながら導入牛から生産された子牛の状況報告を指導する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,834	2,444	1,954	490	3,390



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法は町内農家で組織している組織であり、妥当だったと考えている。 ○不用額はあったものの、セリによる落札であったため適正な規模であった。 ○受益者には上限を超えた部分の負担を求めた。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-⑱	南風原町農産物販売促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（7）－（イ） 流通・販売・加工対策の強化
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成27～29年	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）
事業内容	生産量県内一位を誇る南風原産ヘチマと拠点産地認定を受けたスターフルーツを南風原町の特産品と位置づけ、広く県内外へPRを図り消費拡大を推進するため販売促進を行う。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　■負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,233				
	(b) 予算現額	5,786				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,447				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	5,786				
B. 執行済額		5,564				
うち交付金充当額		4,451				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		96.2%				
予算の状況の説明		県外販売促進2回予定していたが、日程調整と生産物の確保の調整がうまくいかず、1回しか行けなかった為、旅費、使用料、通信運搬費等の残が出た為、不用額として予算額減を行った。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
ヘチマ販促	目　標	（ 県外2回・県内4回 ）	（　）	（　）	（　）
	実　績	県外1回・県内4回			
スターフルーツ販促	目　標	（ 県外1回・県内3回 ）	（　）	（　）	（　）
	実　績	県外1回・県内1回			
県外物産イベントにて、ヘチマ料理講習会	目　標	（ 1回 ）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1回			
ヘチマレシピコンテスト開催	目　標	（ 1回 ）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1回			

達成状況説明：ヘチマ販促に関しては、県外販売を2回予定していたが、予定していた時期の商品の確保が乏しく販売先の調整も出来なかった為販売できませんでした。また、スターフルーツに関しては県内量販店の日程調整が出来ず県内販売促進が1回となりました。
県外イベントにてヘチマ料理講習会も開催し、レシピコンテストも生産最盛期から外れたものの、冬場のヘチマ料理を促すことで年中食する事が出来る事をPRできました。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
ヘチマ販促イベント販売	目　標	（　）	（ 32万円 ）	（　）	（　）	（　）
	実　績		32万円			
スターフルーツ販促イベント販売	目　標	（　）	（ 72万円 ）	（　）	（　）	（　）
	実　績		13万円			
県外イベント講習会開催によるヘチマ・スターフルーツ販売	目　標	（　）	（ 22万円 ）	（　）	（　）	（　）
	実　績		3千円			
ヘチマレシピコンテスト応募総数	目　標	（　）	（ 100件 ）	（　）	（　）	（　）
	実　績		103件			

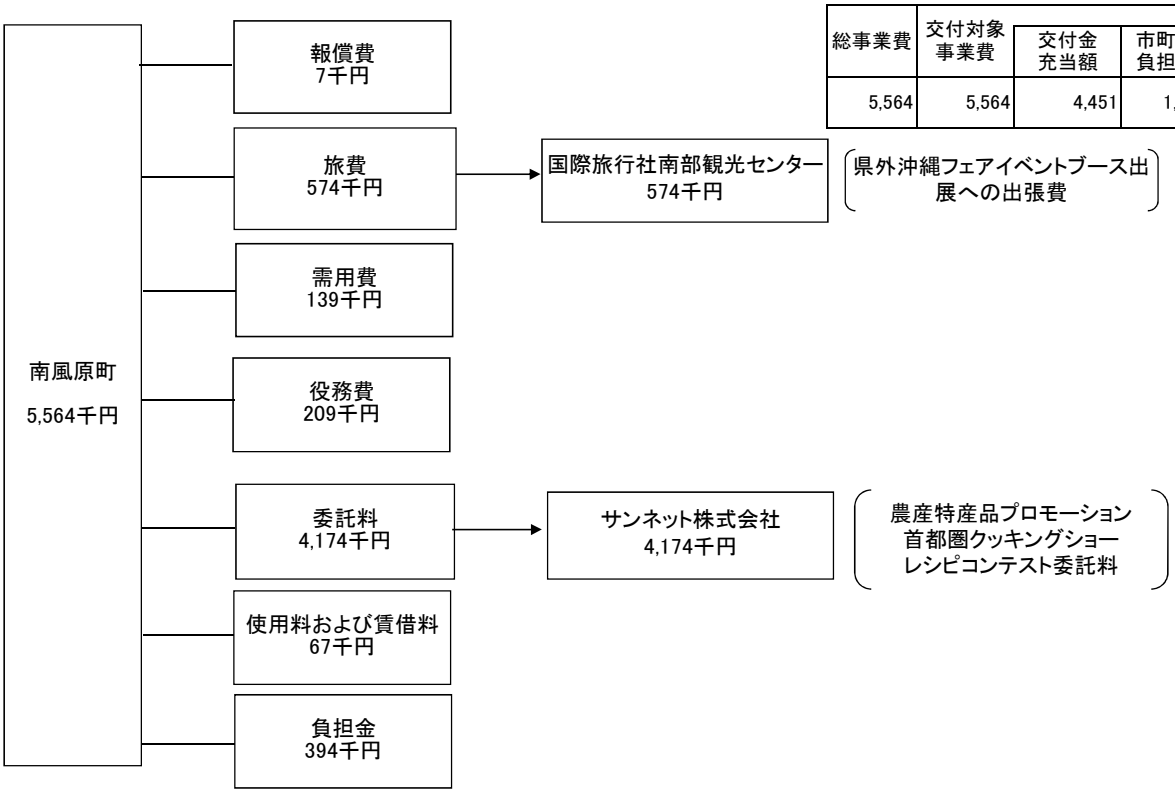
進捗状況説明：ヘチマ販売に関しては目標達成した。スターフルーツに関してはイベント回数も少なかった為目標達成には至らなかった。この点の目標が過大だったかどうかの検討も今後必要となる。県外イベント講習会会場での販売数が少なかった為目標には至らず。ブースへの案内を行い、ブースで購入される方もいらっしゃった。目標額も過大だったとも思われるので、今後再検討を要する。
へちまレシピコンテスト応募総数は、県内調理師学校だけでなく、県外にも郵送し、SNSを大いに活用し掲示回数が多くし、町内量販店でも試食販売を行い、コンテストへの応募のPRに大いに力を注いだことが良かった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	県外販売促進においてへちまについては試食もスムーズに行え、試食後購入もあり反応が良かった。輸送時の擦れで黒ずむものはあったが、試食分と入れ替えて、見た目がいい物から商品にできた。 スターフルーツにおいては輸送の揺れにて擦れ果が多く、熟果であってもキズになり商品にしづらい果実もあったり、一部の果実が未熟のまま出荷されており擦れは少ないものの、見た目に青い点で販売に苦戦した。 県内販売においてはへちまは夏場、『へちま』では無く『はえばる美瓜(びゅうりー)』として販売し名称のPRをし、冬場はハウスヘチマを売りに販売した。 スターフルーツに関しては、寒い時期の外のイベントでの販売ではあったが、天候に恵まれ売れ行きも良かった。 首都圏クッキングショーでは、ラジオの生中継を入れ、レポーターが試食する等の計らいもあり、会場内ではとても好印象でした。観光担当からの南風原町への観光PRも盛り込み、南風原町のPRとしてはとても良かった。 へちまのレシピコンテストは開催時期が冬場になってしまい、冬の温かメニューを主に募集し、冬でもヘチマを食する事が出来ることがPR出来た。	県外販売するうえでは、商品の擦れによる果実の傷みが生じるので、輸送会社を野菜運搬専門にする等の検討が必要。 県内販売に関しては、へちまは味噌煮（ンブサー）だけでなく様々な料理に活用出来ると言う点と、年中通して栽培されているという点をアピールする余地がある。 スターフルーツに関しても星形に切るだけでない、果物としての食し方をアピールし、マンゴーの様な甘いイメージを払拭し、さっぱりみずみずしい点をよりアピールし、リピーターを増やす戦略が必要である。 クッキングショーにおいてはシニア野菜ソムリエの講師を招きとても好評でした。クッキングショー後の販売は一部行ったものの少量だった為、ブースへ案内したものの、その場で購入できる体制をしっかり取るべきだったとも考える。クッキングショーの準備に追われ不十分だった点もある。 レシピコンテストの副賞を各企業にてお願いし、審査員、賞品の提供をお願いしたが、PRになったか不明な点が有った。今後メニューの展開等の取組も視野に入れたい。

今後の取り組み方針

県外販売促進に関しては、沖縄フェアの様なイベントだけでなく、量販店の沖縄フェアの一部としてヘチマを販売を試み、へちまレシピコンテストの応募周知と絡めてPRを行いたい。
スターフルーツでも、食してのアンケート取り等農家へのフィードバックについても取り組めたらと考える。
県内でも量販店を中心として町内だけでなく町外でも販売促進をし、南風原町のPRも絡めて行いたい。
スターフルーツは今年度から量が増えることが見込まれる。県内販促にも重点をおいて、クリスマスやバレンタインなどの行事を絡めたPRを考える。
加工分野で1次加工の試作等行い、販路を探る。
首都圏クッキングショーもさながら、ブース運営も委託業務に含め、はえるん出動も重点的に行えたらと考える。
へちまレシピコンテストに関しては、夏場のメニュー考案と、夏にHOT(辛い)メニューなど、前回と部門を変えて行い、受賞メニューの活用も含める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）



総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,564	5,564	4,451	1,113	0

資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザル公募で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事務調整が合わず計画倒れになって生じたものの、適正な規模であった。 ○費目、使途については目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－①	はえばるリサイクルループ事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(2)－ア 3Rの推進
担当部課名	総務部　住民環境課	事業実施（予定）年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(1)

事業内容

町内で発生する食品廃棄物(生ごみ、廃食用油含む)を分別回収し、養豚用飼料や堆肥、バイオディーゼル燃料を生産する。また、生産された飼料を活用した養豚や、生産した堆肥、ディーゼル燃料の活用を図り食品廃棄物の循環利用体制を構築する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	12,596	16,520	16,150	14,905	
	(b) 予算現額	12,596	16,520	16,150	16,260	
	(c) 増減額 (b−a)	0	0	0	0	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	12,596	16,520	16,150	16,260	
B. 執行済額		11,539	14,867	14,804	14,905	
うち交付金充当額		9,231	11,893	11,843	11,924	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		91.6%	90.0%	91.7%	91.7%	

予算の状況の説明：・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標を鑑みて適正であったと考える。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
食品廃棄物の循環利用の実施	目　標	（　75トン　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	30トン			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：・生ごみの回収量を増やすために、回収地域へのチラシ配布や広報等で生ごみ回収参加の呼びかけを行ったが、結果的に年間回数量は昨年度より下回った。しかしながら、養豚用飼料量は増量し、「はえばる豚」の出荷頭数が増えたことで、食品廃棄物の循環の環が着実に拡がっている。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（28年度）
生ごみ（家庭系）の年間資源化量：40トン 【平成25年度実績】32トン	目　標	（　）	（　45トン　）	（　60トン　）	（　40トン　）	（　89トン　）
	実　績		32トン	33トン	30トン	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：・家庭系生ごみの回収世帯の件数は昨年度と同件数だが、年間資源化量は、昨年より減量となった。
・家庭系生ごみだけでなく、事業系生ごみの収集の増も視野に入れ、食品廃棄物の循環を構築するため年間資源化量の増加に繋ぐ計画を今後も努めなければならない。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・リサイクルループ事業が町民に徐々に浸透してきているが、町内全体で鑑みると、まだ認知度が低いため、引き続きチラシ配布等の広報活動を充実させ、さらなる食品廃棄物の循環利用の促進を図る。	・リサイクルループ事業について、町ホームページ・広報誌等の広報媒体を利用することにより、町民各層に対する「食品廃棄物の循環」意識の向上をはかる。

今後の取り組み方針

町内の各家庭や飲食店等からの生ごみや廃食用油の回収量を増やすことで、養豚用飼料や堆肥の生産増による食品廃棄物の循環の環の拡大を目指す。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,905	14,905	11,924	2,981	0

南風原町
14,905千円

→ 委託料 14,905千円 → NPO法人のぞみの里 14,905千円

（はえばるリサイクルループ事業に係る委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先は平成20年度から町内の食品循環資源である生ごみの回収処理の事業を請け、分別及び飼料化・堆肥化、廃食油の燃料化及び養豚を行うリサイクルループ事業を展開している。他に町内の業者及び近隣地域でこの事業を展開できるところがないため、選定は妥当と考える。 ○予算規模に関しては、リサイクルループ事業に必要な経費のみを計上しており、適正規模である。 ○費目・使途もリサイクルループに係る事業の委託に係る費用のみを予算計上しており真に限定的である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－②	環境学習支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（1）－オ 県民参画と環境教育の推進
担当部課名	総務部　住民環境課	事業実施（予定）年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－（1）
事業内容	時代を担う子どもたちの環境倫理の醸成のため、児童館や学校、教育委員会と連携し、小学4，5年生を対象に、専門家による「体験型」の環境学習を実施する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	630	788	810	810	
	(b) 予算現額	630	788	810	810	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	630	788	810	810	
B. 執行済額		630	630	486	648	
うち交付金充当額		504	504	388	518	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		100.0%	79.9%	60.0%	80.0%	
予算の状況の説明		・予算については学校からの追加要望にそなえて、15回分を計上していた。目標回数には達しなかったが、前年度よりは、執行率が上がっている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
町内3小学校の4年生及び1小学校の5年生を対象に環境学習「買い物ゲーム」の実施。	目　標	（　12回　）	（　13回　）	（　15回　）	（　15回　）
	実　績	12回	12回	9回	12回
環境学習「買い物ゲーム」体験者数　440人	目　標	（　－　）	（　－　）	（　－　）	（　440人　）
	実　績	－	－	－	440人

達成状況説明：
・町内の4小学校において、4年生9クラス・5年生3クラス（合計440人）で「買い物ゲーム」を実施した。
・実施回数については、目標である15回の実施はできなかったが、前年度より回数は上まわることができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
小学生が環境学習を通じて、ごみ減量やリサイクルの重要性を学ぶ。ごみ減量やリサイクルへの関心度：50%増加（学習前→学習後）	目　標	（　）	（　50%　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		100%			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
体験した生徒からは、「ごみを捨てるには大量の処理費がかかるのでごみをださないようにしたい」「リサイクルして、無駄使いをしない」「マイバッグを持って、買い物することがエコになる」等の感想があり、学校の先生方からも「南風原町のごみの処理費（ごみの量）について、具体的な金額（数値）がわかり自分自身の問題としてとらえることができた」等の意見を頂き、実施した学校からは大変好評であった。従来の大量消費、大量廃棄といった生活様式の見直しが環境問題解決に寄与することを、子どもの頃から啓発することの重要性を学ぶことができた。

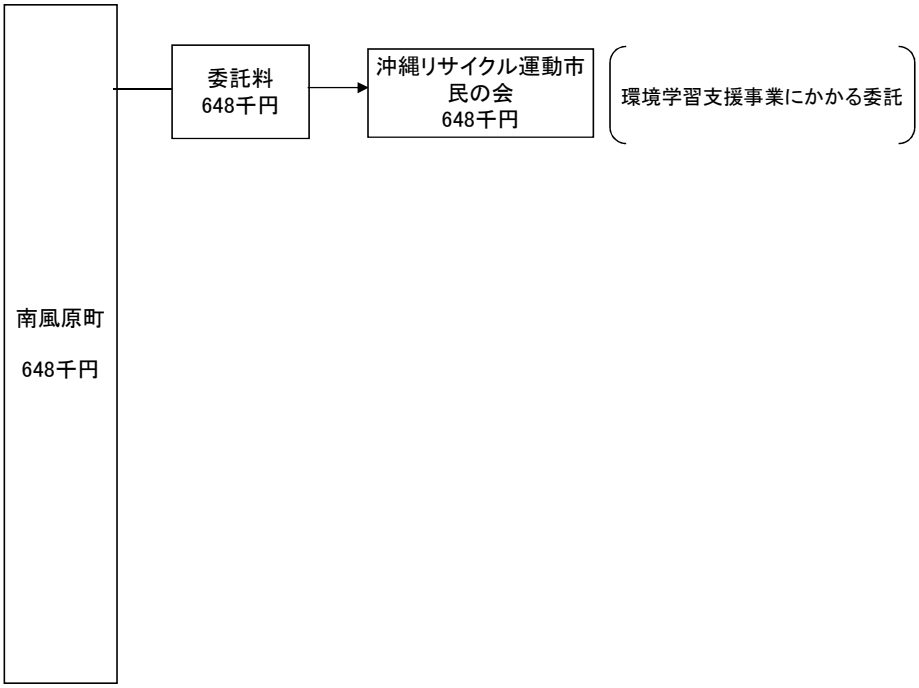
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・町内の4小学校において12クラス、合計440人の児童が「買い物ゲーム」を体験したことで、ごみ処理問題や環境保全について、教科書や施設見学などの通常の授業からは見えなかった「気づき」を彷彿するような感想文をいただいたことで、この環境教育の大切さについて理解を深めることができたことを感じさせられた。	・町教育委員会と連携して、学校との連絡を早めに案内し、日程調整を円滑に行えるようにする。 ・町内小学校の4.5年生だけの環境教育プログラムだけでなく、他学年への導入も推進していく。 ・環境教育支援の取り組みとして、学校全体の年間スケジュールの中に環境学習としての「買い物ゲーム」を位置づけができるよう学校と事前に調整を図るよう努める。

今後の取り組み方針

学校全体の年間スケジュールの中に環境学習としての「買い物ゲーム」を位置づけし学校への環境教育支援を広く行い、児童・生徒がごみ問題や環境問題について考え、実践することを目的としたこの事業は、学校及び生徒からも評価を受けているため、今後も継続して取り組んでいく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
648	648	518	130	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先が開発した環境教育支援のための事業であるため、この委託先でしか事業ができないための随意契約である。 また、このプログラムは県内や県外、また海外でも実施されている実績があり、選定は妥当であると考える。 ○予算規模に関しては、環境学習支援事業のみに必要な経費のみを計上しており、適正規模である。 ○費目・使途も環境学習支援事業に対する委託料であり限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－③	草木リサイクル事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（2）－ア 3Rの推進
担当部課名	総務部　住民環境課	事業実施（予定）年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－（1）

事業内容

町内から排出される草木を回収し、堆肥化を行う。その堆肥を農地等で活用することで、草木廃棄物のリサイクルができる「循環のシステム」を構築する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）徹底的

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,318	7,214	6,983	6,770	
	(b) 予算現額	5,501	5,714	8,013	7,670	
	(c) 増減額 (b-a)	183	▲ 1,500	1,030	900	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	5,501	5,714	8,013	7,670	
B. 執行済額		5,501	5,472	7,909	7,158	
うち交付金充当額		4,400	4,377	6,327	5,726	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		100.0%	95.8%	98.7%	93.3%	

予算の状況の説明：・予算現額が当初予算額より900千円増額となっているのは、草木の回収量が当初見込んでいた量よりも増えたため、委託料の補正増を行ったためである。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
草木廃棄物の循環利用の実施	目　標	（　実施　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	実施			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：
・町内の各家庭から排出された草木477トンを回収、委託業者により堆肥化されることで、農地で活用された。
・平成27年度も台風襲来が多く、台風被害で草木処理する家庭が多かったため、草木伐採量が増加し、目標を達成した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
草木のリサイクル量	目　標	（　　）	（450トン）	（431トン）	（440トン）	（　　）
	実　績		347トン	488トン	477トン	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：・町内の各家庭から排出された草木を分別回収し、委託業者により堆肥化され農地で活用されることにより、循環のシステムが構築されている。

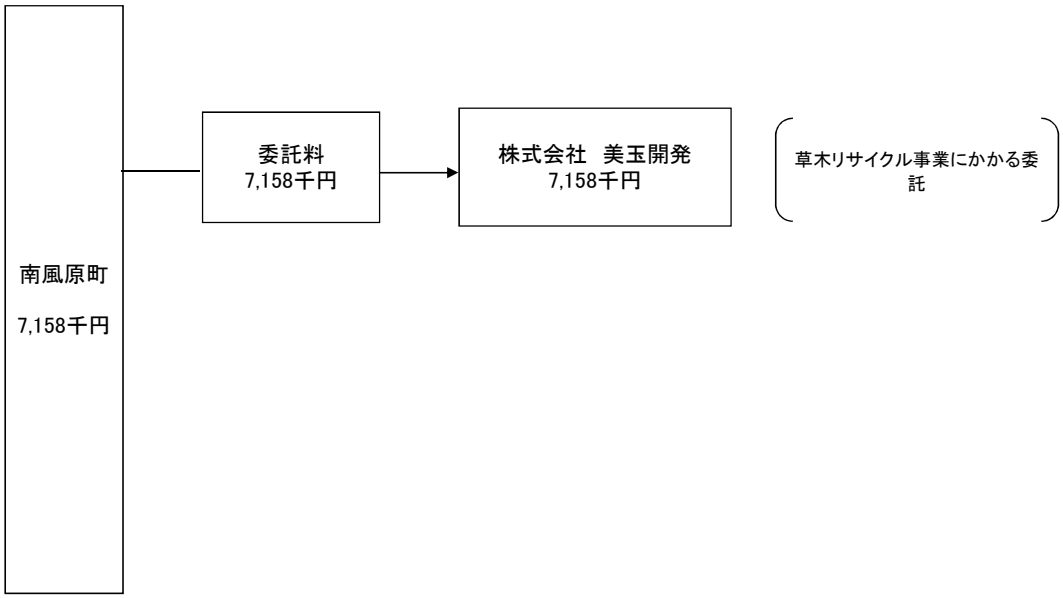
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・草木の堆肥化のため、草木の定期的な回収を行っているが、回収時に土や草木以外の物が混入していることがあり選別作業に時間を費やすため、堆肥化に支障をきたしている場合がある。 ・台風襲来後に草木回収が多くなるため、円滑な搬入・受入を目指す。	・草木の分別指導を行い、草木以外の混入を防ぎ、堆肥化がスムーズに行えるようにする。回収委託業者に対して、草木類以外のものが混入している場合はその旨周知のためのステッカーを貼付して住民の草木堆肥化への意識向上を図る。 ・広報誌等による周知活動により、草木の分別指導及び堆肥化の増量を促進していく。

今後の取り組み方針

今後も分別回収を徹底し、町内から排出される草木は、すべて堆肥化できるようにし、循環型社会の構築を推進する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,158	7,158	5,726	1,432	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先の製造する堆肥は沖縄県リサイクル資材評価認定制度に認定されており、循環型社会を構築する本事業に合致するため、選定は妥当と考える。 また草木の堆肥化施設が近隣地域（町の家庭ごみ収集委託による搬入なので輸送コストも考慮）にないことからの随意契約である。 ○予算規模に関しては、草木リサイクル事業のみに必要な経費のみを計上しており、適正な規模であった。 ○費目・使途については事業執行に必要な経費に限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－①	防災体制強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－（4）－イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	総務部　総務課	事業実施（予定）年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－（2）
事業内容	亜熱帯気候である沖縄県では毎年多くの台風が接近・襲来している。そのため、島しょ県である沖縄は、大規模災害時には物資の補給が困難となり、孤立してしまう恐れがある。そのことから、町独自で長期保存ができる食糧等の備蓄を行い、防災体制の強化を図る。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算の状況	(a) 当初予算額	157,323	0	7,525	12,736	3,233
	(b) 予算現額	140,346	0	13,710	12,736	1,997
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 16,977	0	6,185	0	▲ 1,236
	(d) 繰越額	－	81,900	－	－	－
	A. 計 (b+d)	140,346	81,900	13,710	12,736	1,997
B. 執行済額		58,446	81,900	13,491	10,584	1,997
うち交付金充当額		46,756	65,520	10,792	8,467	1,597
次年度繰越額		81,900	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		41.6%	100.0%	98.4%	83.1%	100.0%
予算の状況の説明		事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
備蓄品の購入 (1)パン入り缶詰：13箱(312食) (2)災害時用米：60箱(3,000食) (3)保存水：150箱(1.5ﾘｯﾄﾙ　1,200本) (4)粉ミルク：12缶 (5)防災毛布：50枚 (6)緊急対策用トイレ袋:150箱(3,000回分) (7)災害時用トイレットペーパー：12セット(288個) (8)災害時用保存食(ｶﾚｰﾙｰ)：75箱(1800食) (9)発熱ｾｯﾄ(ｶﾚｰﾙｰの加熱材)：19箱(456個)	目　標	(1)パン入り缶詰：13箱(312食) (2)災害時用米：60箱(3,000食) (3)保存水：150箱(1.5ﾘｯﾄﾙ　1,200本) (4)粉ミルク：12缶 (5)防災毛布：50枚 (6)緊急対策用トイレ袋:150箱(3,000回分) (7)災害時用トイレットペーパー：12セット(288個) (8)災害時用保存食(ｶﾚｰﾙｰ)：75箱(1800食) (9)発熱ｾｯﾄ(ｶﾚｰﾙｰの加熱材)：19箱(456個)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績	(1)パン入り缶詰：13箱(312食) (2)災害時用米：60箱(3,000食) (3)保存水：150箱(1.5ﾘｯﾄﾙ　1,200本) (4)粉ミルク：12缶 (5)防災毛布：50枚 (6)緊急対策用トイレ袋:150箱(3,000回分) (7)災害時用トイレットペーパー：12セット(288個) (8)災害時用保存食(ｶﾚｰﾙｰ)：75箱(1800食) (9)発熱ｾｯﾄ(ｶﾚｰﾙｰの加熱材)：19箱(456個)			
達成状況説明	・地域防災計画の食料等備蓄計画に基づき、5年間で人口20分の1の3日分の食料等備蓄を目標としているため、平成27年度では、目標の約20%にあたる3,312食分の食料等を購入した。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（28年度）
・南風原町地域防災計画の「食料等備蓄計画」の目標備蓄数16,200食(36,000人×1/20×3日分×3食)に対する充足率：81.8%	目　標	(　0%　)	(　44.0%　)	(　61.3%　)	(　81.8%　)	(　100%　)
	実　績		44.0%	61.3%	81.8%	
進捗状況説明	・備蓄品の充足率について、H24～28年度の5年間で100%を目標としており、4年目の27年度時点では81.8%となっており、これまで年間約20%の充足率目標を達成しているため、計画的な達成状況となっている。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・災害はいつ発生するかわからない為、食糧等の備蓄を実施し、災害に強いまちづくりを目指していくためには、町だけではなく、住民や観光客などにおいても引き続き、災害時の行動や対応が瞬時に行えるように、防災訓練や防災マップ等を通して啓発を図っていく必要がある。 ・平成24年度から備蓄してきた備蓄品で、保管場所が狭くなってきている。 ・備蓄品の品数が少ない。	・住民の防災意識向上をめざすため、防災訓練を通し、備蓄品の必要性や避難場所の確認をすることにより、町全体の防災・減災に対する推進を図ることができる。 ・保管場所には、他の備品関係も一緒に保管されているため、その整理と同時に他保管場所の検討も必要である。 ・備蓄品の品数の増加を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・防災訓練や避難訓練を実施し、町全体の防災・減災体制の強化を図り、今まで以上に災害に強いまちづくりを推進していく。
・住民等への啓発が課題となるため、訓練等への積極的な参加を呼びかけていく。
・保管場所の整理を行っていく。
・備蓄品の種類を把握し、増加するか検討する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,997	1,997	1,597	400	0

南風原町 1,997千円 → 需用費 1,997千円 → アースウィング株式会社 1,997千円

（食料等備蓄品購入にかかる需用費）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○購入先業者は、入札による落札業者の為、妥当である。 ○予算は減額となっているが、地方自治法施行令167条における指名競争入札による残額となっていることから、予算規模は適正であった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－④	津嘉山小学校南側避難通路整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－（4）－イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２６～２９年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－（2）
事業内容	津嘉山小学校は災害時に避難所として指定されており、小学校の南側集落からの避難通路としては未整備となっているため、災害時にも安全に活用できるよう整備を行う。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,122	1,496			
	(b) 予算現額	4,590	1,496			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 532	0			
	(d) 繰越額	－	－			
	A. 計 (b+d)	4,590	1,496			
B. 執行済額		4,590	1,496			
うち交付金充当額		3,672	1,196			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初予算と同様の予算で、予定していた業務を全て終えることが出来た。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
津嘉山小学校南側避難通路の基本設計の実施	目　標	（基本設計の完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績	実施設計の完了			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	前年度の調査・測量を活かし、年度中に実施設計を完了できた。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
避難通路整備設置基本設計書の完了	目　標	（　）	（基本設計の完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績		実施設計の完了			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	実施設計をおこなうことで、来年度からおこなう用地購入等に必要な資料作成ができた。					

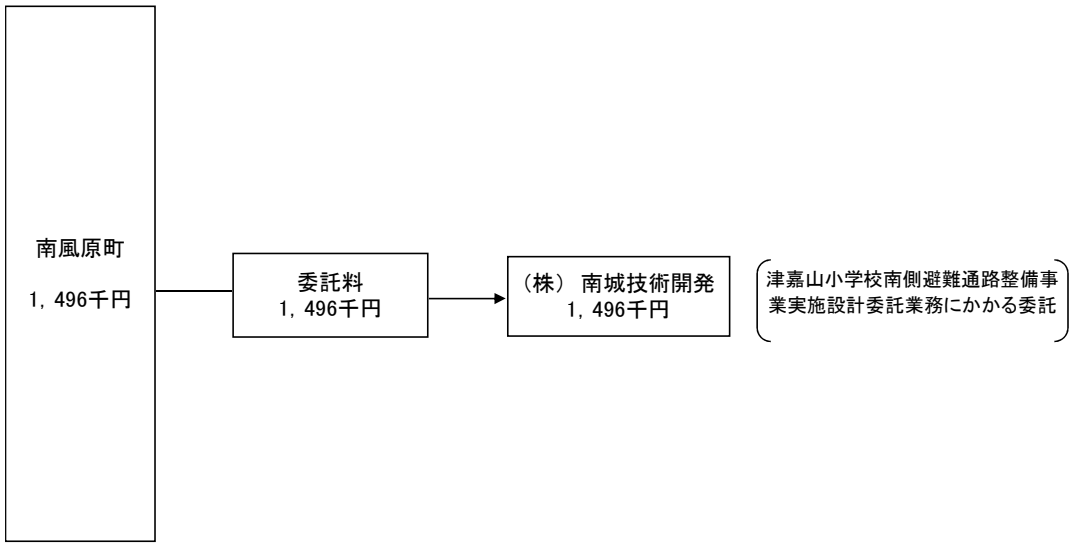
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・小学校は災害が発生した際の避難場所となっている。今回整備を行う箇所は小学校以南の住民が、安全に避難できるよう通路の整備を行うものである。 ・学校に近いため、授業や行事に支障のないよう事業を行う。	・学校に直接つながる通路であることを十分認識し、避難通路整備にあたって、学校の授業や行事等に支障がないよう、学校と調整を図り事業が計画通り執行できるよう努める。 ・地権者も農作業をおこなう際に使用していることから、十分連絡を取り合い確認作業や工事をおこなう際は、前もって報告をおこなうよう努める。

今後の取り組み方針

用地購入をスムーズにおこなえるよう地権者と連絡を取り合い、事業の遅れなく工事発注に入っていけるよう取り組んでいく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,496	1,496	1,196	300	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は町登録名簿から選定し、見積競争から随意契約を行っていることから選定方法は妥当であると考えている。 ○予算規模については実施設計まで完了しており、適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的の達成の観点から、適正であるといえる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-⑤	位置伝達手段整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－（4）－ア 安全・安心に暮らせる地域づくり
担当部課名	総務部　総務課	事業実施（予定）年度	平成２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－（2）

事業内容

安心で安全に暮らせる環境は生活条件の基礎である。そのため、緊急的な出来事が発生した際にもいかに対応していくかが大事であり、事前の防止や発生後の対策が有事の際のライフラインに直結し、安心して暮らすことに繋がってくる。
本事業では、もし交通事故や災害等で動けなくなった時に自分の現在地を特定できる目印等がない場合、消防や警察へ自分自身の現在地が伝えられるように位置情報が瞬時に分かる表示物を整備する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,592				
	(b) 予算現額	2,592				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	2,592				
B. 執行済額		2,484				
うち交付金充当額		1,987				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		95.8%				

予算の状況の説明

当初計画していた事業内容はすべて実施した。
活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29度	30年度
・表示件数　30件	目　標	（30本）	（　）	（　）	（　）
	実　績	17本			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

・緊急連絡番号標識を17本設置した。
・当初目標は30本であったが、設置箇所を検討した結果、必要性が低い場所を省いたことや、数量を減らしても十分な効果があると判断したため、数量の減となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		27年度	28年度	29年度	30年度	目標値（　年度）
・緊急の際に、迅速な初動対応が可能になるように、消防と連携した初動体制の強化	目　標	（初動体制の強化）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	強化				
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

・本町を管轄する東部消防組合と連携し、設置した緊急連絡番号標識を消防の位置情報のためのシステムに登録した。
・今後、設置した地域で事故や災害が発生した場合、緊急連絡番号標識に記されている番号を消防に伝えると、瞬時にその居場所を突き止め、素早い初動体制を展開することが可能となった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・道路沿いへの標識設置だったため、地面に埋まっている水管と距離を取ることやトラックなどの大型車との衝突がないように、設置箇所に配慮が必要だった。 ・今回、設置した標識に効果があったかどうかを検証する必要がある。	・水管の管理者と水管と標識がぶつかることがないよう調整した。 ・標識を変心して歩道沿いに寄せることで、大型車との衝突を防いだ。 ・標識設置地域での事故や災害の件数、その中で標識が活用されたかどうかを検証していく。

今後の取り組み方針

・今後、消防と連携し、効果の検証を行っていくとともに、より活用しやすいように、改善していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,484	2,484	1,987	497	0

南風原町
2,484千円
→
工事請負費
2,484千円
→
有限会社　三友
2,484千円

（緊急連絡番号標識設置にかかる工事費）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○購入先業者は、入札による落札業者の為、妥当である。 ○予算は減額となっているが、地方自治法施行令167条における指名競争入札による残額となっていることから、予算規模は適正であった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	５－①	放課後児童の居場所づくり支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(2)－イ 地域における子育て支援の充実
担当部課名	民生部　こども課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－4

事業内容

本町の学童クラブのうち、民間の賃貸住宅を利用している学童クラブに対して家賃支援をする。また、学童クラブがひとり親家庭等の学童利用者に対し学童保育料を減免した場合の支援を実施する。本事業により、子育て環境の整備、学童クラブ運営の安定化を図り、保育の質を高め、子ども達の安心・安全な放課後の居場所を作り、充実させることを目的とする。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,548	2,310	2,310	7,530	
	(b) 予算現額	1,548	2,310	2,310	6,506	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	▲ 1,024	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	1,548	2,310	2,310	6,506	
B. 執行済額		1,540	2,310	2,270	6,108	
うち交付金充当額		1,232	1,848	1,816	4,886	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		99.5%	100.0%	98.3%	93.9%	

予算の状況の説明

家賃支援については、学童クラブの方々に交付金の趣旨を説明し、該当する学童クラブとの調整も順調に進め、当初予算に計上した額で計画通り執行することができた。
ひとり親家庭等学童クラブ利用支援については、当初67件を見込んでいたが、実績は47件にとどまり、その結果1，024千円の不用額が出て、執行率が93．9%となった。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
家賃支援	目　標	（　5件　）	（　5件　）	（　5件　）	（　7件　）
	実　績	5件	5件	5件	8件
ひとり親家庭等学童クラブ利用支援	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　67件　）
	実　績				47件

達成状況説明

・学童クラブの経営安定化を図ることを目的に、賃借料を負担して民間施設等で運営を行っている5学童クラブに対して、負担軽減のため一月50,000円の上限で家賃補助を行い、利用している学童クラブに対し支援することができた。
・ひとり親家庭等の学童利用料を減免している施設へ補助を行う事により、負担軽減となり、学童クラブの運営の安定化に繋がり、子ども達の安心・安全な放課後の居場所作りを充実させることができた。
・家賃支援は当初7件を見込んでいたが、民間の賃貸住宅を利用して新規開所した学童が新たに支援対象となったため、8件になった。
・ひとり親家庭等学童クラブ利用支援は当初67件を見込んでいたが、実績は47件にとどまった。その一方、ひとり親家庭の児童を受け入れる学童クラブは8ヶ所と予測していたが、実績は10ヶ所となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28度	29年度	目標値（　年度）
保育の質の向上 【評価の指標】 学童クラブの年間行事数で保育の質の向上を評価する。 ・学童クラブの行事数：39回（7ヶ所） （実績：H25行事数：33回（5ヶ所）） （基準値：H23 行事数：18回（4ヶ所））	目　標	（　　）	（39回（7ヶ所））	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		57回（7ヶ所）			

進捗状況説明

・学童クラブの経営安定化を図ることを目的に、賃借料を負担して民間施設等で運営を行っている5学童クラブに対して、負担軽減のため一月50,000円の上限で家賃補助を行い、利用している学童クラブに対し支援することができた。行事費・人件費に回すことができた。保護者（児童）、学童クラブ双方ともに環境の改善が見られた。その結果児童の居場所を確保することにつながり、児童の健全育成を行うことができた。今後は、新規に開設する学童クラブで民間施設を賃貸して運営する場合には、同事業を活用し経営の安定化を図りながら子ども達の居場所づくりを支援していきたい。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・家賃補助をすることにより学童クラブの負担軽減となり、学童クラブの運営の安定化に繋がり、子ども達の安心・安全な放課後の居場所作りを充実させることができた。 ・ひとり親家庭等学童クラブ利用支援を行いその家庭の負担軽減することができたが、それ以外にも所得が低い家庭など支援を必要とする子どもについても負担軽減する必要がある。	・調査したところ保護者（児童）、学童クラブ双方ともに環境の改善は見られた。さらに環境改善に努めていく。 ・支援の効果を見極め、事業の継続性を図っていきたい。また、支援を行っていない学童クラブとの比較を引き続き検証していく。 ・ひとり親家庭だけでなく所得が低い困窮世帯に対する支援についても検討する。

今後の取り組み方針

・今後も事業の継続性を図ると共に、現状の補助額が妥当なのか検証していく。公的施設を活用した場合は家賃負担がなく学童クラブにとって負担軽減となり、それが利用者の保育料にも反映され利用者の負担軽減につながる。そのため、公的施設を活用することも検討する。
・引き続きひとり親家庭等学童クラブ利用支援を行い、保育の質を高め、子ども達の安心・安全な放課後居場所づくりを行う。
・ひとり親家庭だけでなく所得が低い困窮世帯に対する支援についても検討する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,108	6,108	4,886	1,222	0

南風原町
6,108千円

→ 補助金
6,108千円

→ 家賃補助　8カ所

・津嘉山学童クラブ　360千円
・学童クラブわんぱく家　510千円
・ドルチェ学童クラブ　450千円
・こがね森学童クラブ　420千円
・第二こがね森学童クラブ　480千円
・いこい学童クラブ　600千円
・キッズクラブカナカナ　480千円
・学童クラブう一まく家　500千円

（学童クラブの家賃に係る経費の補助）

→ ひとり親家庭等利用料補助　10件

・よなは学童クラブ　570千円
・北丘学童クラブ　185千円
・津嘉山学童クラブ　165千円
・学童クラブわんぱく家　242千円
・ドルチェ学童クラブ　191千円
・こがね森学童クラブ　203千円
・みやび学童クラブ　297千円
・翔南学童クラブ　235千円
・竹の子学童クラブ　110千円
・いこい学童クラブ　110千円

（ひとり親家庭等の学童クラブ利用料減免係る補助）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助事業者は当該補助金支給要綱により企業組織、実績、知識等を勘案した上で決定しており、妥当であったと考えている。 ○沖縄県の一括交付金を活用した家賃補助は上限が月額80,000円なので、50,000円の上限は妥当であったと考えている。 ○上限額を定めており、受益者との負担関係は妥当である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認をおこない、その結果適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	５－②	幼稚園保育充実支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－（2）－イ 地域における子育て支援の充実
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－4

事業内容

町立幼稚園の保育時間の延長に伴い開始される給食を、園児に安心・安全に提供できる体制を整えるため支援員を配置する。また、平成28年度4月より幼稚園での4歳児保育を開始し給食提供を実施するため共同調理場、幼稚園の備品、配送車、食缶等給食提供に係る設備を整備する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	958	487	486		
	(b)予算現額	1,647	487	27,958		
	(c)増減額(b-a)	689	0	27,472		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	1,647	487	27,958		
B. 執行済額		1,070	430	27,587		
うち交付金充当額		856	344	22,069		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		65.0%	88.3%	98.7%		

予算の状況の説明

平成27年度当初は支援員配置のみの計画であったが、年度途中で平成28年4月から4歳児保育を実施することが決定したため、変更申請を行い10月交付決定にて給食提供に係る整備を行った。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
充実支援員配置数(2名)	目　標	（3名）	（3名）	（2名）	（　）
	実　績	2名	2名	2名	
給食関係消耗品・備品整備	目　標	（配缶用台車4台 水切運搬車1台）	－	（給食関係消耗品・備品の整備）	（　）
	実　績	配缶用台車4台 水切運搬車1台	－	給食関係消耗品・備品の整備	

達成状況説明

・給食支援員を配置することにより、給食を安心・安全に実施することができた。
・4歳児保育スタートに向けて環境整備を行うことができた。
・配膳車4台、食卓机32台、配膳台4台、配送車1台、消毒保管機他10件、深皿他17件の整備を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
配膳時の事故件数	目　標	（　）	（配膳時の事故件数0件）	（　）	（　）	（　）
	実　績		配膳時の事故件数0件			
幼稚園4歳児保育児童への給食提供環境整備	目　標	（　）	（幼稚園4歳保育児童への給食提供環境整備）	（　）	（　）	（　）
	実　績		幼稚園4歳保育児童への給食提供環境整備完了			

進捗状況説明

・給食支援員（2名）を配置したことにより、園児へ安心・安全な給食を提供できた。今後とも就学前の幼稚園教育の環境を整えていく。
・共同調理場、幼稚園の備品、配送車、食缶等給食提供に係る設備を整備し、平成28年度4月からの4歳児保育を開始しスムーズに実施するための取組を行うことができた。
・配膳車4台、食卓机32台、配膳台4台、配送車1台、消毒保管機他10件、深皿他17件の整備を行った。

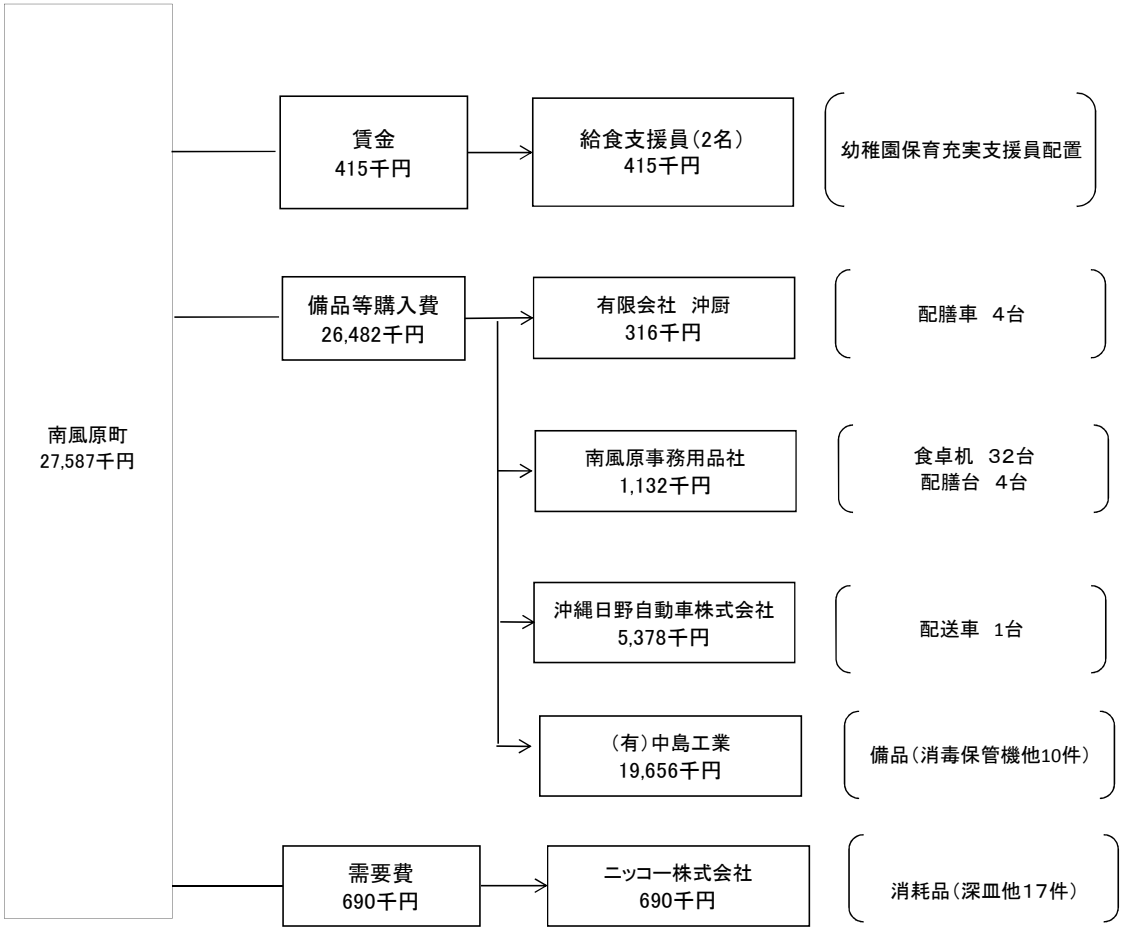
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	平成28年度からの4歳児保育開始に伴い、配膳台など4歳児受入に向けて整備を行う必要あり、受入のための環境整備を行うことができた。また、給食支援員を配置することにより給食の準備、配膳にあたることで安心・安全な給食を提供することができた。	今後も支援員を配置し、小学校へとつなぐ為の給食指導を推進していく。

今後の取り組み方針

今後も支援員を配置することにより、安心・安全な給食を園児に提供し、給食を通して食事のマナーを身につけさせるとともに、食に関する興味、関心を持たせる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
27,587	27,587	22,069	5,518	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法について、給食支援員の勤務時間が2Hと短いため保護者の中から選考している。 ○事業内容に基づく事業執行を行っているため、予算規模は適正であると判断する。 ○費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町の給与、勤務時間その他の勤務時間に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	５－③	認可外保育施設環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第2章－2－（2）－イ 地域における子育て支援の充実
担当部課名	民生部　こども課	事業実施（予定）年度	平成25～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－4

事業内容

子育て世代の人口増に伴い待機児童が増え続けていることから、待機児童の受け皿となっている認可外保育園の施設整備に対して補助を行うことにより保育環境を向上させる。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,900	3,800	1,900		
	(b) 予算現額	1,900	3,800	1,692		
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 208		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	1,900	3,800	1,692		
B. 執行済額		1,900	1,634	1,692		
うち交付金充当額		1,520	1,307	1,353		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		100.0%	43.0%	100.0%		

予算の状況の説明

整備した結果、当初の計画よりも安く工事することができたため、予算減となった。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
認可外保育施設に対する支援：4ヶ所	目　標	（　1ヶ所　）	（　2ヶ所　）	（　4ヶ所　）	（　　）
	実　績	1ヶ所	1ヶ所	4ヶ所	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明

子育て世代の人口増に伴い待機児童が増え続けていることから、待機児童の受け皿となっている認可外保育園のクーラー設置工事への補助を行った。
当初の目標どおり、4ヶ所の施設整備に対する支援を実施することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
児童が安心・安全に過ごせるよう建物の安全性・快適性を確保することにより、児童の健やかな成長を促す。 【評価指標】 施設整備後に認可外保育園に対してアンケートを実施 ・午睡環境の改善が図られた割合：100%	目　標	（　　）	（午睡環境の改善が図られた割合：100%）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		アンケートを実施により、午睡環境の改善が認められた割合：100%			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明

子育て世代の人口増に伴い待機児童が増え続けていることから、待機児童の受け皿となっている認可外保育施設の整備を行うことができた。その結果、建物の安全性・快適性を確保し、児童の健やかな成長を促すことができた。

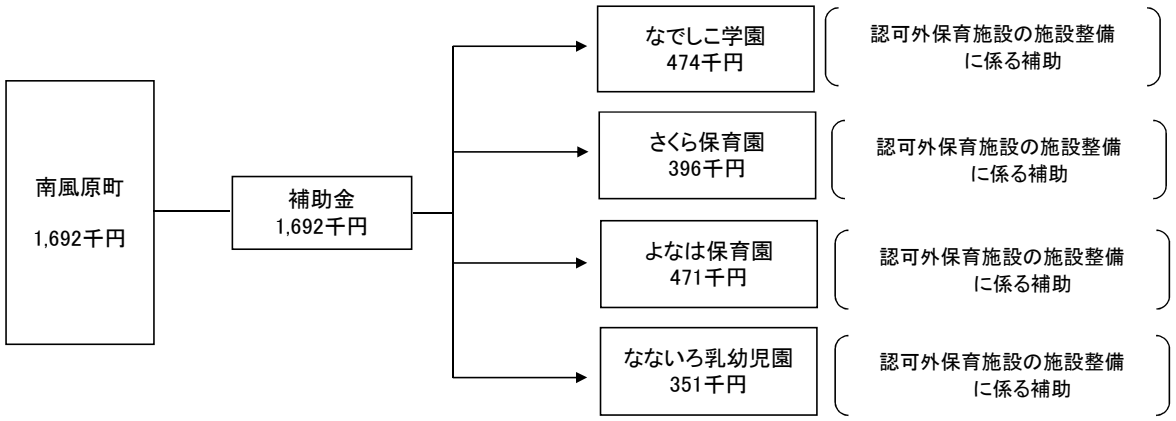
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・待機児童の受け皿となっている認可外保育園の施設に対して、クーラー設置工事をしたことにより設備の環境改善を図ることができた。	・支援の効果を見極めるため、施設整備をした認可外保育施設に対して、支援後でどのような効果があったかをアンケートをとって検証した。その結果、安全・快適性が向上し、午睡環境が改善されていると検証された。

今後の取り組み方針

・支援を行っていない認可外保育施設に対して事業を行い、整備を行うことができた。
・今年度でこの事業は完了するが、今後も認可外保育施設に対して事業の導入を検討し、待機児童の受け皿となっている認可外保育施設の支援を行っていきたい。
・県による認可外保育施設の指導を踏まえ、基準を満たせる保育園が増えるよう事業者との調整を進める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,692	1,692	1,353	339	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法については要綱に基づいて支給しており、妥当であった。 ○予算規模については事業内容に見合っており適正であった。 ○受益者負担については、当該補助金交付規程により補助金の上限額及び設置者の負担額が定められており、妥当であった。 ○費目、使途については事業目的達成の観点からも必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	６－①	陸軍病院壕公開活用事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（4）－ア 沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)

事業内容	沖縄戦時に構築・使用された沖縄陸軍病院壕を平和学習のために公開活用して、戦争と平和を考えて尊さを学ぶ取組を行う。
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,081	5,856	11,603	6,515	
	(b) 予算現額	3,630	5,856	11,603	5,039	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,451	0	0	▲ 1,476	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	3,630	5,856	11,603	5,039	
B. 執行済額		3,630	5,536	10,776	5,039	
うち交付金充当額		2,904	4,428	8,620	4,031	
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	94.5%	92.9%	100.0%	

予算の状況の説明：1,476千円の減額については、当初計画していた嘱託職員と印刷製本費について、対象外経費としたことによるものである。
当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
開壕日数　308日	目　標	（　308日　）	（　308日　）	（　310日　）	（　308日　）
	実　績	317日	310日	317日	308日
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：予定開壕日数達成のため、壕を管理し、開壕に取り組んだ。
見学者側の要望を確認し定休日でも開壕したことも目標達成に繋がったと考えられる。
また、目標を達成するため、進入路の整備、壕の安全を保つための変位観測、壕ガイドの配置も行いました。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（24年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
見学者数10,000人	目　標	（　9804　）	（　10,000人　）	（　10,000人　）	（　10,000人　）	（　　）
	実　績	10,000	9,498人	10,160人	11,287人	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：・見学者は毎年増減があって安定していない。26年度は入壕者数1万人を超えることができた。27年度は26年度を上回り、目標を達成することができた。見学者側の要望を確認し定休日でも開壕したことも見学者の増加に繋がったと考えられる。
・概ね見学者数の目標は達成しているが、今後もさらに目標数を上回れるように親切丁寧な対応することを心掛け、場合によっては、休壕日の対応も考えて積極的に取り組む予定である。

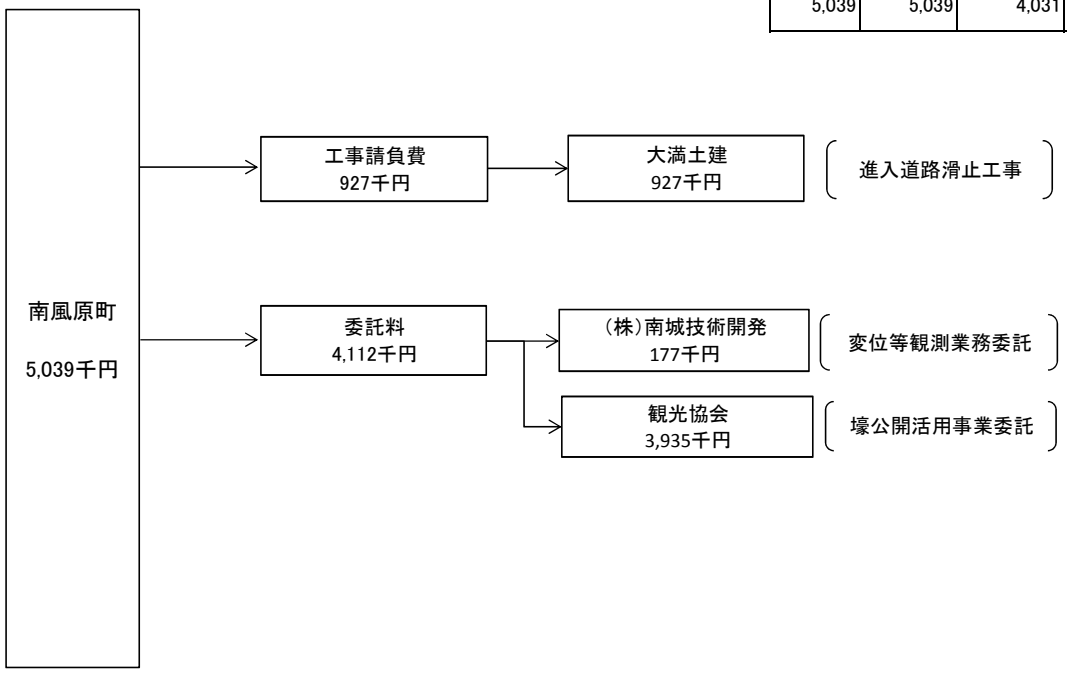
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・見学者数は約10,000人前後で推移している。平成27年度は、前年と同様に、定休日である水曜日も開壕したことで目標値を上回る実績となり、それに伴って見学者数の実績も目標を達成することができた。今後も、見学者数の継続的な維持あるいは目標数の増加が図れるような取り組みを行う。	・南風原町観光協会など情報を共有しながら、平和学習をとおして平和を発信し、また懇切丁寧な対応でリピーターを増やすとともに、新規の見学者を誘致して見学者数の増加につなげていく。

今後の取り組み方針

・町観光協会と情報を共有し新聞やテレビ、インターネットなど平和学習の事業を広く発信し、沖縄陸軍病院壕の存在を広く広報し、認知度を高めていきたい。
・平和学習を予定している見学者（団体）に対する事前学習用資料等の提供を懇切丁寧に行い、継続して来壕してもらえるようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,039	5,039	4,031	1,008	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札方式及び随意契約により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は事業に要する費用となっており適正である考える。 ○壕活用事業委託については、町の観光資源を活用するための組織である南風原町観光協会と、これまでの実績と知識を勘案して選定した業者に随意契約で業務委託しており、妥当であると考えている。 ○費目・使途については事業目的の観点から必要なものなのか等については、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－②	資料の公開活用事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（5）－ア 文化資源を活用したまちづくり
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成２４～２９年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)
事業内容	南風原文化センターに収蔵されている貴重な歴史資料をデータベース化して整理し、公開活用の幅を広げつつ後世へ継承していく。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	12,143	15,565	15,894	15,795	
	(b) 予算現額	12,143	15,565	15,894	15,795	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	12,143	15,565	15,894	15,474	
B. 執行済額		12,143	15,275	15,565	15,134	
うち交付金充当額		9,714	12,220	12,452	12,107	
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	98.1%	97.9%	97.8%	
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
データベース化資料数　5,500点	目　標	（　3,500点　）	（　50,000点　）	（　50,000点　）	（　5,500点　）
	実　績	3,500点	50,000点	78,000点	11,543点
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：・南風原文化センターに収蔵されている「民俗」「考古」「戦争」「織物」「写真」「書籍」「移民」「ビデオ」「音声テープ」等の資料のうち、平成27年度は「織物・移民」資料約1万点のデータベース化を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（24年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
データベース化済割合：87%（総点数125,000点中、データベース化済点数109,000点）点中	目　標	（　3%　）	（　74%　）	（　83%　）	（　87%　）	（　　）
	実　績	3%	44%	83%	87%	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：・平成27年度は当初5,500点としていた資料が、調査の結果その資料数が11,000点と予定より膨大な数であり、データベース化割合が増加している。資料点数は増加したが、年度内に業務を終了することができた。

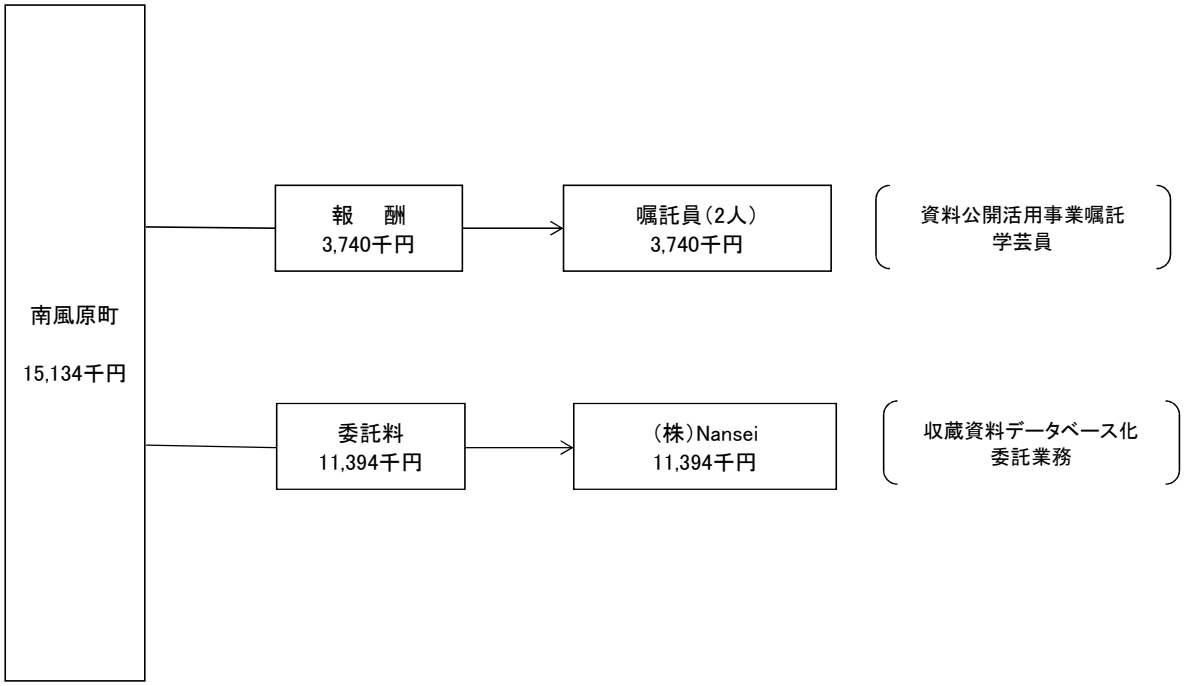
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・貴重な歴史資料の公開活用の幅を広げるため、収蔵している資料のうち平成27年度は「織り」「移民」等の資料を整理した。資料をデータベース化することで、検索が容易に行え活用の幅が広がった。 ・資料数が正確に把握できない資料などもあるため、効率よく登録業務が実施できるよう工夫を図る必要がある。	・効率よく登録業務が実施できるよう全体数を大まかに把握し、資料を分類しながら計画的に登録を実施する。

今後の取り組み方針

〇次年度は、戦争資料を登録する予定であるが、登録する際には効率よく業務が実施できるよう計画的に行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,134	15,134	12,107	3,027	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	〇	支出先の選定方法は妥当か。	〇嘱託員については直営事業であり、予算規模・費目・使途など適正であると考えている。 〇委託業務は、指名競争入札によるもので適正であると考えている。 〇費目・使途については事業目的の観点から必要なものなのか等については、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	〇	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	〇	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-③	子ども平和学習交流事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(4)－エ 文化の発信・交流
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)
事業内容	子どもたちが仲間づくりを通し、戦争や平和、差別や人権などについて、交流や研修を通し平和について広く学習を深めることを目的に、子ども平和学習交流事業を行う。				
実施方法	■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,561	1,435	2,588	2,729	
	(b) 予算現額	1,561	1,435	2,588	2,970	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	241	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	1,561	1,435	2,588	2,970	
B. 執行済額		1,451	1,283	2,254	2,882	
うち交付金充当額		1,160	1,026	1,803	2,305	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		93.0%	89.4%	87.1%	97%	
予算の状況の説明		戦後70周年に当たるため、例年の倍に人数を増やし、24人の児童が参加した。24人は、離島班と県外班に分かれそれぞれの研修を予定通り終えた。予算増は、内容を充実させるため、児童数を増やしたことによる増額である。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
子ども平和学習交流事業参加者数　24人	目　標	（　16人　）	（　12人　）	（　12人　）	（　24人　）
	実　績	16人	12人	12人	24人
事前学習、本研修ご報告会を開催	目　標	（　）	（　）	（　）	（　報告会を開催　）
	実　績				報告会を開催
達成状況説明	各小学校12人が予定どおり選考され、事前学習と、疎開体験者も含み計画通り本研修を終えることができた。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
参加児童の保護者へのアンケート・子どもによい変化が見られた：95%	目　標	（　）	（　95%　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		96%			
参加児童の保護者へのアンケート・参加後、平和や戦争、人権や差別について社会の問題に興味が湧いた児童：95%	目　標	（　）	（　95%　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		100%			
進捗状況説明	事業に参加した児童の保護者へのアンケートの結果、①研修後の児童たちによい変化が見られたと答えたのは、96%を占め、②平和や戦争、人権差別について社会問題に興味が湧いたと答えたのは、100%にのぼった。それは、「自分の意見を積極的に述べるようになった」「視野が広がったようだ」「学習に意欲が湧いてきた」「意見発表やグループ発表も自信を持ってできるようになった」「新聞をよく読むようになった」「親が知らないことをいろいろしゃべるようになった」「OB会にも興味を持って参加したがっている」「沖縄の歴史や社会が好きになったようだ」「わからないことをすぐ調べるようになった」「テレビのニュースをよく見るようになった」「学級で、積極的に級長へ立候補し、積極性が出てきた」「親戚のおばさんたちにハンセン病の話をしていた」「基地問題や広島の話など学んだことを話すようになった」「お年寄りの話に耳を傾けるようになった」「別の姉妹たちもその活動を楽しそうだと話していた」などのコメントがあった。					

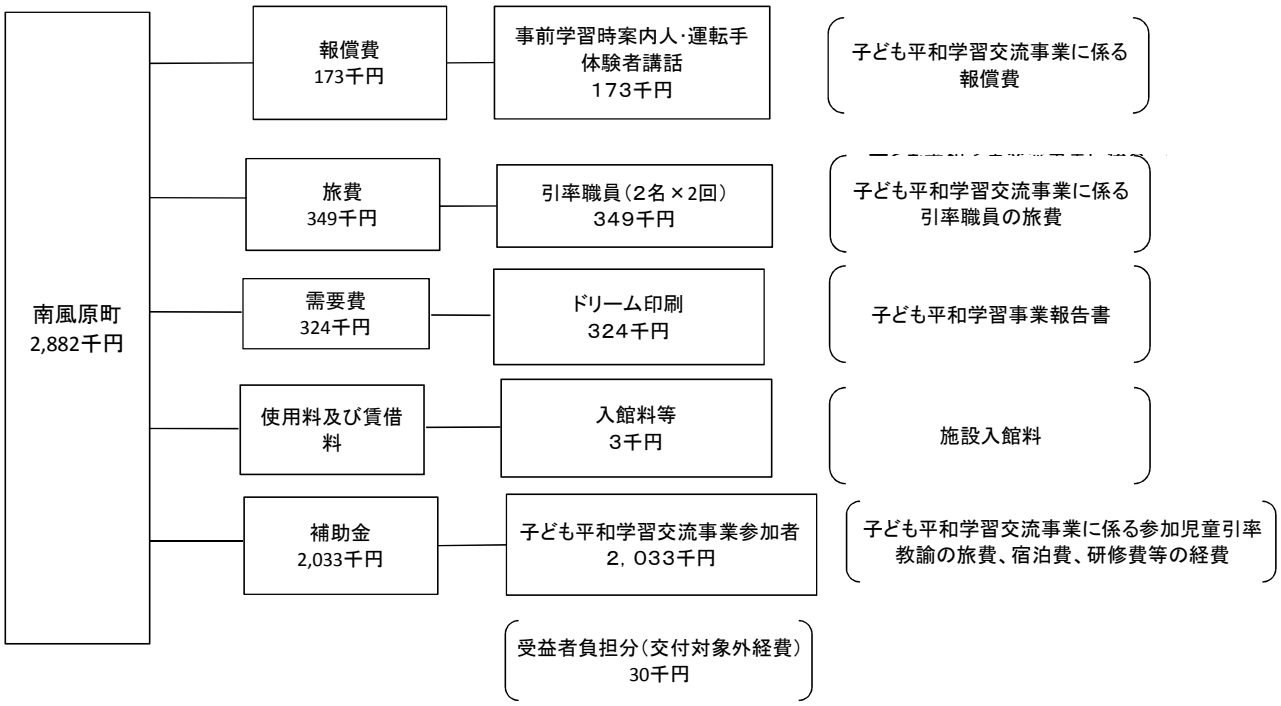
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・子ども達が平和学習を通して、戦争と平和、差別や人権などについて学習し、歴史の中での戦争や差別の問題を考える機会とするため、平和学習交流事業を実施している。平成27年度は、戦後70周年にあたるため、戦闘がなくても犠牲になった人たちの体験やその地域を訪ね実態を学んだ。児童達は、平和学習で体験した事や研修後の報告会等の活動が機会となり、平和に関する事や社会環境に関する意識が高まったようだった。（アンケートの結果100%）学習した成果は、お互いに話合いや意見交換の機会をもっと増やしたい。 ・事前学習、本研修の学習だけでなく、事後の学習にもさらに力をいれてとりくめるように促す。	・スケジュールを調整し、できるだけ話合いや意見交換の時間を設けるようにする。 ・同世代の考え方、意見に耳を傾け、自分の役割を見つけられるように、他の子どもたちとの交流の機会を作る。

今後の取り組み方針

平和学習の内容と基本的な活動の柱をまとめ、子ども同士の交流、現地の自然や沖縄の同年代の方々がどんな風に戦中・戦後を生きてきたかを知るきっかけをさらに広げる。またOB会との連携の機会を増やしたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,912	2,882	2,305	577	30



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業に必要な旅費、現地経費を見積もり等を精査し支出した。 ○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。 ○受益者との負担関係については、実施要綱に基づき自己負担をを徴収しており妥当である。 ○費目・使途が事業目的に即している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	６－④	伝統芸能保存育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（4）－ウ 文化活動を支える基盤の形成
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（2）
事業内容	町内には数多くの伝統芸能があり、各字・自治会の伝統芸能の保存や継承への取組に対し支援を行うことで伝統芸能継承を推進する。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,700	5,000	3,000	3,000	
	(b) 予算現額	5,700	2,852	3,000	1,330	
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 2,148	0	▲ 1,670	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	5,700	2,852	3,000	1,330	
B. 執行済額		5,675	2,651	2,970	1,646	
うち交付金充当額		4,540	2,120	2,376	1,317	
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）（B/A）		99.6%	93.0%	99.0%	123.8%	
予算の状況の説明		・申請は4字、各字・自治会の伝統芸能継承を推進するための助成事業を行うことができた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
伝統芸能保存育成支援件数　6件	目　標	（　10件　）	（　10件　）	（　6件　）	（　6件　）
	実　績	10件	5件	4件	4件
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：
・町内の伝統芸能継承を推進するため、字（あざ）・自治会へ、伝統芸能保存や継承への取組に必要な衣装・楽器・道具の購入に対して4件の補助金交付を行った。
・活動目標の字（あざ）・自治会への伝統芸能保存育成補助事業件数は、字によって組踊等芸能公演の計画を進めていたが、実施までに至らず、次年度以降に実施することになった地域もあるため件数が減り4件となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（24年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
年中行事等での伝統芸能上演等回数 67回	目　標	（　55回　）	（　67回　）	（　67回　）	（　67回　）	（　68回　）
	実　績	66回	67回	68回	68回	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：
・各字（あざ）・自治会への補助実施により伝統芸能上演等回数の増に繋がった。また、祭りや諸公演・発表会等へ、伝統芸能の衣装・楽器・道具が整い誇りを持って出演することができるようになった。

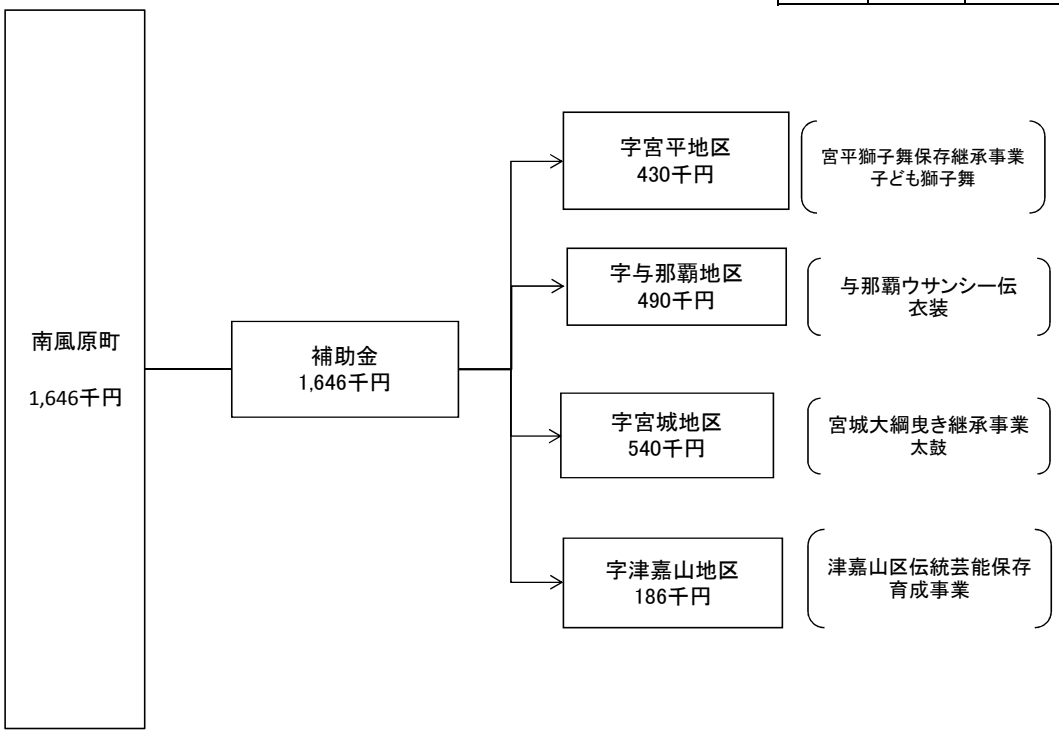
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・先の大戦で途絶えてしまった伝統芸能を復活するためには、諸先輩からの演舞など聞き取りしながら、実際の演舞は外部からの指導者を招き指導を仰ぐなど解決しなければならない課題がある。 ・年中行事の上演回数が毎年増えることはないため、評価に現れにくい面がある。 ・伝統芸能後継者を継承する後継者の育成していかなければならない。 ・社会環境の変化により練習場所の確保が難しくなっている。	・外部からの指導者を招き指導を仰ぎ伝統芸能の復活する。 ・年中行事すなわち伝統芸能も含めて継承してゆくことが必要であり、本事業で地域の伝統芸能を活性化する。 ・地域が伝統芸能継承できるように伝統芸能補助事業を継続して実施する。 ・地域と連携し練習場所の確保できるように実施する。

今後の取り組み方針

・平成27年度も各字・自治会への伝統芸能への保存や継承への取り組み（伝統芸能に必要な衣装・楽器・道具の購入）に対して助成を行い地域の伝統芸能の継承と取り組みが実施された。平成27年度に開催した民俗芸能交流会を平成28年度も継続して開催し、南風原町内外の伝統芸能演舞者を招き今後の地域の活性化につなげていくことが可能ではないかと思われる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,646	1,646	1,317	329	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金支出先は各自治会に限定されるため妥当である。 ○補助事業者は各字（あざ）・自治会の伝統芸能保存継承の取組に対して積極的であり、妥当である。 ○受益者との負担関係については、実施要綱に基づき実施しており妥当である。 ○補助金の使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について南風原町振興特別推進交付要綱に基づき額の確定時において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	６－⑤	南風原町海外移住者子弟研修生受入事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－4－（1）－ア 国際ネットワークの形成と多様な交流の推進
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（2）

事業内容

移民の文化･歴史交流を推進するため、南風原町出身の海外移住者子弟を南風原町に研修生として受け入れ、移民の歴史はもちろん、相互の文化と歴史を学習させる。帰国後は自国の研修生仲間たちと連携し南風原町とのパイプ役として活動する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,500	1,500	1,900	3,903	
	(b) 予算現額	1,500	1,500	1,900	2,303	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	▲ 1,600	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	1,500	1,500	1,900	2,303	
	B. 執行済額	1,496	1,207	1,573	2,266	
	うち交付金充当額	1,196	965	1,258	1,813	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		99.7%	80.5%	82.8%	98.4%	

予算の状況の説明

当初計画していた事業内容はすべて実施した。活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。予算減額について、当初見込んだよりも旅費単価が減になったことと、また研修生5名の受け入れ予定が、4名の受け入れとなったため、当初予算より1,600千円の減額となっている。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
･受け入れ国の数3カ国（米国ハワイ･南米3カ国ペルー･ブラジル･アルゼンチンのうち2カ国）	目　標	（　1カ国　）	（　2カ国 ハワイ･ペルー　）	（　1カ国 ペルー　）	（　3カ国 ハワイ･ペルー･ブラジル　）
	実　績	1カ国	2カ国 ハワイ･ペルー	2カ国 ブラジル･ペルー	3カ国 ハワイ･ペルー･ブラジル
･受入研修生の数：5人	目　標	（　2人　）	（　4人　）	（　2人　）	（　5人　）
	実　績	2人	4人	2人	4人
･研修成果の報告会を開催	目　標	（　－　）	（　－　）	（　－　）	（　報告会の開催　）
	実　績	－	－	－	報告会の実施

達成状況説明

研修生の予定はハワイ3人、南米2人計5人であったが、ハワイの都合で、2人になり、合計4人になった。また、研修終了後は、帰国前に研修成果の報告会を開催し、関係者にその成果を披露することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
研修後、研修生に対してアンケートを実施･研修終了後、移民史に興味が湧いた(80%)	目　標	（　）	（　80%　）			（　）
	実　績		100%			
研修後、研修生に対してアンケートを実施･日本語をさらに習得したい(80%)	目　標	（　）	（　80%　）			（　）
	実　績		100%			
研修後、研修生に対してアンケートを実施･日本や沖縄の文化や歴史に以前より関心を持つようになった(80%)	目　標	（　）	（　80%　）			（　）
	実　績		100%			

進捗状況説明

平成27年度は、夏にハワイ2人2週間、冬にアルゼンチン1人、ペルー1人の3ヶ月間で研修生を受け入れた。アンケートの結果はすこぶる良く（目標値の80%→100%）、研修後に「日本語をもっと勉強したくなった」「沖縄の方言も知りたくなった」「沖縄で出会った人と、誤解を恐れずにコミュニケーションを取るためにもっと日本語を上達させたい」「移民した私たちの祖先の歴史を確認できて有意義であった」「曾祖父がなぜ移民したか、何をして暮らしてきたかがよくわかり、もっと自分の歴史学ぶ必要を感じた」「このプログラムの意義は深く、移民先の私たちの存在意義を示してくれる価値のある事業である」などの意見がが寄せられた。

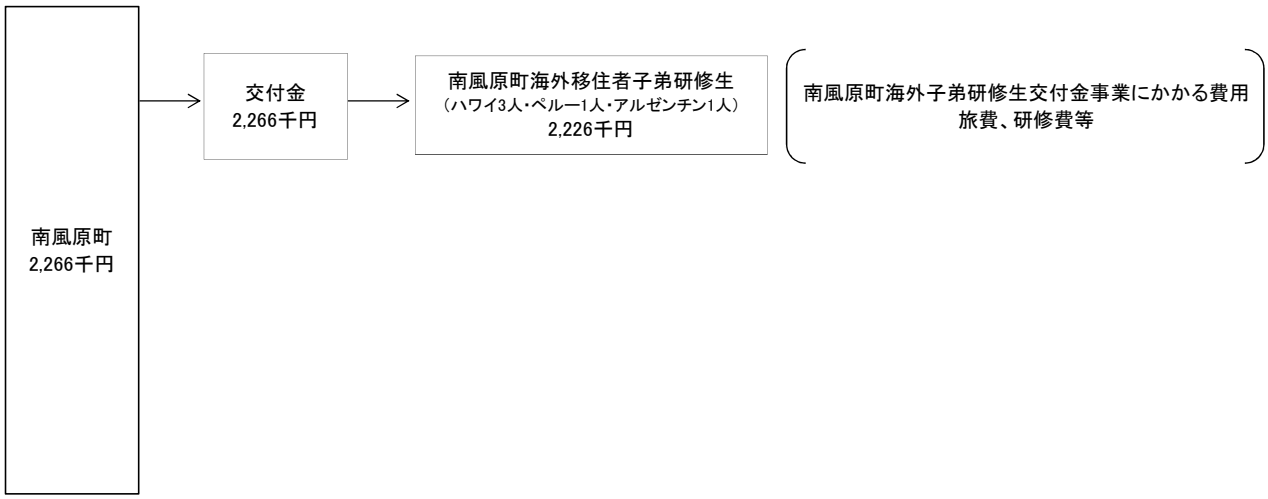
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・南風原町の出身者が移民した国からその子弟を迎えるために、相互に移民の歴史を理解する必要がある。 ・沖縄の歴史や文化に関心を持ってもらうため、研修内容の多様化を考慮する。また、さまざまな人との関わりから出会いの場を提供する。 ・研修中、研修生のホームステイをより充実したものにする。	・日本語の研修と併せ、体系的な移民の歴史の講座等を取り入れる。 ・研修期間中に、博物館や史跡見学等の研修をバランスよく取り入れる。 ・ホームステイ先の家族との繋がりをより深くするため、沖縄の文化・習慣をより多く学んでもらうために、見聞きしたものの意味や習慣の違いについては意識して説明、解説をつけるなどの配慮に心がける。

今後の取り組み方針

研修生OBたちと積極的に情報交換し、今後の交流のあり方を話し合う。 毎年研修中に各小学校での授業を行っているが、ストーリー性を製作するなどの教材の充実、回数を増やすなどの取り組みを強化し、それぞれが自国を紹介する機会を増やしたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,266	2,266	1,813	453	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は南風原町出身の海外移住者のみと限定しており、支出先として妥当である。 ○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。 ○受益者との負担関係については、実施要綱に基づき自己負担をを徴収しており妥当である。 ○費目・使途が事業目的に即している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	６－⑥	南風原町民俗芸能交流会開催事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（4）－イ 文化の担い手の育成
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成２６年～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（2）
事業内容	町内各地にある伝統芸能を披露する場、他地域と交流する場を設け、新たな世代へ地域の伝統芸能を継承し、地域活性化を図るため南風原町民俗芸能交流会を行う。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,050	1,180			
	(b) 予算現額	1,050	1,330			
	(c) 増減額 (b-a)	0	150			
	(d) 繰越額	－	－			
	A. 計 (b+d)	1,050	1,330			
B. 執行済額		970	1,082			
うち交付金充当額		776	865			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		92.4%	81.4%			

予算の状況の説明

５団体の出演もあり、予算の執行率も高い。150千円の増額については、当初の予定より出演者等が増えることが想定されたため報償費の増加を行った。
また、不用額については当初の予定より出演者は増えたたが報償費の増額分よりは出演者が少なかったため、不用額が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
第27回民俗芸能交流会開催	目　標	（民俗芸能交流会開催）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1回開催			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

10年ぶりに復活し、2年連続で開催した「民俗芸能交流会」では、予定以上に各字の演目の復活を見、町内5字で狂言を含む11演目が上演された。民俗芸能は、各字ごとの伝統文化であり、その取り組みの努力が評価される。これまでの交流会では、他市町村の芸能を招いて行われたが、復活した今回は、町内のみの復活芸能でプログラムが埋まった。今後に大いに期待が寄せられる。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
民俗芸能交流会参加者　450人以上	目　標	（　）	（450人以上）	（450人以上）	（　）	（　）
	実　績		500人	500人		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

今回の「民俗芸能交流会」の復活は、時期を得たものであり、各字が刺激し合って、地域の埋もれた芸能を区民の努力によって、復活させることができた。芸能は青年たちの地域に対する意識を高め、自分たちの文化や歴史に誇りを持ち、先輩たちとの絆を深めることができた。

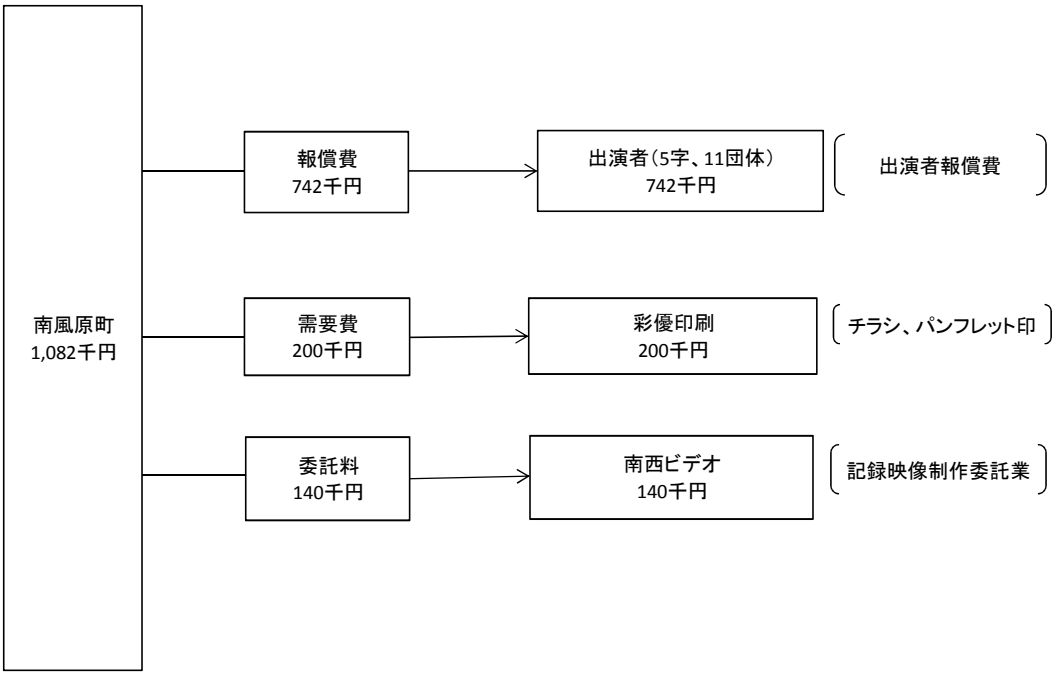
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・新たな世代に地域の伝統芸能を継承し、地域の伝統芸能を創造するため、民俗芸能交流会を開催した。 ・これまで25年にわたり開催してきた芸能交流会の10年ぶり、2年連続での開催は、ふたたび民俗芸能熱を湧かせる。そのために各字の保存会が情報交換しやすいように、南風原町民俗芸能保存会を立ち上げ、その役割を果たす必要がある。 ・町の文化財指定された芸能だが、現在途切れている地域の芸能について復活を検討する必要がある。 ・今後、相互の刺激と切磋琢磨のため、他の地域を招待するための予算と受け入れ体制を整える必要があり、さななる調査・検討が必要である。	・各字で復活の機運があがる芸能について、できる限りの資料や情報の提供を行う。（映像記録・町史民俗芸能の記述など） ・行政での文化財指定芸能の現況の把握を行い、地域の理解を得るながら、復活するへの協力をする。 ・他地域の同演目情報を積極的に取り入れ、復活のための協力をする。 復活に向けての予算措置を考える。（補助金の交付など）

今後の取り組み方針

出演していただく地域、演目については調査員が精査し、南風原町の出演予定の演目との関連性や復活にふさわしい影響力のある演目を選定したい。互いに上演、交流することによって、今後の民俗芸能の継承発展に寄与できるようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,082	1,082	865	217	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・出演団体の選定については、各字、南風原町民俗芸能保存会と相談し妥当な選択であった。 ・予算規模は事業内容に見合った適正な規模である。 ・費目、使途については、無理無駄なく必要なものに支払いされ妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	６－⑦	プロジェクトヒュート補助事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－（1）－ア 地域を大切にし、誇りに思う健全な青少年の育成
担当部課名	教育部　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成２６～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（2）
事業内容	新たな地域活性化、人と人の交流を生み出すために南風原町の伝説、課題や話題などをモチーフにしたショーを通して、多くの人々に町の伝承文化や行事などの普及に努めている「チームTHE飛勇人（ひゅーと）」の活動に対して支援を行う。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,956	1,920			
	(b) 予算現額	1,956	1,920			
	(c) 増減額 (b-a)	0	0			
	(d) 繰越額	－	－			
	A. 計 (b+d)	1,956	1,920			
B. 執行済額		1,465	1,025			
うち交付金充当額		1,172	820			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		74.9%	53.4%			

予算の状況の説明：執行率が低い値となっているが、計画していた配布用の印刷物について、当初計画より印刷枚数が下回ったことと、ショーの出演者数が予定より下回ったことによるものであり、予定していた活動は全て実施できた。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28度	29年度
・学校等公演の充実と強化	目　標	（充実と強化）	（充実と強化）	（　）	（　）
	実　績	充実と強化	充実と強化		
・年間公演回数：5回	目　標	（5回）	（5回）	（　）	（　）
	実　績	5回	5回		
・オリジナル教材の開発（学校の授業で使用）	目　標	（　）	（オリジナル教材の開発）	（　）	（　）
	実　績		オリジナル教材の開発		

達成状況説明：「チームTHE飛勇人（ひゅーと）」の認知度も上がってきており、出演依頼が増えるようになってきたため、活動を充実させることができた。ショーを開催する公演は目標を達成でき、その他にも各種イベントなどにも多く出演することができた。学校の授業へ出演する際には、学校との事前調整を行い、主旨に添ったオリジナル教材を開発することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
・イベントやショー後にアンケートを実施 ＊地域の伝説や民話の理解を深めた＝60%	目　標	（　）	（60%）	（　）	（　）	（　）
	実　績		別アンケートで感想を回収			
・イベントやショー後にアンケートを実施 ＊新しいキャラクターに楽しさや親しみを覚えた＝60%	目　標	（　）	（60%）	（　）	（　）	（　）
	実　績		別アンケートで感想を回収			
・町内各字の伝統文化の啓発を図る。	目　標	（　）	（啓発を図る）	（　）	（　）	（　）
	実　績		啓発を図った			

	進捗状況説明	各種イベントや、ステージでは南風原の歴史や課題、話題をモチーフにした活動を行っており、その内容もストーリー性を強化し、新しいメンバーの個性も活かしながら活動している。 ・短時間のショーが多く、アンケートを回収するに至らなかったり、イベントによってはスタッフ不足になることもあった。 ・学校での授業へ出演した際には、学校の希望するテーマを設定するため、アンケートで感想を回収した。アンケートからは、ショーを通し、活動の目的などを達成することができたことや、キャラクターを通して授業を行うことにより効果があったという結果が得られた。

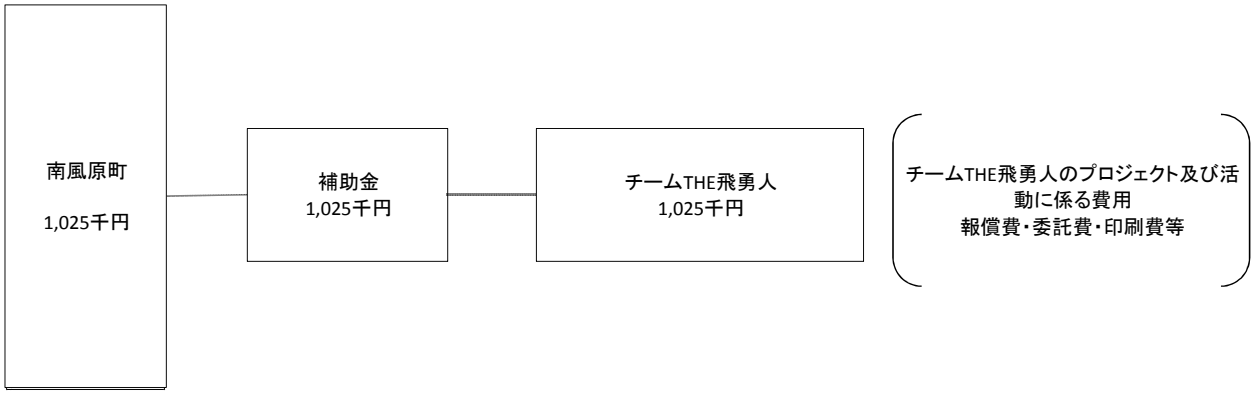
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・チームTHE飛勇人のメンバーそれぞれの仕事が忙しくなり、活動の時間が制約された。そのため、事務局、公演時の裏方スタッフが不足した。 ・広報活動に力を入れようとするが効果的な周知PR活動のノウハウが蓄積されていないことから、十分な広報活動が出来なかった。 ・個別の感想や意見は寄せられているが、成果目標の実績を評価するためのアンケートが回収できなかった。 ・学校での公演は、学校の希望するテーマを脚本にしたりするため、設定したアンケートとは別の感想が寄せられた。アンケートはその時のショーにあった内容にするべき。 ・平成27年度に新しいメンバーが一人入り、新たな役割分担をすることができた。	・週間、月間、年間計画をより具体的にし、公演時の裏方スタッフの確保に努める。 ・広報活動の強化と工夫をする。また、公演の機会を増やすため、町内の小学校や児童館と連携する。 ・観客の確実な感想や反応を把握し、ショーの効果が検証できるよう、アンケートや感想を検証し、効果の向上に努める。また、配付・回収スタッフの確保や回収方法の工夫に努める。

今後の取り組み方針

・キャラクターがそれぞれ、伝説や民話から生まれているので、その地域との連携を考えた取り組みをしていきたい。
・学校や児童館、保育園、幼稚園等で教材としていかされる内容や、資料の制作に力を入れていく。
・裏方スタッフ、新メンバーを募集して、活動に支障がないようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,025	1,025	820	205	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・当該補助団体については、多くの人々に対し町の伝承文化や行事などの普及を行っていることから、支出先として適正であった。 ・事業達成に必要な分の金額のみを支出し、適正な予算規模で実施している。 ・受益者との負担関係については、実施要綱に基づき自己負担を徴収しており妥当である。 ・費目・使途についてはプロジェクト飛勇人の活動に必要な費用にのみ充てられており、事業目的に即し真に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-⑧	戦争証言資料管理システム導入事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－（5）－イ 戦後処理問題の解決
担当部課名	民生部　こども課	事業実施（予定）年度	平成26～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（2）

事業内容

悲惨な戦争体験を風化させず後世に語り継ぐことができるよう、援護業務で得られた戦時中の生の証言資料を整理し、平和事業や平和学習に活用するため、南風原町で保管する紙ベースの戦没者台帳をデータベース化し戦没者遺族等から得られた戦没時の悲惨な実態証言を加えたシステムを構築し管理する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,384	4,832			
	(b) 予算現額	6,348	3,995			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,036	▲ 837			
	(d) 繰越額	－	－			
	A. 計 (b+d)	6,348	3,995			
B. 執行済額		6,002	3,791			
うち交付金充当額		4,802	3,033			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		94.5%	94.9%			

予算の状況の説明

臨時職員が体調不良のために欠勤したり、中途退職して新規採用が遅れたこともあり、837千円減額したが、当初計画した事業内容はすべて実施した。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
戦争証言資料管理システム基礎データの整備（戦没者約2，300名分のデータ）	目　標	（データ整備 4,700名分）	（データ整備 約2,300名分）	（　）	（　）
	実　績	データ整備 4,178名分	データ整備 2,423名分		
戦争証言資料の整備（約455件）	目　標	（　）	（データ整備 約455件）	（　）	（　）
	実　績		データ整備 1,596件		
データ入力作業員3人	目　標	（　）	（臨時職員 3人配置）	（　）	（　）
	実　績		臨時職員 3人配置		

達成状況説明

基礎データの整備に関しては、前年度入力を行った内容の確認と新規の入力を合わせて、2，423名分のデータ整備を行った。その結果、全部で4，821名分の基礎データを整備することができた。
また、戦争証言資料については当初予定していた約455件以外にも資料が見つかった。その結果、6歳未満の戦没者の行動経過書が373件、戦闘参加者申立書が1，223件、合計で1，596件の証言を入力し整備することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
戦争証言資料管理システム基礎データ整備率：100%（基礎データ整備及び証言資料の整備をもって100%とする。）	目　標	（　）	（100%）	（100%）	（　）	（　）
	実　績		80%	100%		

進捗状況説明

基礎データには戦没者の「死亡場所」「死亡理由」「身分」「年齢」などが含まれており、整備したことによりその内容や件数の把握ができるようになった。また、基礎データは戦争証言の内容の裏付け資料としても重要である。
戦争証言をデータ化し整備することにより、平和事業や平和学習に容易に活用する事ができるようになった。
これまで紙ベースだった資料をデータベース化することにより、半永久的に保存・管理することができるようになった。

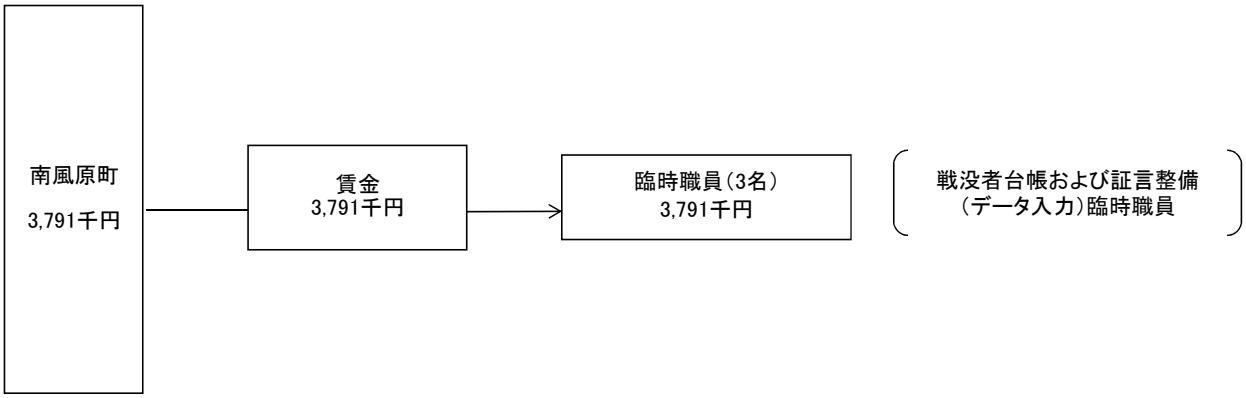
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	文化センターで活用するためには文化センターの職員もシステムを使い慣れる必要があったが、まだ充分に操作をできていない。	平和事業や平和学習に活用する際に業務がスムーズに行えるよう、文化センター職員に対してシステム操作の説明会を行う。

今後の取り組み方針

戦後間もない時期に戦没者の遺族等から得られた資料（証言）は、戦争体験者の記憶がまだ新しい時期にまとめられたもので、当時を知るうえで大変貴重な資料である。
今後は文化センターと連携を取り、平和事業や平和学習に活用していく。
※平成２８年６月に文化センターで行われる企画展で、資料を展示する予定）

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,791	3,791	3,033	758	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○臨時職員の選定はパソコンのデータ入力が可能かを確認して行っているため、選定方法は妥当である。 ○臨時職員の給与は南風原町の規則に基づき支払っており、また目標達成するのに必要最低限な人数だったため、予算規模は適正である。 ○臨時職員は戦没者台帳及び証言整備のデータ入力やその確認作業をおこない、事業目的に即した業務を行った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-⑪	沖縄県人カナダ移民115周年記念式典派遣事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－4－（1）－（ア） 国際ネットワークの形成と多様な交流の推進
担当部課名	総務部　企画財政課	事業実施（予定）年度	平成27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（2）

事業内容

カナダアルバータ州レスブリッジ市で開催される沖縄県人カナダ移民115周年記念式典へ町内の伝統芸能団体を派遣し、沖縄の伝統文化のPRを行うと同時に、ウチナーネットワークを構築する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	12,457				
	(b) 予算現額	7,761				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 4,696				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	7,761				
B. 執行済額		7,761				
うち交付金充当額		6,208				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明

当初見込んだよりも旅費単価が減になったことと、20名の参加予定であったが、1名の辞退者が出たため　当初予算より4,696千円の減額となっている。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
伝統芸能公演回数	目　標	（　2回　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	3回			
伝統芸能団体の派遣	目　標	（　20名　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	19名			
現地での県人会との交流活動	目　標	（　実施　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	実施			

達成状況説明

派遣した津嘉山青年会の伝統芸能であるエイサーと鉦鼓隊の演舞を3回実施することができた（市役所、記念式典、交流ピクニック）。派遣者は20名で予定をしていたが、1名辞退者が出たため19名の派遣となった。記念式典や交流ピクニックなどで、現地県人会と様々な場面で伝統芸能を通した交流を行った他、会場設営などにも携わり、県人会と交流活動を行うことが出来た。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
派遣報告会の開催	目　標	（　　）	（報告会開催）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		報告会開催			
現地団体との伝統芸能交流の実施	目　標	（　　）	（　実施　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		実施			

進捗状況説明

帰国後の9月15日に報告会を開催し、写真や動画による事業報告や、派遣者の感想や今後の抱負などが述べられ、有意義な報告会となった。

式典などで披露したエイサーや津嘉山地区特有の伝統芸能である鉦鼓隊の演舞は現地県人会のメンバーにとっては普段見ることができない沖縄の伝統芸能であり、衣装や道具、演舞、歴史などについて質問する県人会メンバーも多く、伝統芸能を通した交流が図られた。

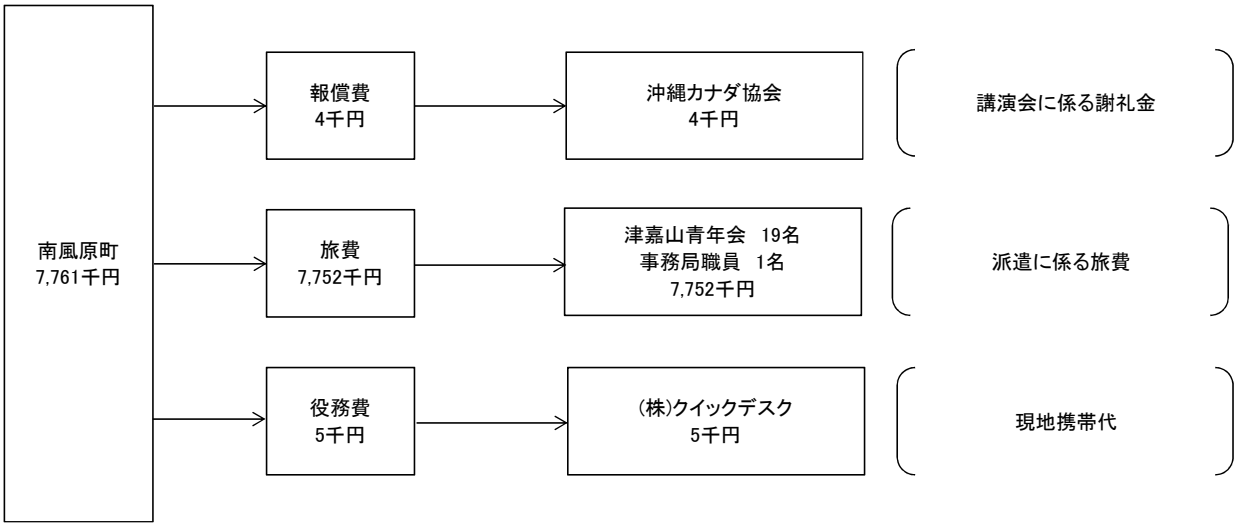
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	国外におけるウチナーネットワークを強固なものにする上で、県人会との交流活動は必要なことであり、本事業において伝統芸能を現地県人会のイベントで披露することが出来たのは現地県人会にとってとても意義のある交流であった。 また、派遣した青年会においても国外とのネットワークを意識した活動を続けることができるよう取り組む必要がある。	今後も県人会と情報交換を行いながら継続的な交流活動が行えるよう取り組むことで、県人会とのネットワークを強固なものにすることができる。 県人会活動に合わせて町内の伝統芸能団体を結びつけることができるよう取り組むことにより伝統芸能を通し双方の活動が活発になっていくものと想定される。

今後の取り組み方針

南風原町はカナダレスブリッジ市と友好都市を締結しているため、レスブリッジ市や県人会などと情報交換を行いながら、三者間での交流を活発化できるように取り組んでいく。
派遣した伝統芸能団体が世界のウチナーンチュ大会など、国外県人会との交流を続けることができる機会を創出できるよう取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,761	7,761	6,208	1,553	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先においてはその価格や目的に沿ったものであり、適正な支出であった。 ○予算規模は当初見込額より減額となったが、事業実施内容や目的は達成できたため、適正であった。 ○費目・使途については事業の目的である交流活動やそのための事前学習、現地での調整活動など、必要最小限の内容であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－⑫	平和の日推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－4－（2）－ウ アジア・太平洋地域の安定と平和に資する平和・人権協力外交の展開
担当部課名	総務部　総務課		事業実施（予定）年度	平成27～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（2）

事業内容	10月12日の「町民平和の日」にあわせて平和を祈念し、町民の平和意識の高揚を図るために音楽コンサートを開催する。
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,500				
	(b) 予算現額	2,500				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	2,500				
B. 執行済額		2,490				
うち交付金充当額		1,992				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		99.6%				
予算の状況の説明		業務委託により南風原町平和コンサートを実施した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
平和コンサートの開催	目　標	（　1回　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1回			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	10月12日に南風原町役場に隣接する町民広場において「南風原町平和コンサート」を実施した。 観客動員数目標300人に対して、約250名の参加にとどまったが平和意識の高揚や平和の尊さを再認識する事ができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（33年度）
平和コンサートの開催 観客動員数　300人	目　標	（　）	（観客動員数　300人）	（　）	（　）	（　）
	実　績		観客動員数 250人			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	「南風原町平和コンサート」会場において来場者アンケートを実施し、8割の方から「満足」との回答が得られた。 また、8割の方から平和についての関心や理解が「深まった」との回答が得られた。 成果目標未達成の要因は平日に開催したことや会場が狭かったこと等、町民のニーズに合った内容ではなかった事が推測されるため、次年度以降は開催日や会場等を変える等して目標達成に向けて取り組む。

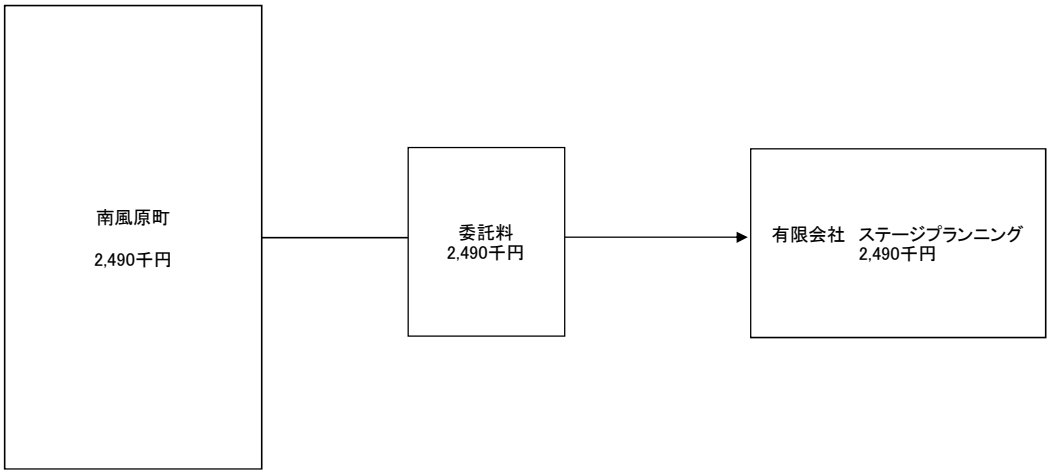
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・終戦から70年以上が経過し戦争の歴史的教訓が年々風化しており二度と戦争を起こさないという教訓を音楽コンサートを通して考える機会を創出する必要があった。 平日に開催したことや会場が狭かったこと等、町民のニーズに合った内容ではなかった事が推測されますので、次年度は開催日や会場等を変えて開催する。	観客動員目標人数に達していなかったため、目標達成に向けた改善が必要である。また、参加者の年代構成をみると、50代や60代の参加者が多く20代や30代の参加者が少なかった。若い年代にも平和意識の高揚や尊さを再認識していただく必要性があるため改善していく必要がある。

今後の取り組み方針

次年度は、観客動員目標人数達成に向けて開催場所及び方法等を検討し目標達成に向けて取り組む。
また、参加者の年代構成についても、20代や30代の参加者が多くなる様プログラムの構成についても検討する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,490	2,490	1,992	498	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業内容や観客動員の目標値等、総合的に判断した結果受託業者を随意契約により選定し、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	６－⑬	「南風原の学童疎開」映像製作事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（4）－ウ 文化活動を支える基盤の形成
担当部課名	教育部　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	Ｈ２７	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（2）

事業内容

南風原の学童疎開について、疎開地の様子、体験者の語りを含めその概要と現状を紹介する映像DVDを2種類制作する。一つは記録映像で、証言者の語りなどをできるだけ記録したものと、学校の授業で使えるように教育普及版として映像資料を制作する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,053				
	(b) 予算現額	3,053				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	3,053				
B. 執行済額		3,053				
うち交付金充当額		2,442				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明

委託料の30%を前払い金として支払いし、11人の証言映像を撮影に取りかかった。所蔵資料のスキャン、過去映像の選択と編集を進め、証言を間に入れるなどの全体の編集作業の取りかかってもらった。予定通りの執行ができた。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
来年度の活用に向けて、「南風原の学童疎開」についての情報記録を整理し、記録映像DVDを2種類制作する。	目　標	（　2種類　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	2種類			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明

短期間にもかかわらず、証言者の協力により、11人の証言を収録することができた。南風原の学童疎開の概要を盛り込むため、期間の『南風原の学童疎開』を活用し、熊本疎開、宮崎疎開を説明入りで約30分に収めることができた。教材用は、DVDとブルーレイを制作。もう1種類の記録映像は、各証言者の証言を収録した記録映像である。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
平和学習資料、あるいは授業で活用できる教材として、来年度から他の資料と共に、文化センターでの上映、貸し出し用として活用する。	目　標	（　　）	（ 映像製作 ）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		製作完了			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明

映像制作は業者に委託しているが、内容･脚本については話合い、証言者は体験者の中から11人を紹介し、証言を録画することができた。以前南風原町史で発刊した『南風原の学童疎開』を基に、映像を構成し証言を挟んだ。短期間ではあったが、ほぼ予定通りに執行され、編集の最終段階で関連の貴重な資料が出てきたことから契約を変更し、履行期間を延長して、撮影編集を行った。来年度（H28）より活用できるように、平成27年度内で完成することができた。平成28年度に入り、平和学習等の授業で学童疎開者の証言を聞く前に、事前学習でも、各小学校4校の4年生が活用した。

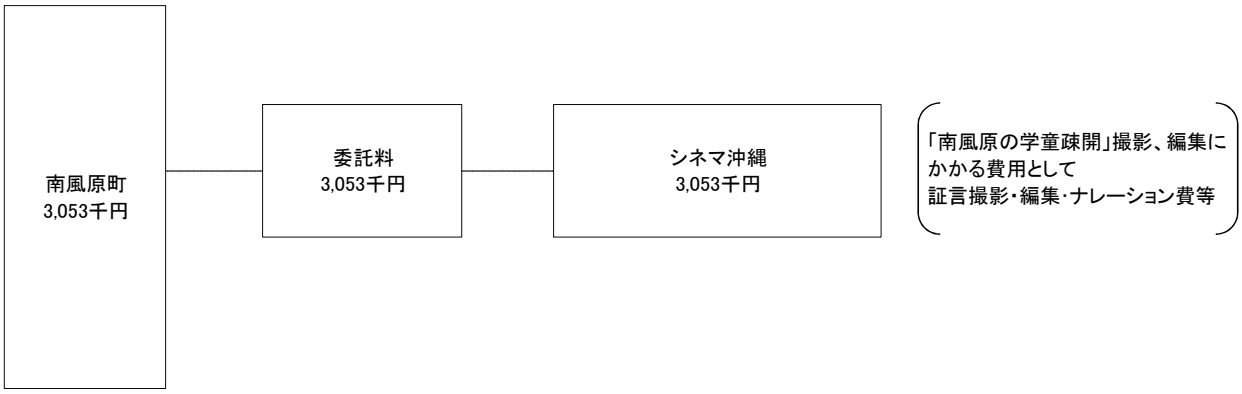
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・疎開地のバランスを考えつつ、学童疎開の概要がわかるように説明を加えた映像にした。 ・授業で活用しやすいように、32分に収められるように編集した。	・体験者のバランスを取り、証言を切り取って、全体の話がわかりやすいように編集した。 ・写真部分と動画部分のバランスや、バックミュージック、テロップの編集で、時間調整をした。

今後の取り組み方針

制作したDVDは、文化センター出常備し、各学校や団体への貸し出し、平和学習などでの上映会を開催する。学童疎開のみではなく、沖縄戦ややんばる疎開等、体験毎の映像を早急に作成できるようそのノウハウをつなげていきたい。また、これまで撮影した映像も活かしながら、教材として使える映像として加えていきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,053	3,053	2,442	611	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・事業目的に沿った業者への支出のため、選定は妥当である。 ・事業に必要な委託料の内、報償費、機材費、需要費等を見積もり精査し支出している。 ・事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7－①	長寿県復活食の応援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(1)－ア 沖縄の食や風土に支えられた健康づくりの推進
担当部課名	民生部　保健福祉課	事業実施（予定）年度	平成25～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－4

事業内容

「健康長寿おきなわ」の復活に向けて、生活習慣病の発症や重症化を予防するために、町民へ食習慣の実態や課題を伝え、①個々人の食事の基準量を伝える。②食品に含まれる油の量を伝える。③油を使わない料理、野菜の摂取を増やすための料理を伝えていく。具体的な方法として、健康レシピカレンダーを世帯と事業所に配布し、保健センターの壁面にラッピングし、町民への周知と普及を図る。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,875	4,959	5,558		
	(b) 予算現額	5,481	4,959	5,558		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,394	0	0		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	5,481	4,959	5,558		
B. 執行済額		5,313	4,747	5,109		
うち交付金充当額		4,250	3,797	4,086		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		96.9%	95.7%	91.9%		

予算の状況の説明：・入札による健康カレンダー、擁壁ラッピングが予定価格よりも低く作成できたため、執行率92%となった。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
健康レシピカレンダーの作成（世帯配布用12，000部、事業所配布用1，000部）	目　標	（　12，000部　）	（　各世帯配布　）	（　13，000部　）	（　　）
	実　績	12，000部	各世帯配布	13，000部	
壁面ラッピングの作成	目　標	（　－　）	（　－　）	（　4面　）	（　　）
	実　績	－	－	4面	

達成状況説明：
・健康レシピつきカレンダーを家庭用（12.000部）と事業所用（1，000部）を作成し、配布を行った。
・ライフサイクル別の野菜の基準量などを周知するため保健センターの壁面を活用し壁面ラッピングを行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
野菜の摂取を増やす方法がわかった人	目　標	（　　）	（　30%　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		33.2%			
野菜の基準量がわかった人	目　標	（　　）	（　30%　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		33.2%			

進捗状況説明：
・野菜の必要性、基準量、摂取する方法について各種保健事業の受診者および参加者へ保健指導等を通して周知を行った。また、保健センター壁面ラッピングは年間を通して周知することができた。

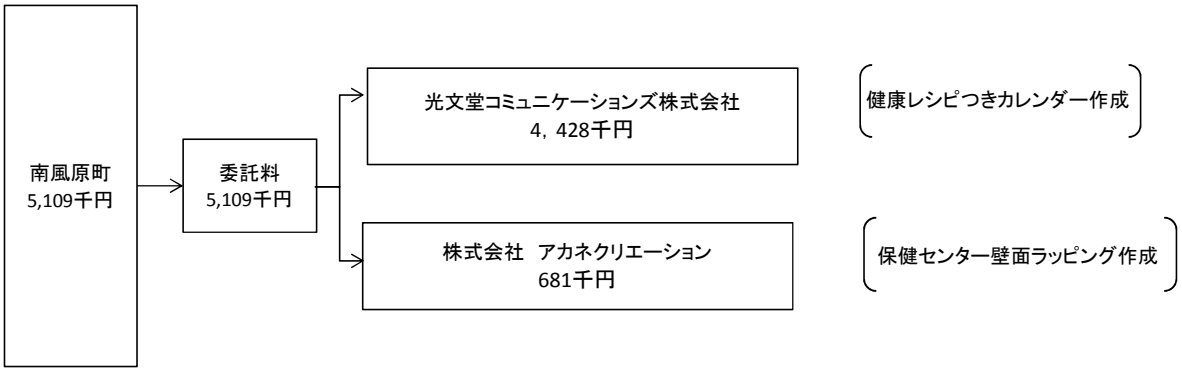
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・各種保健事業の際の保健指導等で健康レシピカレンダー活用による野菜の必要性や基準量、多く摂取する方法の周知を行っているところであるが、保健事業参加者への保健指導の際に野菜の基準量等を確認すると、野菜の必要性はわかるが個人の基準量まで認知されている方は多くないことから町民の食生活習慣改善に向けて、継続した周知が必要であることが分かった。	・野菜の必要性、基準量、多く摂取する方法について、より住民のニーズを踏まえた周知内容としていきたい。また、多くの町民に継続した周知ができるように、各種保健事業の参加者増に向けて、同事業と連動させて考えていきたい。

今後の取り組み方針

・健康長寿の復活を目指し、今後も継続して町民へ①個々人の基準量を伝える（特に野菜と油）②食品に含まれている油の量を伝える③油を控えた料理、野菜の摂取量を増やす料理を伝えることを活動目標に事業を展開予定である。本町においては健診データに基づく保健指導等と連動させて本事業の目標達成に向けて事業を展開しているが、学童期においては生活習慣病に即した健診が実施されていないことから、児童および保護者が食生活習慣等の改善に向けてより具体的にイメージ出来るように、平成28年度は健康カレンダー付きレシピの配布に加え、学童期における生活習慣病予防対策を計画した。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,109	5,109	4,086	1,023	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者選定にあたっては指名型プロポーザル方式により実績、事業趣旨理解等を勘案したうえで選定しており妥当であったと考える。また指名競争入札により町の条例等に準じて選定しており妥当であったと考える。 ○予算規模は事業内容に見合った適正な規模である。 ○費用・使途については、支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	